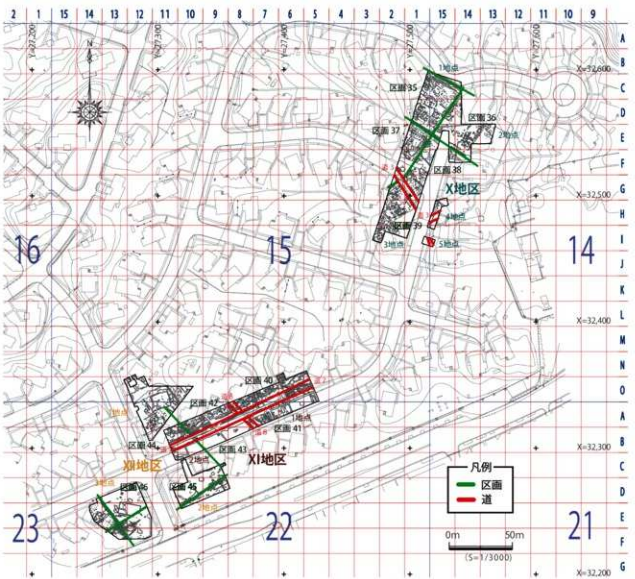
第５節　近世～近代

第１項　遺構

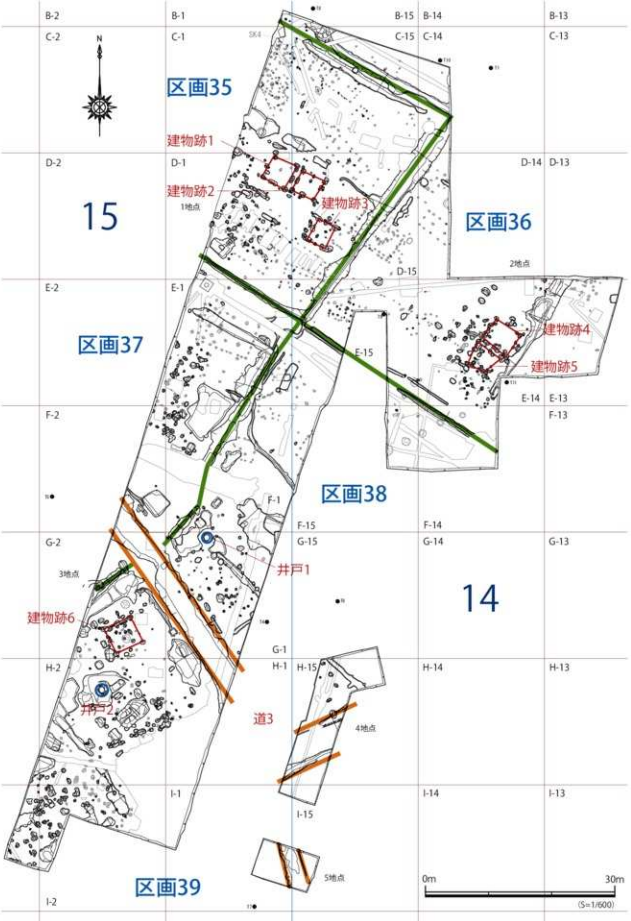
近世～近代の遺構は、ピット、土坑、方形石組遺構、桝状遺構、井戸、炉跡、溝跡、道跡等がある。溝跡は、軸が一定方向に延びる状況で検出されており、屋敷や畑等の区画を示すものと考えられる。前回報告したⅦ～Ⅸ地区までの調査区全体で 34 の区画を想定したが、今回報告するⅩ～ⅩⅡ地区の調査においては、これまで想定された 34 の区画とさらに連結する形で新たな区画を想定することができた。今報告では、これまでの区画を踏襲しつつ、新たに想定された区画については区画 35 から 46 まで連番を付した。

道跡については、昭和 20 年の古写真との重ね図から、空間を区画するだけでなく道跡として想定できるものがあり、Ⅹ地区では前回報告した道３の続きとみられる溝跡や石列、ⅩⅠ地区で検出された石列の側溝を伴う道跡や溝跡を道７・道８として想定できた。また、Ⅵ地区の６地点で検出された溝跡は道跡の可能性があるものとして既に報告しているが、再度検討した結果、道跡として考えられ道９とした。

その結果、Ⅰ～ⅩⅡ地区全体で想定される区画数は 46、道数は９となった（第 51 図）。建物跡についてはⅩ～ⅩⅡ地区全体で７棟確認され、これらは区画に伴う建物跡として考えられる。以下、近代～近代の遺構を区画ごとに報告する。



第 51 図　近世～近代の遺構１　全体図（Ⅹ～ⅩⅡ地区）



第 52 図　近世～近代の遺構 2　区画 35 ～ 39・道 3 全体図（X 地区）

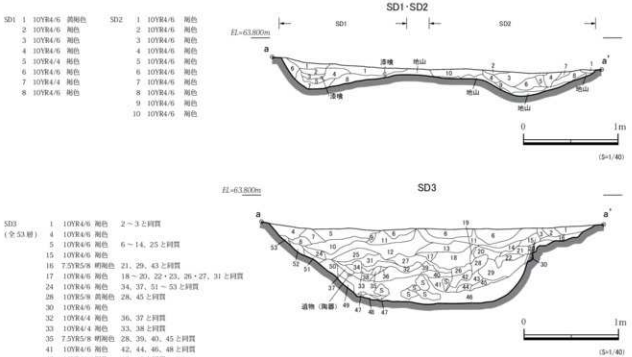
Ｘ地区（区画 35 ～ 39、道３）

Ｘ地区では、区画 35 ～ 39 の５つの区画と道３を想定できた。区画 39 の遺構密度は高い。井戸は２基確認されている。道３は、道７・８とまとめて報告する。

区画 35（Ｘ地区）

Ｘ地区１地点 14-C14・C15・D15・E15、15-C １・D １グリッドに位置する。東側に区画 36、南側に区画 37、南東側に区画 38 と隣接する。

溝跡（SD １～４）により、空間を囲うように方形状に区画されており、その中に建物跡・ピット、土坑、溝跡などが確認されている。SD ３は北東－南西方向に延び区画 35・36 を区画するもので、溝の底には石列や礫のまとまりが検出されている。溝跡からは、近世～近代の遺物とともに、縄文～グスク時代の遺物が出土している。



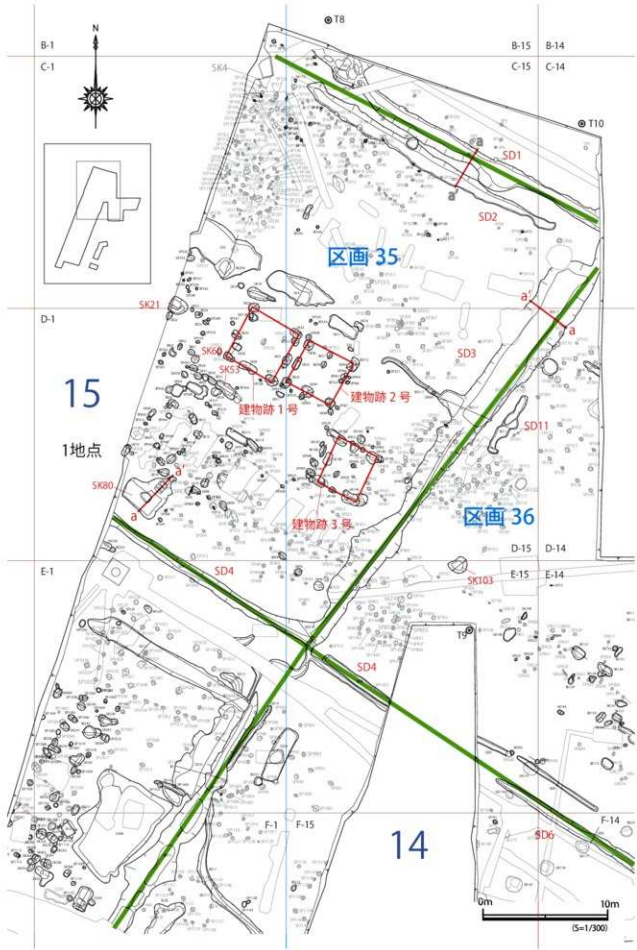
SD1　1　10YR4/6　褐色　　SD2　1　10YR4/6　褐色
2　10YR4/6　褐色　　2　10YR4/6　褐色
3　10YR4/6　褐色　　3　10YR4/6　褐色
4　10YR4/6　褐色　　4　10YR4/6　褐色
5　10YR4/4　褐色　　5　10YR4/6　褐色
6　10YR4/6　褐色　　6　10YR4/6　褐色
7　10YR4/4　褐色　　7　10YR4/6　褐色
8　10YR4/6　褐色　　8　10YR4/6　褐色
9　10YR4/6　褐色
10　10YR4/6　褐色

SD3　1　10YR4/6　褐色　2～３と同質
（全 53 層）　4　10YR4/6　褐色
5　10YR4/6　褐色　6～14、25 と同質
15　10YR4/6　褐色
16　7.5YR5/8　明褐色　21、29、43 と同質
17　10YR4/6　褐色　18～20、22・23、26・27、31 と同質
24　10YR4/6　褐色　34、37、51～53 と同質
28　10YR5/8　黄褐色　28、45 と同質
30　10YR4/6　褐色
32　10YR4/4　褐色　36、37 と同質
33　10YR4/4　褐色　33、38 と同質
35　7.5YR5/8　明褐色　28、39、40、45 と同質
41　10YR4/6　褐色　42、44、46、48 と同質
47　10YR4/6　褐色　47、49 と同質
50　10YR5/8　黄褐色

SD1・2　断面　西から

SD3　礫検出状況　北東から

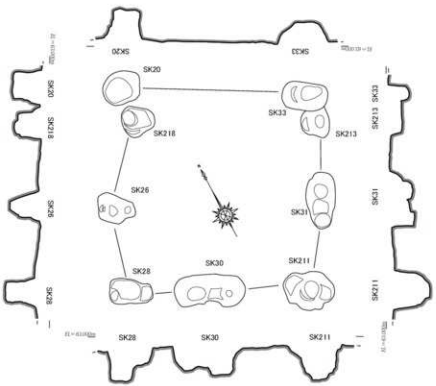
第 53 図　近世～近代の遺構３　区画 35（Ｘ地区）



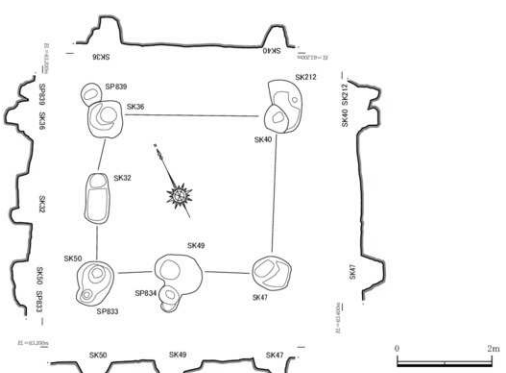
第 54 図　近世～近代の遺構４　区画 35 全体図（Ｘ地区）

建物跡１～３号は方形のプランを呈しており、区画中央部に位置する。建物跡１号と２号は東西で隣接しており、建物跡３号は、１・２号の南東側に位置する。建物跡の向きは区画の向きと揃っており、北西－南東方向に延びるSD1・2・4の向きと平行する。建物跡１号は、規模4.3×4.0ｍ、面積17.2㎡で近世～近代の遺物が出土する。建物跡２号は、規模3.6×3.4ｍ、面積12.2㎡である。建物跡３号は3.7×3.0ｍで面積11.1㎡である。穴屋「アナヤー」とよばれる掘立小屋の構造で茅葺きとなる建物である。

建物跡１号

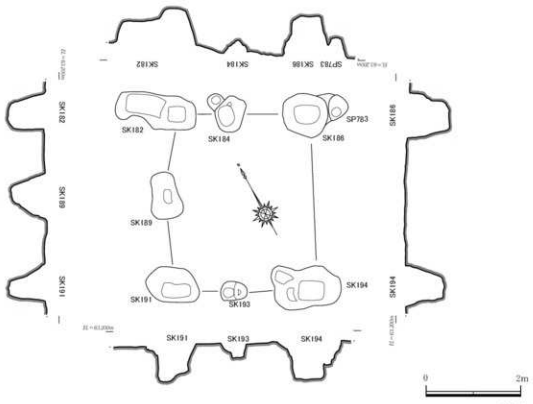


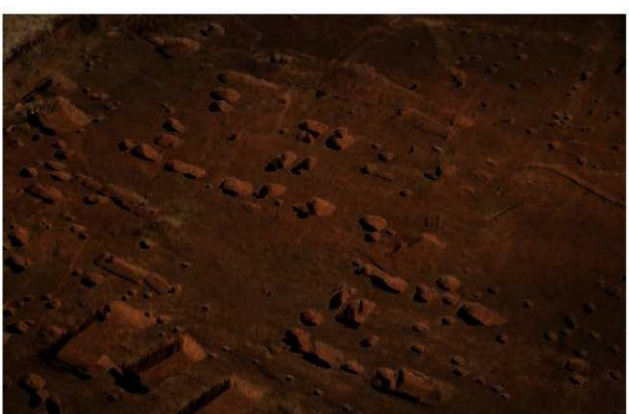
建物跡２号



第55図　近世～近代の遺構５　区画35（Ｘ地区）

建物跡３号

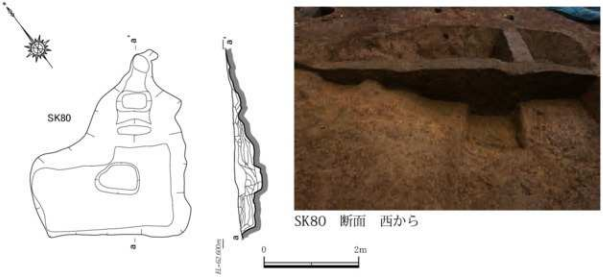




建物跡１～３号　南から

第 56 図　近世～近代の遺構６　区画 35（X 地区）

SK80 は不定形な土坑であり、規模は長軸 4.0 m、短軸 3.2 m、深さ 58cm である。底面は方形状を呈し中央で凹む。他の土坑と比べると規模が大きいものであるが、用途・性格は不明である。

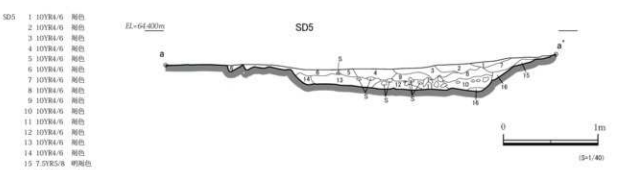


SK80　断面　西から

区画 36（X 地区）

X地区１・２地点 14-C14･D13・D14・D15・E13・E14・E15・F14 グリッドに位置する。西側に区画 35、南西側に区画 37、南側に区画 38 と隣接する。

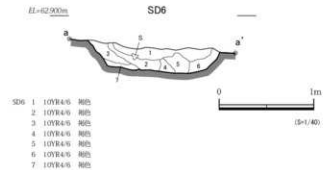
溝跡（SD ３～４・６）により、方形状に区画されており、その中に建物跡・ピット、土坑、溝跡などが確認されている。SD ５は北東－南西方向に延びるもので、溝の底には礫が集中して検出されている。SD ６は北東－南西方向に延び、SD4 とつながる。



SD5　断面　南から

SD5　礫検出状況　北西から

第 57 図　近世～近代の遺構 7　区画 35・36（X 地区）

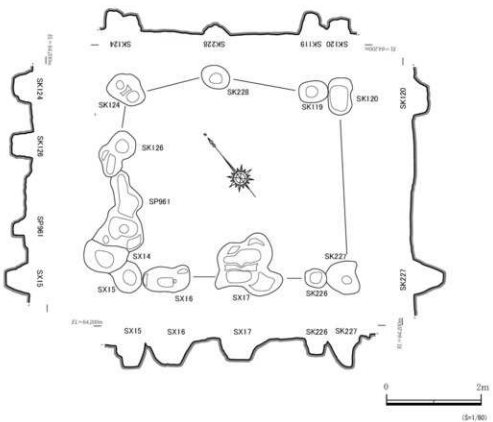


SD6　断面　東から

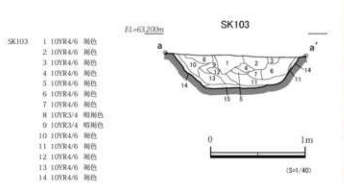
第 58 図　近世～近代の遺構 8　区画 36 全体図（X 地区）

建物跡４・５号は区画中央から東寄りのSD ５西側に位置する。建物跡４号と５号は南北で隣接している。建物跡の向きは区画の向きと揃っており、北西－南東方向に延びるSD ４・６の向きと平行する。建物跡４号は、規模 4.5 × 4.0 m、面積 18.0㎡で方形のプランである。建物跡５号は、規模 4.5 × 4.0 m、面積 18.0㎡でやや方形状のプランである。

建物跡４号



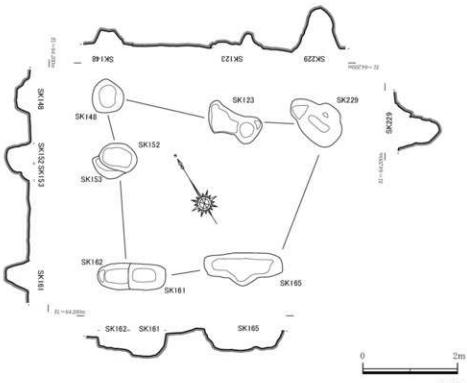
土坑は断面形が方形状を呈するものが多く、SK103 は、平面形は不整な円形を呈し、断面は方形状である。用途・性格は不明である。



SK103　断面　北西から

第 59 図　近世～近代の遺構９　区画 36（X地区）

建物跡５号



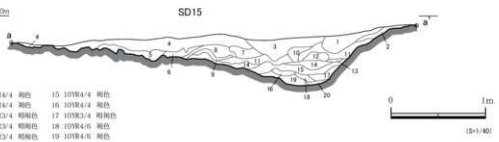
区画 36（X 地区２地点）完掘状況　西から

第 60 図　近世～近代の遺構 10　区画 36（X 地区）

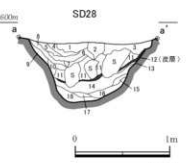
区画 37（X地区）

X地区３地点 15-E 1・E 2・F 1・F 2 グリッドに位置する。北側に区画 35、北東側に区画 36、東側に区画 38 と隣接する。

溝跡（SD 4・15・28・SD23）により、方形状に区画された中にピット、土坑、埋甕、方形石組、溝跡などが確認されている。SD15 は北東－南西方向に延びるもので、断面形は、略「L」字状で東側の立ち上がりは急となっている。SD28 も北東－南西方向に延び、SD15 とつながるものとみられる。



SD15	1 10YR3/4 暗褐色	8 10YR4/4 褐色	15 10YR4/4 褐色		
	2 10YR3/4 暗褐色	9 10YR4/4 褐色	16 10YR4/4 褐色		
	3 10YR3/4 暗褐色	10 10YR3/4 暗褐色	17 10YR3/4 暗褐色		
	4 10YR3/4 暗褐色	11 10YR3/4 暗褐色	18 10YR4/6 褐色		
	5 10YR3/4 暗褐色	12 10YR3/4 暗褐色	19 10YR4/6 褐色		
	6 10YR3/4 暗褐色	13 10YR4/4 褐色	20 10YR4/6 褐色		
	7 10YR4/4 褐色	14 10YR3/4 暗褐色			

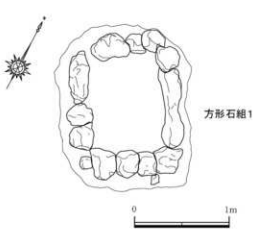


SD28	1 10YR4/6 褐色		
	2 10YR4/6 褐色		
	3 10YR4/6 褐色		
	4 10YR4/6 褐色		
	5 10YR4/6 褐色		
	6 10YR4/6 褐色		
	7 10YR4/6 褐色		
	8 10YR4/6 褐色		
	9 10YR4/6 褐色		
	10 10YR4/6 褐色		
	11 10YR4/6 褐色		
	12 10YR2/1 黒色	炭層	
	13 10R3/2 暗赤褐色	焼土層	
	14 10YR4/6 褐色		
	15 10YR4/6 褐色		
	16 10YR4/6 褐色		
	17 10YR4/6 褐色		
	18 10YR4/6 褐色		

SD15　断面　南から

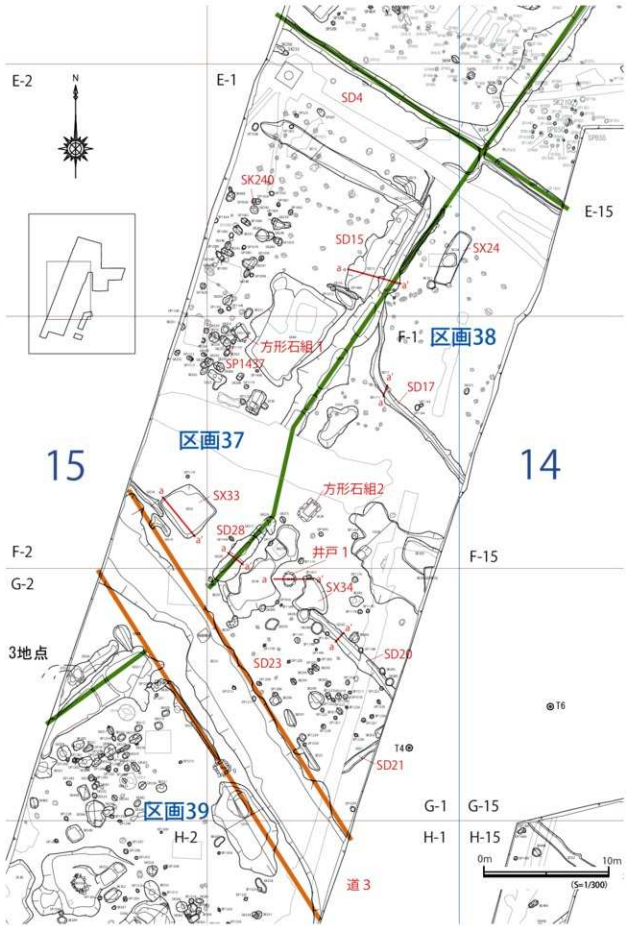
方形石組１（SX51）は規模 174 × 132cm で長方形に石組みを配する。長軸は北西－南東方向で SD23 の軸と揃う。

SD28　断面　南から



方形石組１　西から

第 61 図　近世～近代の遺構 11　区画 37（X地区）



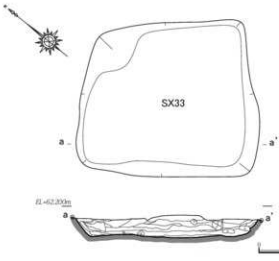
第62図　近世～近代の遺構12　区画37・38全体図（X地区）

方形石組１に隣接するSP1437は埋甕であり、掘り込んだ土坑に沖縄産陶器の甕を埋めている。中からは動物骨（ウマ）が出土した。

SX33は、平面形・断面形ともに方形状を呈するもので、用途や性格が不明な土坑である。規模は400×340cmである。

SP1437　埋甕　骨出土状況

同左　完掘状況　東から



SX33　半裁断面　北から

区画38（Ｘ地区）

Ｘ地区２・３地点14-E15・F14・F15、15-F１・G１グリッドに位置する。北西側に区画35、北側に区画36、東側に区画37、南側で区画39と隣接する。

溝跡（SD４・15・28・SD23）により、方形状に区画された中にピット、土坑、方形石組、井戸、溝跡などが確認されている。溝跡は、区画内をさらに区画するようなものあり、SD17は区画中央部で区画内を横断しSD15へ向かって北西－南東方向に延び、Ｌ字状に屈曲する。SD20・21はSD23と平行するように北西－南東方向に伸び、Ｌ字状に屈曲している。

第63図　近世～近代の遺構13　区画37・38（Ｘ地区）

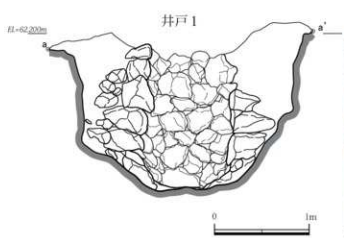
SD17　断面　東から

SD20　断面　東から

方形石組２（SX29）は規模 195 × 132cm で長方形に石組みを配する。長軸は北東－南西方向で SD15・23 の軸と揃う。石組み内はモルタルで桝状に構築している。

方形石組２の南側には井戸１（SX49）があり、20 ～ 40cm 大の石灰岩の切石を、岩盤から相方積みで積んでいる。井戸の直径は 83cm である。

方形石組２　北東から



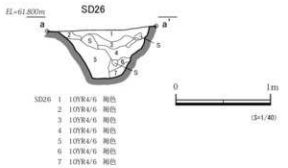
井戸１　半裁状況　南から

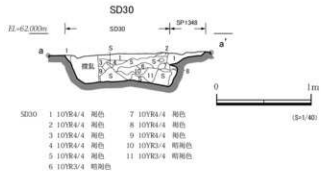
第 64 図　近世～近代の遺構 14　区画 38（X 地区）

区画 39（Ｘ地区）

Ｘ地区３地点 15-Ｇ１・Ｇ２・Ｈ１・Ｈ２・Ｉ１・Ｉ２グリッドに位置する。北側で区画 38 と隣接する。

溝跡（SD23・26）により、方形状に区画された中に建物跡・ピット、土坑、方形石組、井戸、壕跡、溝跡などが確認されている。当該区画は遺構密度が高く、ピットや土坑が多く検出された。SD26 は SD23 に向かって垂直に延びる。断面の底からの立ち上がりは急である。SD30 は区画内をさらに区画するように、SD23 と平行して北西－南東方向に延びるもので、溝内は小礫により充填されている。SX40 は溝状に延びる遺構で、SD30 の南側に位置する。





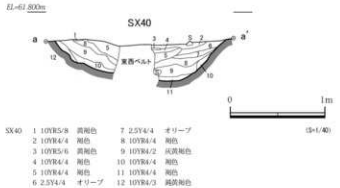
SD26　断面　西から

SD30　断面　西から

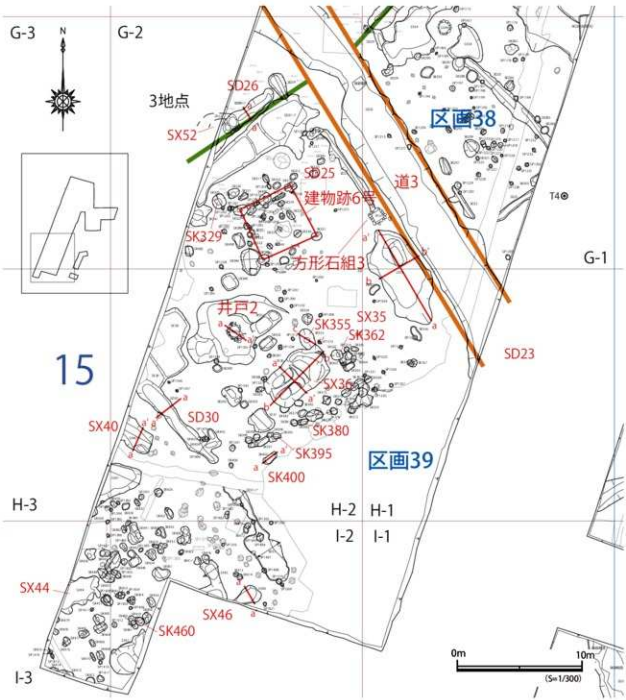
SD30　礫検出状況　東から

SD30　遺物出土状況

第 65 図　近世～近代の遺構 15　区画 39（Ｘ地区）



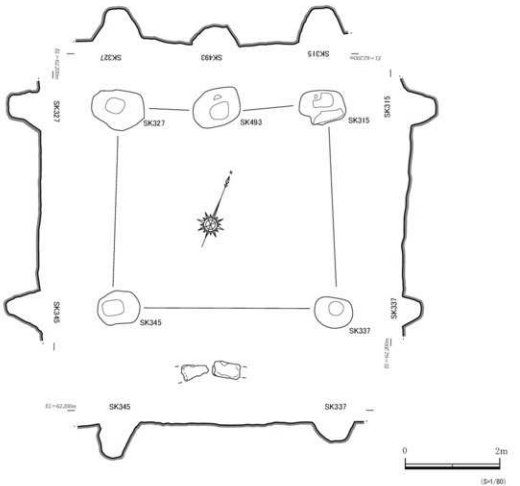
SX40　半裁状況　北から



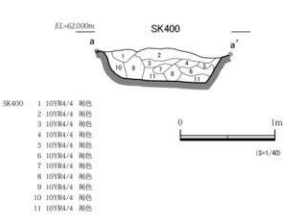
第 66 図　近世～近代の遺構 16　区画 39 全体図（X 地区）

建物跡６号は方形のプランを呈しており、区画内の北西側に位置する。建物跡の向きは区画の向きと揃っており、北西－南東方向に延びる SD23 の向きと平行する。建物跡６号の規模は 4.7 × 4.2 m、面積 19.7㎡である。建物６号の南には、50 ～ 60cm 大の石灰岩による切石が並び、建物跡に関係する石列と思われる。

建物跡６号



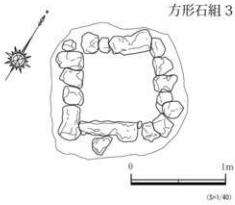
土坑は平面形が方形あるいは長方形状となるものが多い。SK400 は、平面形は長方形状を呈し、断面形は方形状となる。



SK400　半裁状況　南から

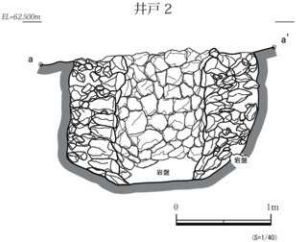
第 67 図　近世～近代の遺構 17　区画 39（X 地区）

方形石組3（SX50）は規模140×140cmで方形に石組みを配する。向きは区画の向きと揃っており、SD23と並行する。



方形石組3　南から

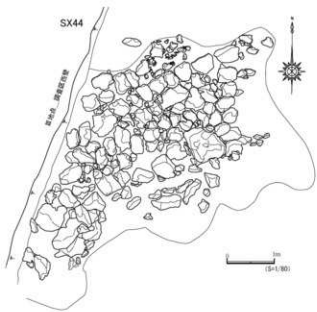
井戸2（SK350）は、15～20cm大の石灰岩の切石を、岩盤から相方積みで積んでいる。井戸の直径は78cmである。



井戸2　半裁状況　北から

SX44は石敷き遺構である。20～50cm大の礫が集中して検出された。西側は調査区外のため不明であるが、溝跡のように延びる可能性がある。

SX44　半裁状況　西から



第68図　近世～近代の遺構18　区画39（X地区）

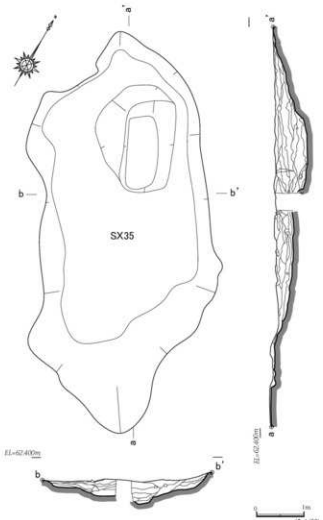
SX35・36 はともに平面形が不定形な大型土坑である。

SX35 は、規模は長軸 8.4 m、短軸 3.4 m、深さ 70cm である。底面は長方形状を呈し、底面北側は規模 2.2 × 1.6 mの長方形状で凹む。SX35 からは本土産近現代磁器や沖縄産陶器などが大量に出土している。

SX36 は、規模は長軸 5.5 m、短軸 2.8 m、深さ 72cm である。底面は長方形状を呈する。これらの用途・性格は不明である。

SX46・52 は壕跡と考えられる。SX46 は天井が崩落し堆積しており、天井部の掘り方が部分的に残っている。３地点南壁から北東方向に延びる。壕の幅は 119cm で、深さ 65cm を測る。

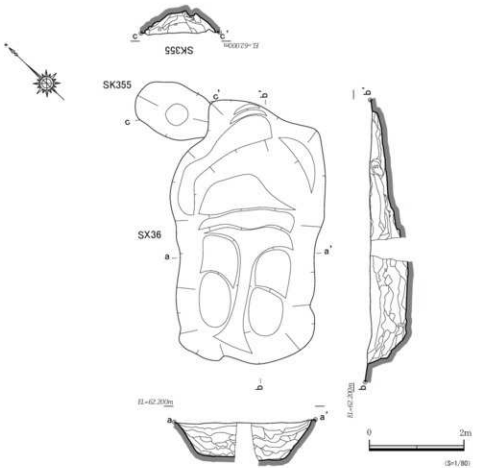
SX52 は、３地点西壁際において、SD26 完掘後に壕口が検出された。壕口の幅は約 90cm で、階段状に地山を掘り込んで構築している。壕の内部は西壁から北東方向に延びるようである。調査区外に延びていることと、崩落の危険性があるため、調査は行わなかった。

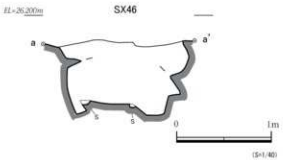


SX35　断面　北から

SX36　断面　南から

第 69 図　近世～近代の遺構 19　区画 39（X 地区）





SX46　断面　南西から

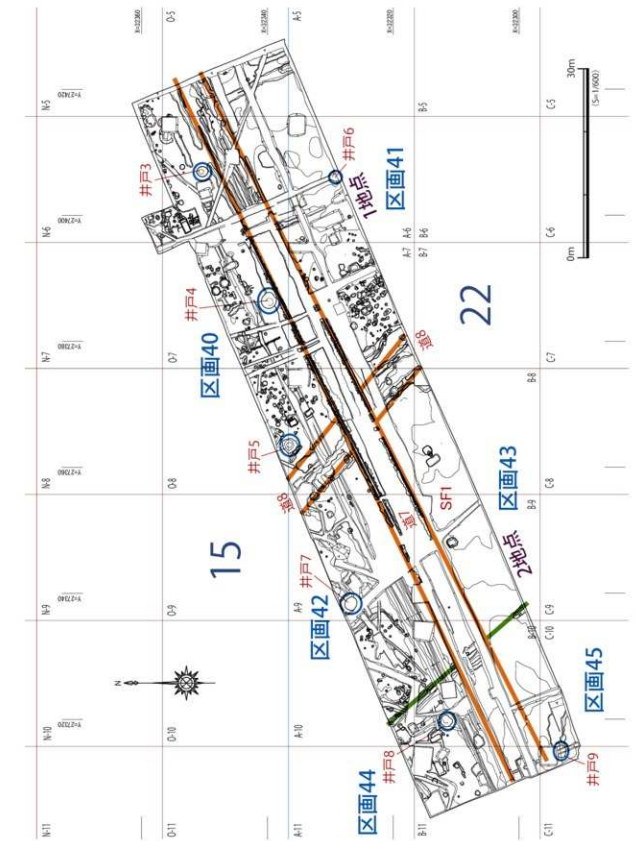
SX52　壕口　東から

SX52　壕口　北から

第 70 図　近世～近代の遺構 20　区画 39（X 地区）

XI 地区（区画 40 ～ 45、道７・８）

XI 地区は調査区中央の道７を中心として、区画 40 ～ 45 の６つの区画を想定できた。区画 40・41 の遺構密度は高い。XI 地区では、井戸は７基確認された。区画 44 と区画 45 は XII 地区とまたがっていることから、XII 地区と合わせて報告する。

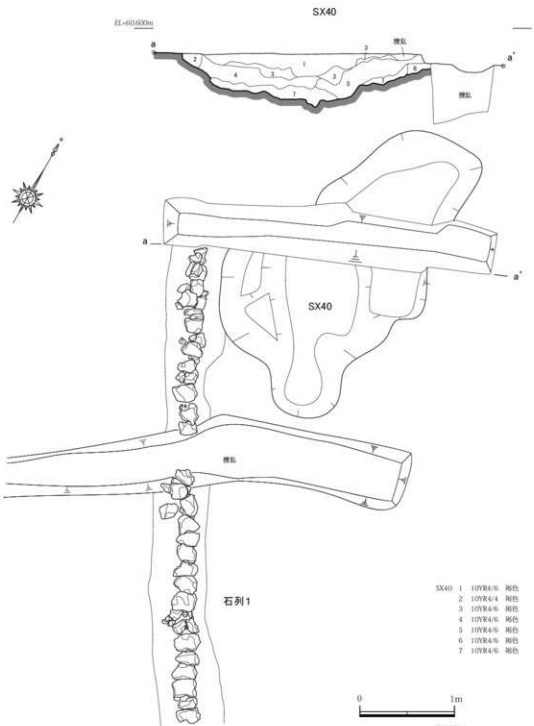


第 71 図　近世～近代の遺構 21　区画 40 ～ 45、道７・８全体図（XI 地区）

区画 40（XI 地区）

XI 地区 1 地点 15-N 5・N 6・O 5・O 6・O 7・O 8、22-A 7・A 8 グリッドに位置する。南側で区画 41、西側で区画 42、南西側で区画 43 と隣接する。道 7（SF 1）及び道 8（SF 3）により、方形状に区画された中にピット、土坑、埋甕、桝状遺構、窯跡、井戸、石列、溝跡などが確認されている。

石列 1 は、区画内をさらに区画するように、道 7（SF 1）に対し垂直に延び、20 ～ 30cm 大の石灰岩礫を北西～南東方向に長さ 5 m配している。石列 1 に隣接する SX40 は不定形な土坑で、長軸 3.1 m、深さ 49cm である。

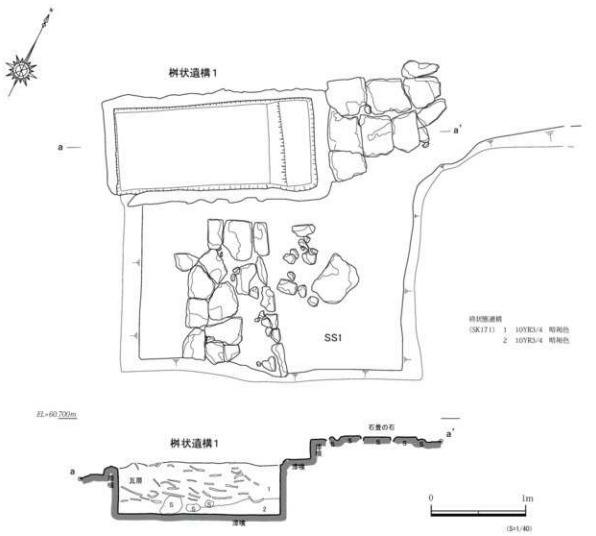


第 72 図　近世～近代の遺構 22　区画 40（XI 地区）

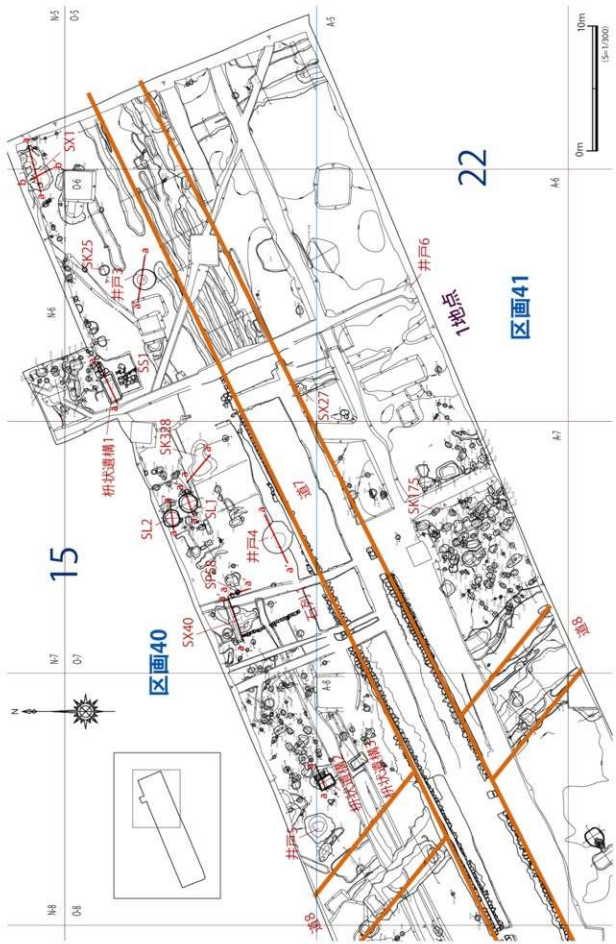
当該区画では桝状遺構１～３が検出された。桝状遺構はそれぞれ井戸の付近に位置しており、水場の遺構と考えられる。桝状遺構１（SK171）は、長方形状の桝をモルタルにより構築したもので、規模は230 × 110cm、深さ 58cm である。井戸３の北西側に位置し、桝の長軸は北東－南西方向で、道７（SF １）の向きと揃っている。この桝状遺構１に付随して石敷きの遺構（SS １）がある。30 ～ 40cm 前後の敷石を密に配するもので、桝状遺構１周辺には石畳が広がっていたものと想定される。この石敷きの広がりと桝状遺構１の性格を把握するため、調査区北側部分を拡張したが、遺構は残存していなかった。桝状遺構内には明朝系瓦による瓦層が堆積し、大量の瓦とともにスコップや鉄斧が出土した。遺構としての機能を終えた後に、周辺にあった建物の瓦が廃棄されたものとみられる。

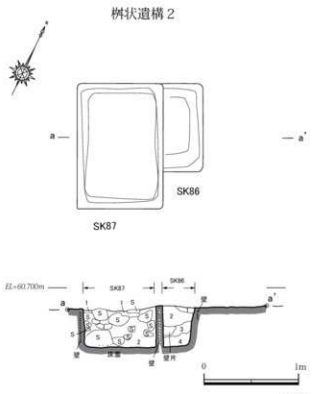
桝状遺構２（SK86・87）は、いわゆるサントウ技法により構築されたもので、サンゴ砂利と粗砂を混ぜたものを壁と床面に貼っている。桝状遺構２は SK86・87 の二つの遺構が切りあっており、SK87 が SK86 の長軸を変える形で再構築している。SK87 は規模 132 × 90cm、深さは 43cm、長軸は北西 - 南東で、道８（SF ３）の向きと合っている。SK86 の短軸は 93cm、深さ 43cm で SK87 と類似した構造であったと考えられる。

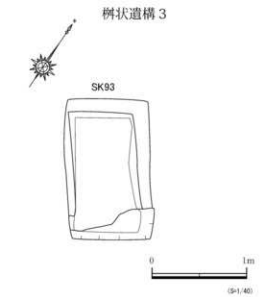
桝状遺構３（SK93）は、桝状遺構２の南に位置し、長方形状の桝をモルタルにより構築したものである。規模は 149 × 90cm である。桝状遺構２と３は井戸５の南側に位置している。



第 73 図　近世～近代の遺構 23　区画 40（XI 地区）


区画40
区画41
1地点
15
22
SX1
SK25
井戸3
SS1
井戸2
井戸1
井戸5
井戸6
井戸4
井戸7
井戸8
井戸9
井戸10
井戸11
井戸12
井戸13
井戸14
井戸15
井戸16
井戸17
井戸18
井戸19
井戸20
井戸21
井戸22
井戸23
井戸24
井戸25
井戸26
井戸27
井戸28
井戸29
井戸30
井戸31
井戸32
井戸33
井戸34
井戸35
井戸36
井戸37
井戸38
井戸39
井戸40
井戸41
井戸42
井戸43
井戸44
井戸45
井戸46





石列１　検出状況　北東から

石列１　完掘状況　北東から

SX40　断面　北から

桝状遺構１　完掘状況　北西から

第 75 図　近世～近代の遺構 25　区画 40（XI 地区）

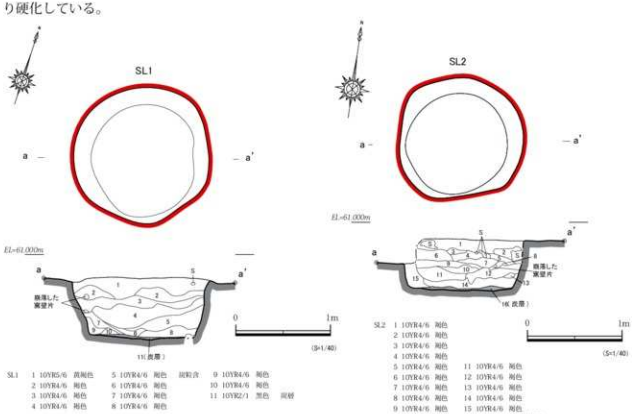
桝状遺構１　断面　北から

桝状遺構２　断面　東から

桝状遺構２　完掘状況　西から

桝状遺構３　完掘状況　南から

窯跡は、２基検出された。SL １・２は、ともに円形の窯跡で隣接している。SL １は規模 152 × 151cm、深さ 63cm、SL ２は規模 136 × 132cm、深さ 53cm である。SL １・２ともに壁面は火熱により硬化している。



第 76 図　近世～近代の遺構 26　区画 40（XI 地区）

SL1・2　完掘状況　西から

SL1　完掘状況　北から

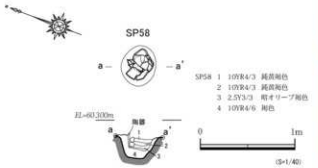
SL1　断面　北から

SL2　断面　北から

区画 40 は遺構密度が高く、ピットや土坑が多く検出されている。特に 15 － O 8、22 － A 8 グリッドで密度が高いが、埋設管による撹乱が多く、建物のプランを確認することは出来なかった。土坑は平面形が方形状・長方形状となるものが多い。

埋甕（SP58）は、石列 1 の東側に位置し、規模 41 × 36cm、深さ 24cm に掘り込んだ土坑に甕の底部が埋められていた。

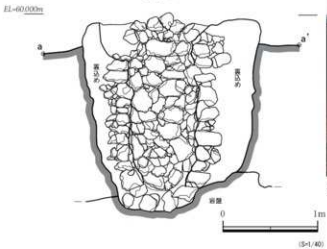
当該区画では、井戸３～５の３基を確認している。井戸３（SE 1）は、15 ～ 30cm 大の石灰岩の切石を、岩盤から相方積みで積んでいる。井戸の直径は 68cm である。井戸４（SE 2）は、道７（SF 1）に隣接した位置にあり、20 ～ 40cm 大の石灰岩の切石を、岩盤から相方積みで積む。井戸の直径は 113cm である。井戸５（SE 3）は道８（SF 3）に隣接した位置にある。井戸内には、セメント塊が入っていた。



SP58　埋甕　検出状況　南から

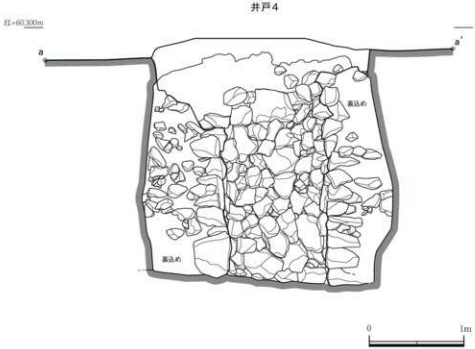
第 77 図　近世～近代の遺構 27　区画 40（XI 地区）

井戸３



井戸３　半裁状況　北東から

井戸４

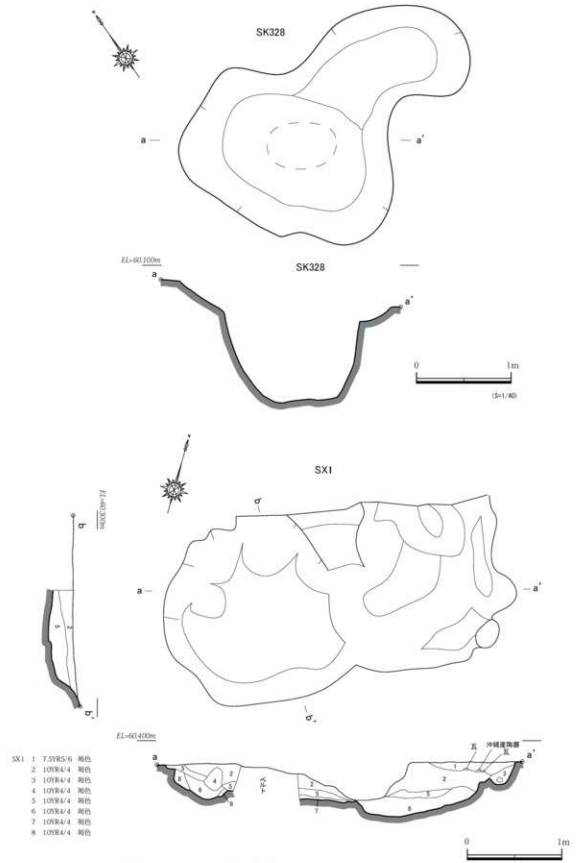


井戸４　半裁状況　北から

井戸５　半裁状況　東から

第 78 図　近世～近代の遺構 28　区画 40（XI 地区）

SK328・SX１は不定形な土坑である。SK328は、規模292×252cm、深さ113cmの不定形な土坑であり、上層からは本土産近現代磁器と沖縄産陶器壷が一括して出土した。SX1は、長軸375cm、深さ60cmで、北側は調査区境のため不明である。



第 79 図　近世～近代の遺構 29　区画 40（XI 地区）

SK328　遺物出土状況　東から１

SK328　遺物出土状況　東から２

SK328　遺物出土状況　東から３

SX1　断面　南から

区画 41（XI 地区）

XI 地区１地点 15-O ５・O ６、22-A ５・A ６・A ７・A ８グリッドに位置する。北側で区画 40、北西側で区画 42、西側で区画 43 と隣接する。

道７（SF １）及び道８（SF ３）により、方形状に区画された中にピット、土坑、井戸、溝跡などが確認されている。22 - A7 グリッドは遺構密度が高く、ピットや土坑が多く検出されている。埋設管による撹乱のため建物のプランを確認することは出来なかった。土坑は平面形が方形状・長方形状となるものが多い。

井戸６（SE ４）は調査区南壁で確認された。断割りを行った結果、岩盤が検出される地表下４m 以上と、深く掘り込んで構築されていることを確認した。

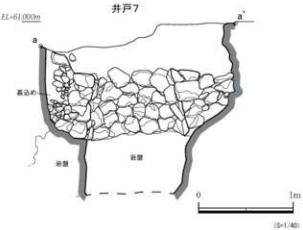
井戸６　半裁状況　北から

第 80 図　近世～近代の遺構 30　区画 40・41（XI 地区）

区画 42（XI 地区）

XI 地区２地点 22-A ８・A ９・A10・B ９・B10 グリッドに位置する。東側で区画 40、南東側で区画 41、南側で区画 43、西側で区画 44、南西側で区画 45 と隣接する。

道７（SF １）及び道８（SF ３）、溝跡（SD28）により、方形状に区画された中にピット、土坑、井戸、溝跡などが確認されている。22 - A10 グリッドではピットや土坑が検出されている。井戸７（SE ５）は、15 ～ 20cm 大の石灰岩の切石を、岩盤から相方積みで積んでいる。井戸の直径は 86cm である。

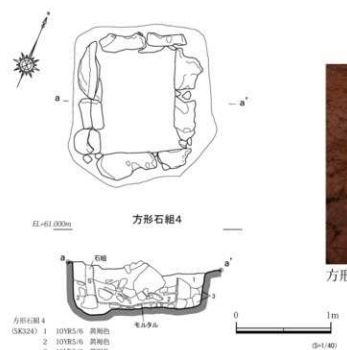


井戸７　半裁状況　南西から

区画 43（XI 地区）

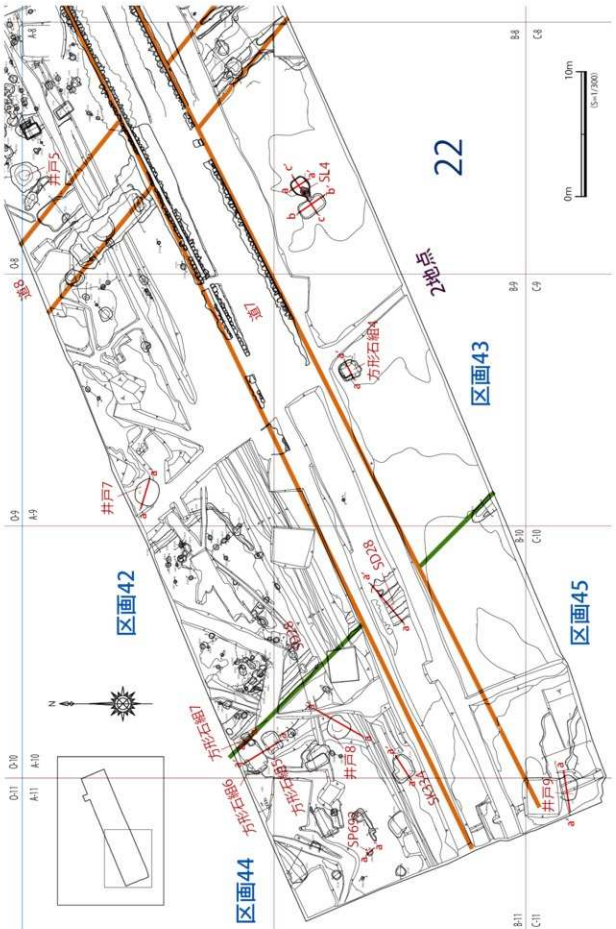
XI 地区２地点 22-A ８・B ８・B ９グリッドに位置する。北東側で区画 40、南東側で区画 41、北側で区画 42、北西側で区画 44、西側で区画 45 と隣接する。

道７（SF １）及び道８（SF ３）、溝跡（SD28）により、方形状に区画された中に方形石組、窯跡が確認されている。方形石組４（SK324）は規模 169 × 146cm、深さ 42cm で長方形に石組みを配する。石組内からは本土産近現代磁器やプラスチック製の歯ブラシが出土した。



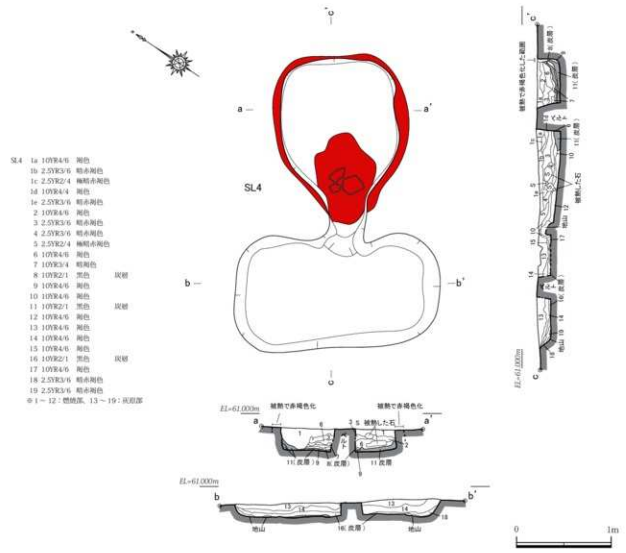
方形石組４　北東から

第 81 図　近世～近代の遺構 31　区画 42・43（XI 地区）



第 82 図　近世～近代の遺構 32　区画 42 ～ 45 全体図（XI 地区）

窯跡（SL ４）は、道７（SF １）南側に位置する。窯跡は、燃焼部は楕円形を呈し、灰原部分は長方形状に掘り込まれている。燃焼部の壁面・床面は熱により赤く硬化している。焚口からは熱を受けた礫がまとまって検出された。また、燃焼部と灰原部分の床面には炭層が堆積している。全長は 3.1 m、燃焼部は規模 1.7 × 1.4 m、深さ 25cm を測る。灰原部分は規模 2.1 × 1.1 m、深さ 15cm である。



SL4　断面　北から

SL4　燃焼部　北から

第 83 図　近世～近代の遺構 33　区画 43（XI 地区）

XII 地区（区画 44 ～ 46）

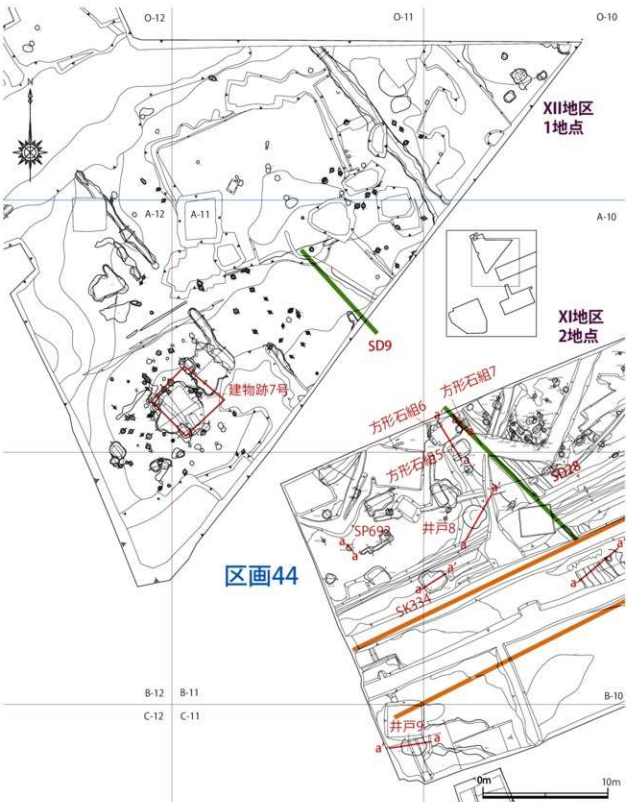
XII 地区は調査区が３つの地点に分かれており、隣接する XI 地区とのつながりから、区画 44 ～ 46 の３つの区画を想定できた。XII 地区の区画内における遺構密度は低い。XII 地区では、井戸は２基確認された。区画 44 と区画 45 は XI 地区とまたがっていることから、XI 地区と合わせて報告する。

第 84 図　近世～近代の遺構 34　区画 44 ～ 46 全体図（XII 地区）

区画 44（XI ・ XII 地区）

本区画は、XI 地区２地点とXII地区１地点にまたがっており、22-A11・A12・B10・B11・B12 グリッドに位置する。東側で区画 42、南東側で区画 43、南側で区画 45 と隣接する。

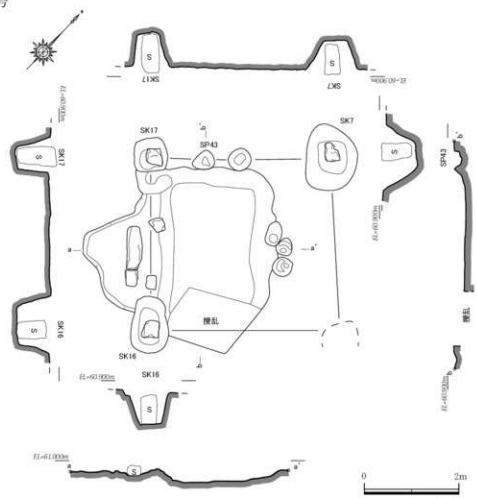
道７（SF １）と溝跡（XI 地区 SD28）により、方形状に区画された中に建物跡・ピット、土坑、方形石組、井戸、溝跡などが確認されている。



第 85 図　近世～近代の遺構 35　区画 44 全体図（XI・XII 地区）

建物跡７号（XII 地区・SB １）は方形のプランを呈する。東側の建物跡の向きは区画の向きと揃っており、北西－南東方向に延びる SD28 の向きと平行する。建物跡７号の規模は 4.0 × 3.7 m、面積 14.8㎡である。東側の柱配置は撹乱により不明である。建物内側に長軸 2.7 m、深さ 20cm の掘り込みとともに、建物７号の南西側には、20 ～ 90cm 大の石灰岩切石による石列が伴う。柱穴内より石柱が出土。

建物跡７号

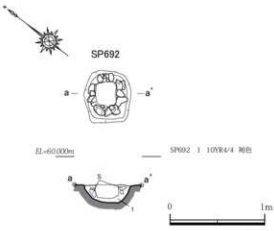


建物跡７号　完掘状況　南から

SK7　半裁状況　南西から

第 86 図　近世～近代の遺構 36　区画 44（XII 地区）

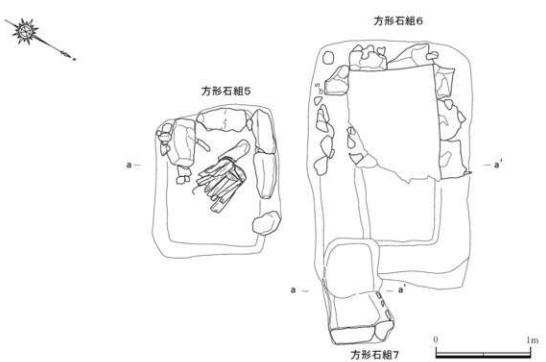
SP692（XI 地区）は、礎石の柱跡である。礎石の大きさは 20 × 25cm で、周囲に 5 ～ 10cm の根固め石が検出された。深さは 19cm である。区画 44 には、かつて礎石立ちの建物が存在したことがわかる。



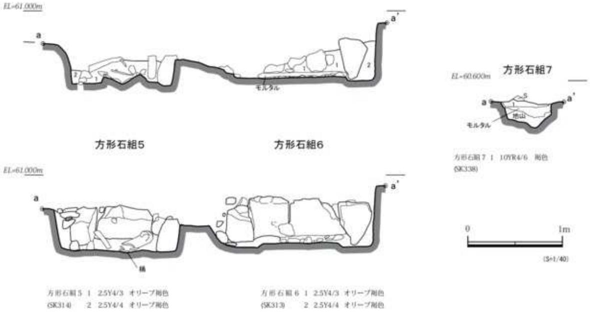
SP692　断面　東から

当該区画では方形石組５～７（XI 地区・SK313・314・338）が検出された。方形石組５・６は隣接し、小形の方形石組７が方形石組６を切るように構築されている。方形石組５（SK314）は規模 159 × 130cm、深さ 46cm で方形に石組みを配する。東側の石組は残存せず、掘方のみ残る。石組内からは、木製の桶（図版 45・180）と鍬（図版 45・181）が出土した。

方形石組６（SK313）は、規模 250 × 172cm、深さ 65cm で、長方形状に石組みを構築し、床面にはモルタルが施されている。東側半分は掘方のみ残存している。方形石組７（SK338）は、規模 111 × 61cm、深さ 15cm で、石組みは東側１面のみ残存となっているが、検出された堀方からは、長方形状であったと思われる。床面にはモルタルが施されている。方形石組５～７は長軸北東－南西方向で、区画の向きと揃っており、道７（SF １）と並行する。



第 87 図　近世～近代の遺構 37　区画 44（XI 地区）



方形石組５～７　北から

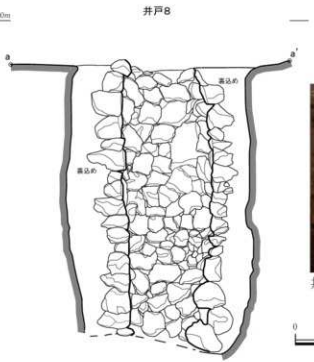
方形石組５　検出状況　東から

方形石組６　検出状況　北東から

方形石組７　検出状況　西から

第 88 図　近世～近代の遺構 38　区画 44（XI 地区）

井戸８（XI 地区・SE ６）は、15 ～ 30cm 大の石灰岩の切石を相方積みで積む。井戸の直径は 89cm である。



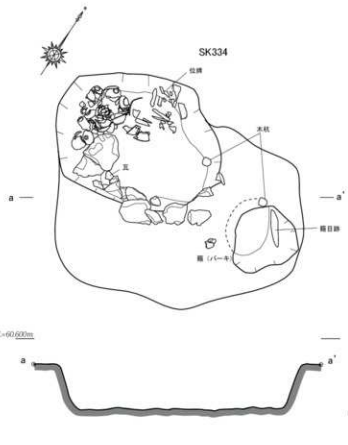
井戸８　半裁状況　南から

SK334（XI 地区）は、規模 192 × 180cm、深さ 36cm のやや方形状となる土坑で、遺構内北側からは多量の本土産近現代磁器と沖縄産陶器、位牌などが一括して出土した。統制陶磁器を含む本土産近代磁器を中心に、陶磁器類が積み重ねられた状態で出土し、その隣には位牌（第 114 図 62）が北壁に立てかけられたような状態で出土した。また、土坑内東側では、籠（バーキ）が埋まっていたとみられ、壁面に籠目跡が残っていた。籠そのものは残存していない。さらに、土坑内には木杭の跡が残っていた。戦時中に掘り込んだ土坑内に陶磁器や位牌などを一括して埋めたものとみられる。一括出土した遺物の詳細は、次項で述べる。

SK334　遺物出土状況　南から

位牌出土状況

第 89 図　近世～近代の遺構 39　区画 44（XI 地区）



位牌出土状況　拡大

陶磁器出土状況

籠目跡

完掘状況

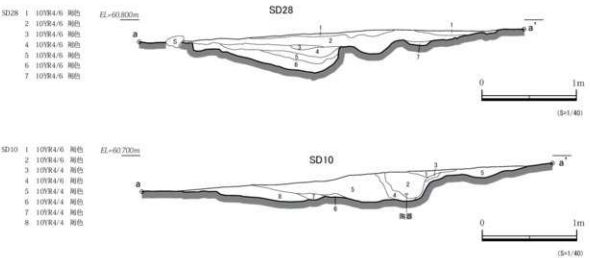
第 90 図　近世～近代の遺構 40　区画 44（XI 地区）

区画 45（XI ・ XII 地区）

本区画は、XI 地区２地点とXII地区２地点にまたがっており、22-B10・C ９・C10・D ９・D10・D11 グリッドに位置する。北東側で区画 42、東側で区画 43、北側で区画 44 と隣接する。

道７（SF １）と溝跡（XI 地区 SD28、XII 地区 SD ９・SD10・SD14）により、方形状に区画された中にピット、土坑、桝状遺構、井戸、鍛跡、壕跡、溝跡などが確認されている。

SD28（XI 地区）は、北西－南東方向に延び、区画するもので、SD ９（XII 地区１地点）や SD14（XII 地区２地点）とつながるものとみられる。SD28 は後述する道７（SF １）側溝より下層で確認されており SD28 →道７（SF １）の先後関係がいえる。SD10（XII 地区）は、北東－南西方向に延びるもので、道７（SF １）と並行する。

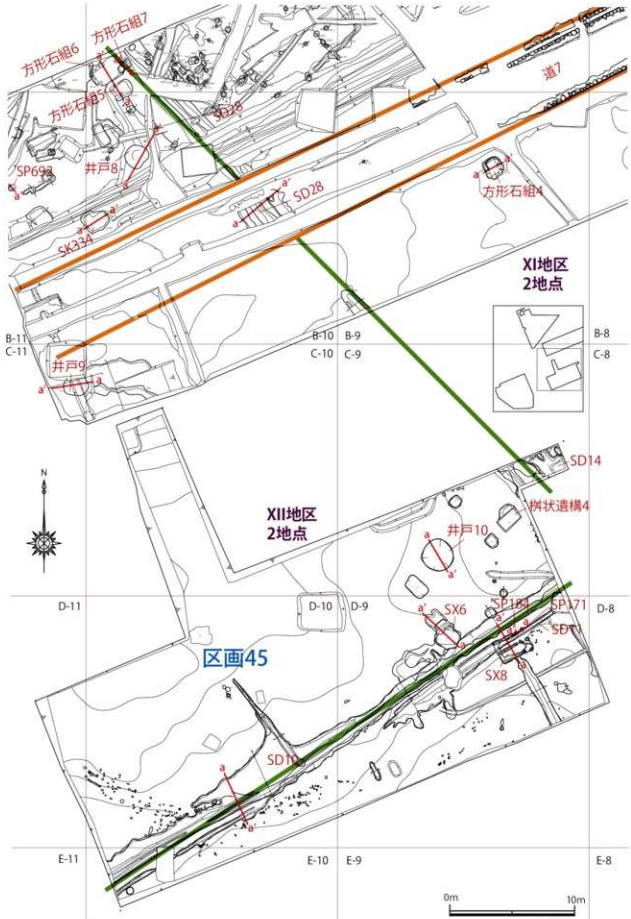


SD28　検出状況　北から（XI 地区）

SD28　断面　南から（XI 地区）

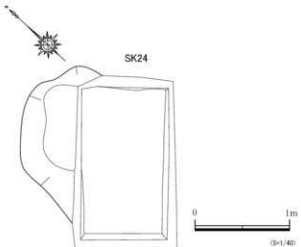
SD10　断面　南西から（XII 地区）

第 91 図　近世～近代の遺構 41　区画 45（XI ・ XII 地区）



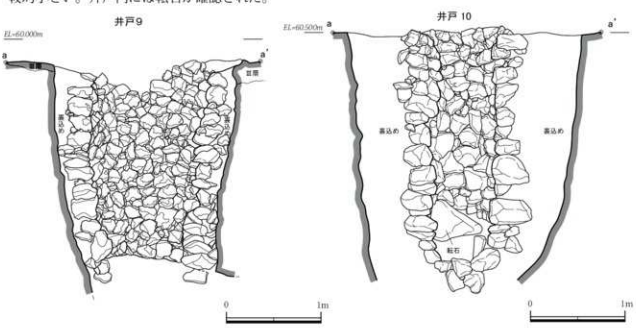
第92図　近世～近代の遺構42　区画45全体図（XI・XII地区）

桝状遺構４（XII 地区・SK24）は規模 182 × 106cm の長方形状に、桝をモルタルにより構築したものである。井戸 10 の東側に位置し、長軸は北東－南西方向で、SD10 の向きと揃っている。



桝状遺構４　検出状況　東から

井戸９（XI 地区･SE ７）は、15 ～ 20cm 大の石灰岩切石を相方積みで積む。井戸の直径は 105cm である。井戸 10（XII 地区・SE １）は、15 ～ 30cm 大の石灰岩切石を相方積みで積む。井戸の直径は 55cm で比較的小さい。井戸内には転石が確認された。



井戸９　断面　北から

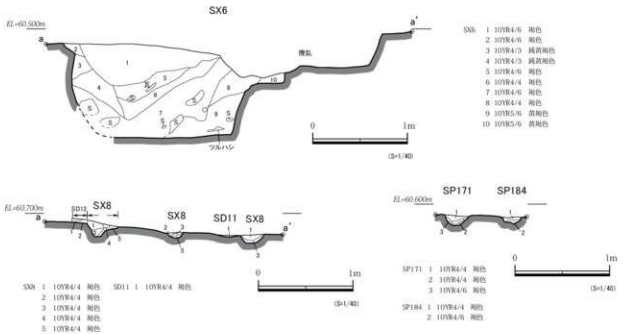
井戸 10　断面　西から

第 93 図　近世～近代の遺構 43　区画 45（XI・XII 地区）

鍬跡はD10グリッドのSD10付近で検出された。平面形が三角形状を呈しており、断面は10cm程度と浅く、集中的にまとまって分布している。近世～近代における耕作に伴うものと考えられる。

SX６（XII地区）は壕跡と考えられ、平面形は方形状を呈し、北側に階段状の掘り込みを伴う。遺構内からはツルハシが出土した。

SX８・SP171・SP184（XII地区）は、３条の溝状遺構にピットが伴う、用途不明な遺構である。溝跡となんらかの関連があると思われる。



SX6　完掘状況　西から

SX6　半裁状況　東から

SX8　検出状況　東から

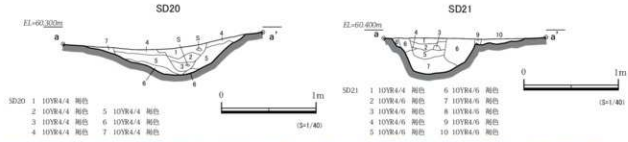
SP184　断面　北から

第94図　近世～近代の遺構44　区画45（XII地区）

区画 46（XII 地区）

XII 地区３地点の 22-D12・D13・E12・E13 グリッドに位置する。

溝跡（SD20・SD21）により、方形状に区画された中にピット、土坑、井戸、鍬跡が確認されている。SD20 は、北西－南東方向に延び、SD21 は北東－南西方向に延び、溝跡はそれぞれ交差する。

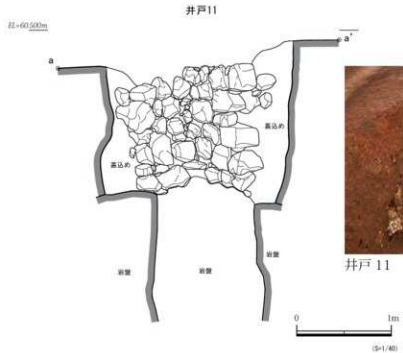


SD20　断面　南東から

SD21　断面　東から

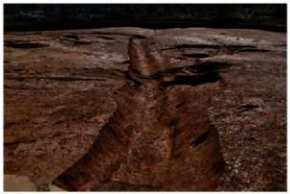
井戸 11（SE ２）は、15 ～ 25cm 大の石灰岩切石を、岩盤から相方積みで積む。井戸の直径は 100cm である。

鍬跡は E13・F13 グリッドの SD20・21 付近を中心に検出された。区画 45 で検出されたものと類似しており、平面形が三角形状を呈し、断面は 10cm 程度と浅く、連続的かつ集中して分布している。近世～近代における耕作に伴うものと考えられる。



井戸 11　半裁状況　西から

第 95 図　近世～近代の遺構 45　区画 46（XII 地区）



SD20　完掘状況　北から

SD21　完掘状況　東から

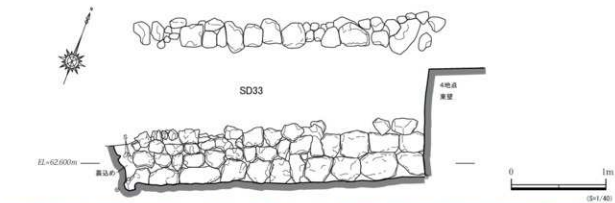
第96図　近世～近代の遺構46　区画46全体図（XII地区）

道跡

昭和20年航空写真との重ね図や屋号図から、道跡として想定できるものは、溝跡とは区別して報告する。Ｘ地区で道３、Ⅺ 地区で道７・８が確認された。また、Ⅵ地区の６地点で検出された溝跡は道跡として考えられ道９とした。

道３（Ｘ地区）

Ｘ地区３～５地点 14-H15・I15、15-F ２・Ｇ１・Ｇ２・Ｈ１グリッドで確認されている。道３はⅣ地区北側からⅢ地区１地点まで北西－南東方向に延び、Ⅷ地区３地点・５地点で緩やかにカーブして、Ｘ地区の遺構につながる。SD28 はＸ地区３地点を北東－南西方向に横断することにより、区画 37・38・39 を区画する。SD28 はＸ地区５地点の SD34 とつながるものとみられる。さらに、Ｘ地区４地点の SD33 は、北東－南西方向に、SD28 － SD34 ラインから分岐するかたちで、垂直に延びている。溝内北側には、15 ～ 40cm 大の石灰岩切り石による相方積みで、高さ 60cm の石積みが検出されている。長さ 3.1 mで北東－南西方向に延びる。道跡に伴い、古集落を区画していた石積みと考えられる。



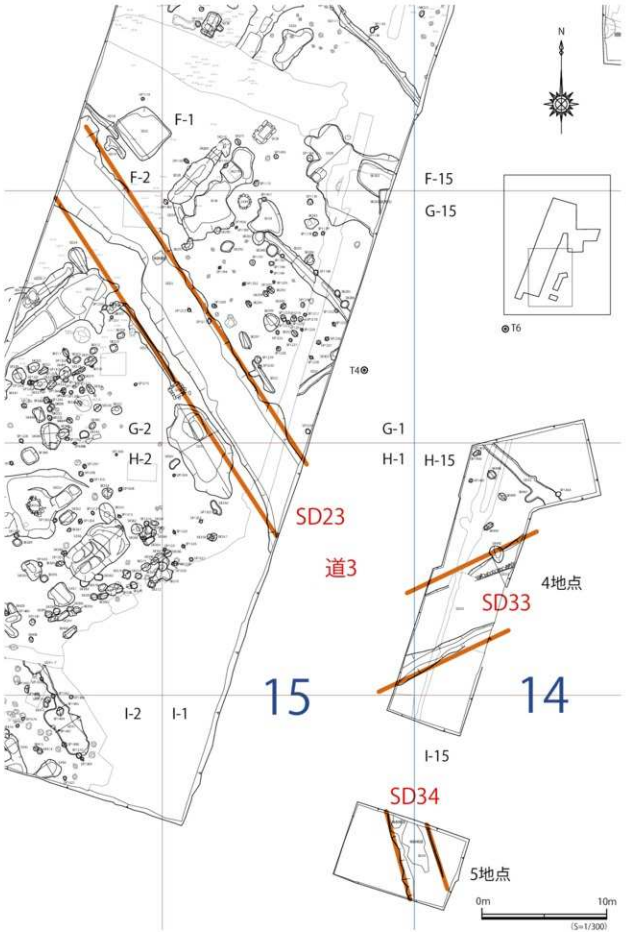
SD33　石積み　南から

SD33　石積み　南西から

SD23　礫集中部　検出状況　北東から

SD34　検出状況　北から

第 97 図　近世～近代の遺構 47　道３（Ｘ地区）



第 98 図　近世～近代の遺構 48　道３全体図（X地区）

道７（XI 地区）

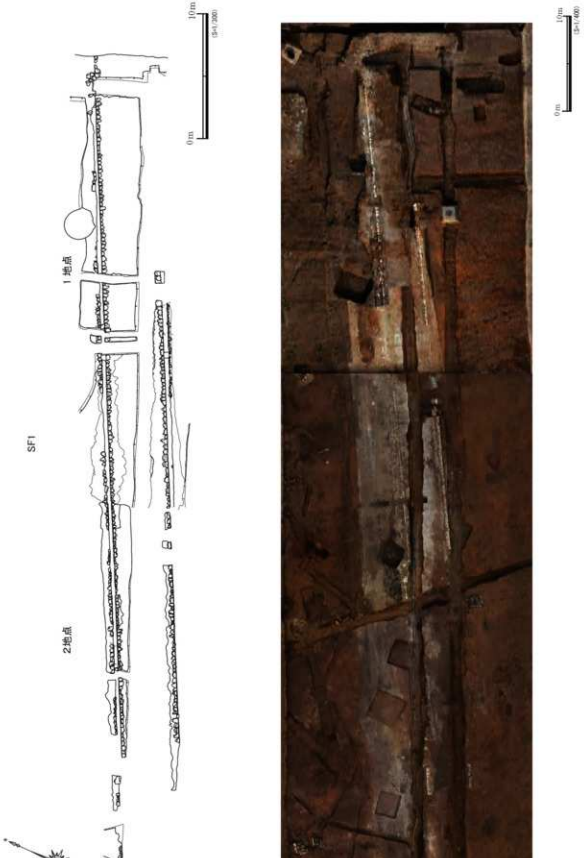
XI 地区１・２地点 15-O ５・O ６・O ７、22-A ７・A ８・A ９・B ９・B10 グリッドで確認された。道７は SF1 が検出された第１面と、その下の第２面に分けられる。

道７・第１面

SF １は、XI 地区１・２地点 15-O ６・O ７、22-A ７・A ８・A ９・B ９・B10 グリッドで確認された石組の側溝が伴う道跡である。北東－南西方向に XI 地区を横断することで、区画 40 ～ 45 を区画している。規模は、全長 80 m、幅は６ｍである。遺構上面は石灰岩の小礫が混ざる硬化面となっており、路面として舗装されたことによるものと考えられる。北側の側溝は、20 ～ 40cm 大の石灰岩切石を縁石として南北に配し、幅 25 ～ 30cm、深さ 30 ～ 35cm を測る。南側の側溝については、北側の縁石は、30 ～ 50cm 大の石灰岩切石が用いられ、南側の縁石は残りが良くないが、20 ～ 25cm 大の石灰岩礫を配している。南側側溝は、幅 37cm、深さ 32cm である。側溝内には一部転石がある箇所も見られた。

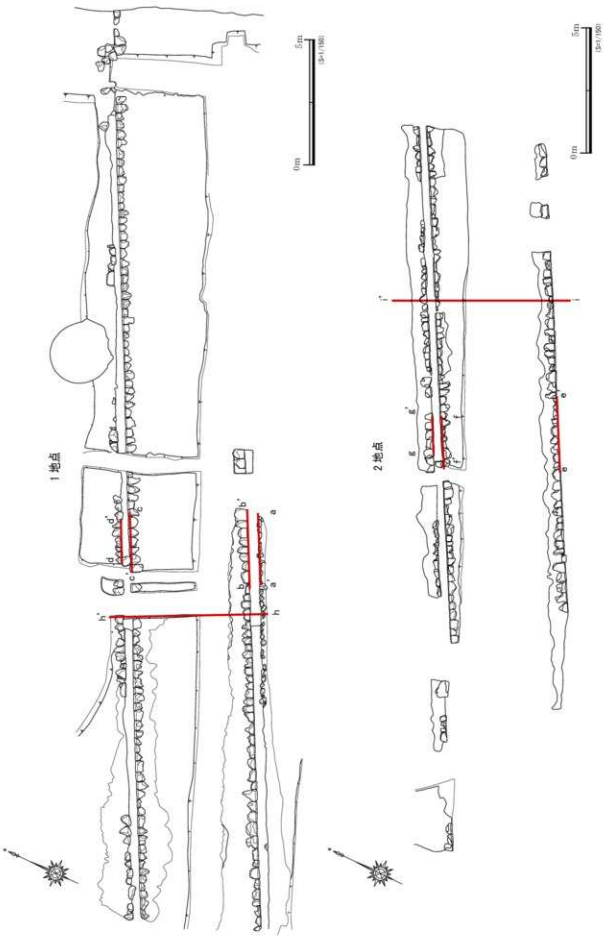
SF １は、昭和 20 年の古写真との重ね図から、ティラヌメーとよばれる普天満宮前から延びていた普天間古集落の大通りのひとつであったと考えられる。かつて中城村瑞慶覧方面から普天間を通り、伊佐・大山までおりていく道で、サトウキビ運搬のためのトロッコ軌道が敷かれていたとされている（宜野湾市教育委員会 2012）。現在の県道 81 号線に重なる道である。

第 99 図　近世～近代の遺構 49　道７・第１面全体図（XI 地区）

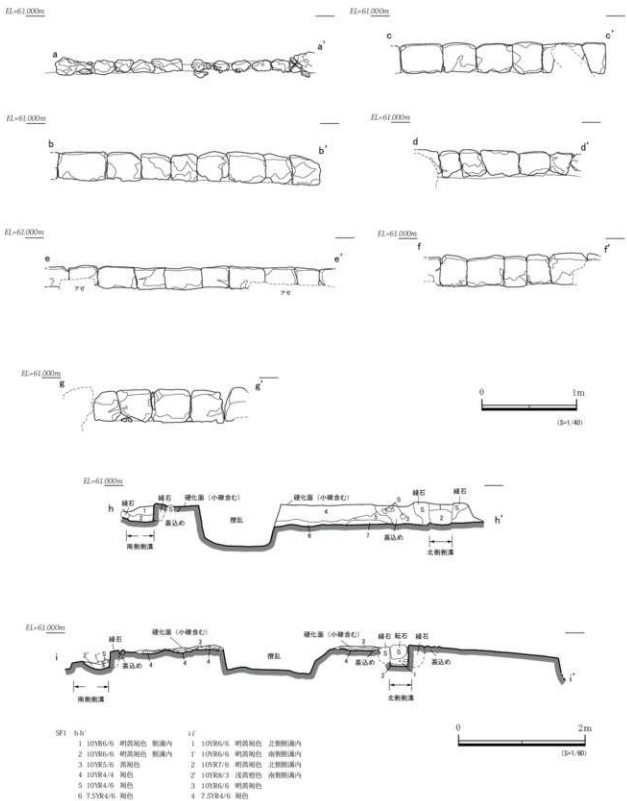


SF1　検出状況

第 100 図　近世～近代の遺構 50　道７・第１面（XI 地区）



第 101 図　近世～近代の遺構 51　道７・第１面（XI 地区）



第102図　近世～近代の遺構52　道7・第1面（XI地区）

SF1　１地点　検出状況　西から

SF1　２地点　北側側溝　北東から

図版 27　近世～近代の遺構１　道７・第１面（XI 地区）

SF1　１地点　南側側溝　東から

SF1　h-h'　断面　東から１

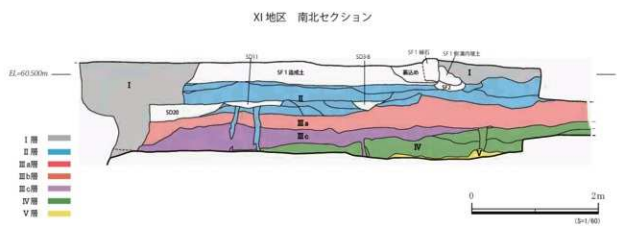
SF1　h-h'　断面　東から２

図版 28　近世～近代の遺構２　道７・第１面（XI 地区）

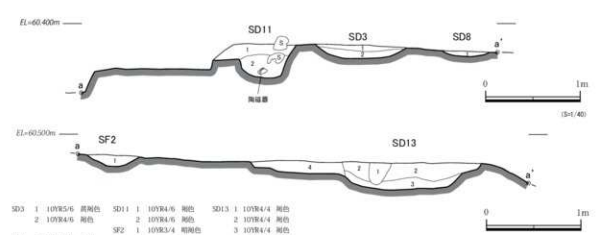
道７・第２面

SF １の下には、XI 地区１地点 15-O ５・O ６・O ７、22-A ７グリッドにおいて SF １構築以前に集落を区画していた溝跡が確認されるとともに、土坑や窯跡が検出されている。

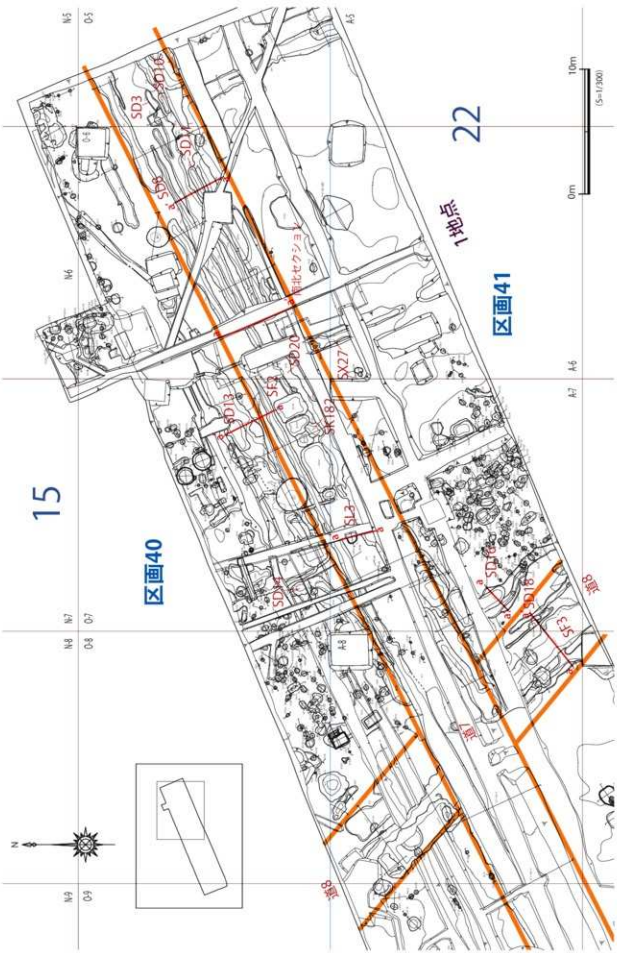
SD ３・８・10・11・13・20・SF ２は、北東－南西方向に延びる溝跡である。多くはⅡ層中から構築されているが、現場ではⅢ層上面で検出したため、痕跡的に残っている。SF ２は SF １北側側溝に伴う溝跡である。



XI 地区　南北セクション　東から



第 103 図　近世～近代の遺構 53　道７・第２面（XI 地区）



第104図　近世～近代の遺構54　道7・第2面、道8全体図（XI地区）

道７　XI 地区　１地点　遺構検出状況　東から

SD11　断面　東から

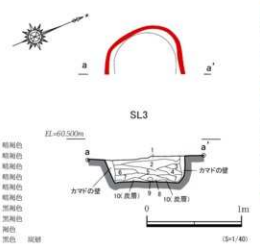
SD3・8　断面　東から

SD13　断面　東から

SD13　石斧出土状況　北から

図版 29　近世～近代の遺構３　道７・第２面（XI 地区）

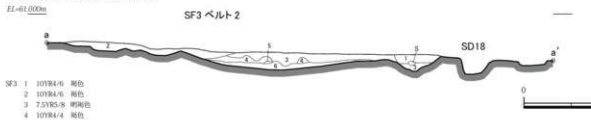
窯跡（SL3）は、規模は長軸 86cm、深さ 28cm である。東側は不明であるが、円形プランを呈している。区画 40 の SL １・２よりは比較的小型なもので、壁面は火熱により硬化している。

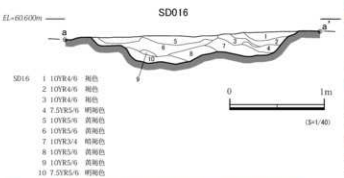


SL3　半裁断面　東から

道８（XI 地区）

XI 地区１・２地点 22- A 7・A 8・A 9・B 9 グリッドで確認された。道８（SF 3・SD16・18）は、道７（SF1）に交差するように、北東－南西方向に延びるもので、区画 40 ～ 43 を区画している。SD18 は排水溝の可能性がある。





SF3　検出状況　南から

SF3　断面　北から

SD16　断面　北から

第 105 図　近世～近代の遺構 55　道７・第２面、道８（XI 地区）

第2項　遺物

X～XII地区の近世～近代の遺構からは総数9782点の遺物が出土した。地区ごとでは、X地区5074点、XI地区3802点、XII地区906点となっている。その種別は、中国・タイ・本土産陶磁器、沖縄産陶器、土器、石器、石製品、煙管、円盤状製品、銭貨、青銅製品、鉄製品、木製品、瓦、ガラス製品などが出土している。最も多いのが沖縄産陶器で、その次に瓦、本土産陶磁器と続く。これらは近世～近代における普天間古集落跡の様相を窺えるもので、この中で代表的な261点を報告する。

遺物の縮尺は30%を基本とし、大型・小型ものは遺物に合わせて20～50%と縮小・拡大している。遺物の中で、陶磁器の胴部片や小片のものなど図化対象とならないものや、本土産近代陶磁器やガラス製品など必要と考えられる遺物は、写真により報告する。遺物実測図は、まず区画・道ごとに分け、その中で遺構ごとにまとめている。その後ろに写真のみの遺物を並べているため、遺構によってはページがまたがるものもある。また、当該期の遺構からは、縄文時代及びグスク時代相当期の遺物も出土しており、これらは前項までに報告した。

ここでは、まず各遺物の分類及び概要、そして各地区・区画別における出土状況について述べ、各遺物の詳細は、遺物観察表に記載する。

1　遺物の分類と概要

①白磁

清代以降の白磁は50点出土した。清代・徳化窯系の小碗（25）と皿（253）、小杯（2・14）が出土している。型成形のもので畳付に砂目が付く。

②中国産染付

染付は189点出土した。明代と清代に大きく分けられ、清代のものが殆どである。報告の便宜上、明代のものもまとめている。

明代　碗・皿が出土している。景徳鎮窯系や漳州窯系が出土しているが、小片のため図化していない。

清代　徳化窯系や福建・広東系のものが多く、景徳鎮窯系も出土している。

景徳鎮窯系　碗・小碗・皿・小杯が出土している。皿（222）は見込みに宝文を描く。小杯（65）は見込みに簡略化した荒磯文を描いている。

徳化窯系　碗・小碗・皿・小杯が出土している。碗（3・31・43・45・73・74・88・247）は唐草文または草文を描くもの（31・45・73）、丸文を描くもの（88・43）などがある。小碗（9・221）は、唐草文を描くもの（9）がある。皿（63）は見込みに菊花文を描く。

福建・広東系　碗・小碗・鉢が出土している。碗（26・76）や小碗（28）は、粗製染付である。鉢（46）は大形のもので、外面に圏線を施す。

③その他輸入陶磁器

青磁染付の碗（4）や、褐釉染付の小碗（35）。瑠璃釉の小杯（79）がある。今回は図化していないが、中国産褐釉磁器・陶器、三彩、色絵、タイ産褐釉陶器が出土している。(77)の口縁部は、器種は壺と考えられるが、産地の特定が難しく産地不明とした。

④本土産陶磁器

本土産の陶磁器類は48点出土した。染付・陶器類は少なく、近代陶磁器が多く出土している。

染付・陶器類　染付は肥前産が出土しており、碗（8）、蓋（44）、玉壷春形の瓶（248）、袋物（78）がある。

染付以外の磁器類は、肥前産の皿（24）や鉢の脚部（19）がある。陶器では、肥前産の皿（41）や薩摩焼の急須（47）、袋物（5）、蓋（34）がある。

近代陶磁器　明治～戦前・戦中に使用された近代の陶磁器類で、1228点出土している。普天間古集落遺跡からは多量に出土する。器種は碗、小碗、皿、小皿、小杯、蓋、急須、湯呑、瓶、火取等が出土している。この中には、昭和16～21年頃の戦時下において、国により陶磁器生産の統制・管理を行ったことを示す統制番号が標示されているものもある。碗・小碗・皿類については、絵付け方法から以下の分類記号を付け、碗－A類などとした。

A類　型紙染付で、型紙摺により絵付するもの。器種は碗が多い。
B類　銅版転写による絵付け。小碗や皿に多く見られる。
C類　ゴム版による絵付け。小碗に多く、花文や染色体文がある。
D類　吹き絵のもの。碗に多くみられ、富士山を描くものなどがある。
E類　通常の染付。
F類　クロム青磁。小碗や皿、瓶などがある。
G類　口縁部に緑色や青色の圏線が巡る、緑二重線入り厚口食器類。国民食器。

碗（129～131・160～164・183～194）
A類（129・160～164・183～187）は「スンカンマカイ」である。端反碗が多く、直口碗（164）もある。型紙摺りで花や福寿（164）、竹（129）の文様がある。（164）は高台内にマル内「1K」銘。
D類（130・188・189）は吹き絵により富士山（188・189）や波濤（130）を描く。
E類（131・190）は染付碗で梅（131）や草文（190）がある。
G類（191～194）は緑二重線入りの厚口碗である。直口碗（191～193）や丸碗（194）がある。高台内に統制番号「岐1075」（193・194）が入る。

小碗（113～116・132・133・137・147・165・173・176・182・195～199・251）
B類（113～116・137・195）は銅版転写で草花文（113）や丸文（114・115）などの文様がある。
C類（132・133・147・173）はゴム版によるもので、花唐草文（133）や葡萄文（132）、丸文（147）、染色体文（173）などがある。
E類（176）は染付で染色体文（176）を描く。
F類（251）は、クロム青磁に飛び鎬が施される。
G類（165・182・196～199）は緑二重線入りの厚口小碗である。高台内に統制番号「岐425」（198）、「岐464」（196・197）、「岐662」（182）が入る。

皿（92・108・117・134・135・145・166～170・200～202・216）
A類（117）は型紙摺りで矢羽根文を施す。**B類**（108・145・166～170・216）は銅版転写により草花文（108・169）や鶴丸文（167）、芙蓉手文（145）などの文様がある。ほかに**E類**の染付皿（134）や、角皿（135・216）、洋皿（202）、絵の具皿（92）などがある。
小皿（203・223）は銅板転写（203）やクロム青磁（223）のものがある。
小杯（110・204～209・224・225・243）
見込みに「祝」（205）や、「酒銘福の玉」（206）などの文字が見られるものや、高台が花弁状（224）となるものもある。（225）の底部片は統制番号「岐464」入りである。軍杯は大日本帝国陸軍・海軍関

連の図像や銘がある酒杯であり、(208・209) は見込みに日章旗・旭日旗が描かれる。器形は直口口縁で高台方形状に面取りしたもので、大正～昭和初期頃のものか (西川 2007・2008)。
蓋 (118・226・227) (118・226) は急須の蓋、(227) は碗の蓋と思われる。
急須 (111・151) (111) は外底に統制番号「瀬751」入り。
湯呑 (136) は直口口縁で梅文を描く。
瓶 (177・254) (254) は腰部にゴム版で「大日本　攝州灘　本嘉納」の文字。(177) はクロム青磁。
火取 (178) は型紙染付である。

⑤沖縄産施釉陶器

沖縄産施釉陶器は2625点出土しており、碗、小碗、鉢、皿、小皿、鍋、瓶、壷、酒器、蓋、袋物、急須、香炉、火取などがみられる。碗と小碗が多く出土しており、碗・小碗については、以下の分類記号を付している。その他の器種については、報告するものについて述べる。

碗　施釉方法や文様から以下の分類記号を付している。

A類 (16・32・95・98・119・138・241)　灰釉単掛けで胴部以下露胎となるもの。直口口縁を呈している。文様の有無から、(1類) 無文 (32・95・98・119・138・241) と (2類) 鉄釉による文様が施されるものに分けた。

B類 (120・139)　黒釉を施釉するもので、施釉方法から (1類) 黒釉単掛けで胴部以下露胎となるもの、(2類) 黒釉と白釉掛け分けで内底蛇の目釉剥ぎするもの、(3類) 黒釉と灰釉掛け分けで内底蛇の目釉剥ぎするもの (120・139)、の3種に細分している。

C類 (10・59・60・121・140)　白釉単掛けのもので、(1類) 無文 (10・140) や (2類) 呉須や線彫りによる有文のもの (59・60・121)、に分けられる。
A－2類、B－1・2類は小片のため図化していない。

小碗　小碗も分類施釉方法や文様から、以下の分類記号を付している。

A類 (29)　灰釉単掛けで胴部以下露胎となるもの。直口口縁を呈している。

B類　黒釉を施釉するもので、施釉方法から (1類) 黒釉単掛けで胴部以下露胎となるもの、(2類) 黒釉と白釉を掛け分けるもの、(3類) 黒釉と灰釉を掛け分けるもの (244)、の3種に細分しているが、B－1・2類は小片のため図化せず集計のみ行った。

C類 (11・141・174・228・235)　白釉単掛けのもので、(1類) 無文の端反口縁で胴部に面取りされるもの (228)、(2類) 無文のもの (11・141・235)、(3類) 呉須などによる有文のもの (174) がある。

小杯 (57・80・90) は、内外面白釉 (57・80) や外面黒釉・内面白釉掛け分け (90) がある。
鉢 (37・122) は、逆「L」字状口縁 (122) や内湾口縁 (37) があり、ともに外面黒釉・内面白釉を掛け分けている。
皿 (48) は、端反の皿で、白釉を施す。
小皿 (89) は灰釉を施釉し胴部以下露胎。
瓶 (81・218・237) (81・237) は白釉を線彫りによる草花文。(218) は長頸壷で双耳が付く。
壷 (61・238) (61) は油壷で黒釉を施す。
袋物 (96) は外面緑色釉で内面露胎となる。
酒器 (84・175・250) 線彫りにより区画した文様を施す。

蓋（33・51・109・171・211）は、鍋の蓋（33・51・109）や、油壺の蓋（171・211）が出土している。
急須（125・219・249）は、呉須で丸文を描く（249）や、底部（219）、大型急須の把手（125）がある。
香炉（123・210）（210）は胴下部に簡略化した脚がつく。
火炉（245）は直口口縁で、鉄緑釉を施す。
火取（124・148）は、胴下部に丸筵による圏線を施す。

⑥沖縄産無釉陶器

沖縄産無釉陶器は2438点出土している。甕、皿、小皿、壷、鉢、擂鉢、瓶、蓋、火炉、袋物、土鍋、急須、植木鉢がみられる。

甕（30・58・106）（30）は外底中央マル内やその周辺に「/」や「-」の線彫りがある。（58・106）はともに埋甕の底部片である。
壷（18・55・56・107・112・126・212）　壷は多く出土しており、口縁部形態から分類記号を付した。（**A類**）玉縁状、（**B類**）方形状、（**C類**）鍔縁状の三種に分け、さらに（**1類**）長頸と（**2類**）短頸で細分した。（126）はA－2類、（56）はB－1類、（55・107・212）はC－2類である。ほかに口縁部直下に縦耳が付く（18）や大形壷の底部（112）がある。底部片や胴部は、甕の可能性があるものも含まれている。
鉢（13・36・38・101・102・127）は、逆「L」字状口縁を呈する（38・101・127）や、小形で口唇部が短いもの（13）、内湾口縁（36）のものがある。（101・102）は同一個体とみられる。
擂鉢（6・128）（6）は上げ底となり脚部が付くものである。
瓶（242）は下膨れの器形である。
蓋（23）は厨子甕の蓋の摘み部分と思われる。
土鍋（20）は、直口口縁で煤が付着する。
植木鉢（42・64）（64）はほぼ完形のもので、内底に漆喰が塗られている。

⑦陶質土器

陶質土器は653点出土しており、皿、小皿、壷、鉢、擂鉢、鍋、灯明皿、蓋、急須、火炉がある。
鉢（103・152）は、内湾口縁である。
灯明皿（85）は三角形状の灯芯受けが付き、口縁部には煤が付着する。
火炉（17、142、143）は内面に突起を有する（142）や穿孔する（17）がある。

⑧瓦質土器

54点出土しており、皿、鉢、壷、急須、火炉が出土している。
火炉（66）は方形状を呈する。

⑨石器・石製品

縄文時代の石斧等も含めると総数42点出土で、砥石や硯、石臼、印部石がある。
砥石（1・68・86・255）　持砥は、石灰岩製の札形で穿孔した提砥（86）や、珊瑚礫を用いた（1）がある。置砥は、台石状のもの（68・255）があり、磨面の状況から金属製品の刃部の研磨に用いたと考えられる。
石臼（256・257）（256）は上臼で落とし口がある。（257）は下臼で、5区画の溝が刻まれる。
印部石（258）は「レ」などの字が刻まれている。

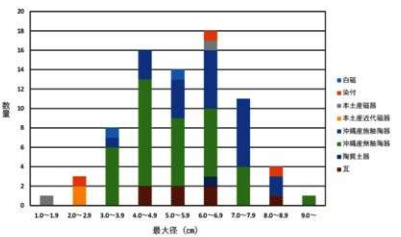
⑩煙管

煙管は 15 点出土しており、沖縄産施釉陶器製の雁首（7）・吸口（91）、無釉陶器製の雁首（15・27・72・87）、青銅製の雁首吸口が出土している。無釉陶器製雁首は面状面取りで断面多角形となる（72・87）や線状面取りで断面円形のもの（15・27）がある。（154）は青銅製の延べ煙管である。

⑪円盤状製品

総数 75 点出土している。素材は、白磁（75）、染付（39）、本土産磁器（229）、沖縄産施釉陶器（21・22・40・49・69・83）、沖縄産無釉陶器（50・246）、陶質土器、瓦（70・71）のものがある。円盤状製品の製作技法については、素材を円盤状に打ち割って製作するものが殆どであるが、剥離後に研磨を施すもの（71・83）もみられる。

また、素材・サイズ別の出土状況を第 106 図に示す。素材別で最も多いものは沖縄産無釉陶器製で、4～6cm 前後のものが多い。1～2ｃｍ前後の小型のものは磁器類を素材としており、素材ごとに大きさや傾向が認められた。



第 106 図　円盤状製品サイズ別出土状況

⑫銭貨

総数 29 点出土である。銭種が判るものでは寛永通寶があり、17 点出土している。古寛永（239）と新寛永（12・67）と分けられる。鉄銭（240）もみられる。ほかに銭種不明が 6 点、無文銭 1 点、近代銭が 4 点得られている。

⑬青銅製品

総数 19 点出土した。簪（144･259）、花弁状の金具（230）、器種不明の撮み（220）が出土しており、ほかに蝶番、留め具などがあるが今回は図化していない。

⑭鉄製品（金属製品）

鉄製品は 88 点出土している。鎌、鍬（157･158･181･213）、ツルハシ（217）、斧（156）、丸型のスコップ（155）、釘（153・231・232・236）、蹄鉄（146）、スプーンが出土している。殆どが近代～戦時中の頃のものと考えられる。

鍬（157・158・181・213）は、平鍬（158・181・213）が多く、撥状のもの（157）もみられる。

釘（153・231・232・236）では、角釘（231・232・236）と丸釘（153）がある。

⑬木製品

桶と位牌が出土している。

桶（180）は、板材を円形に並べ木底を付け、外側はたがで締め固めて作られている。

位牌（62）

形態と構造　屏位の９人立ちの位牌である。屏位とは位牌の類型名称で、屏風もしくは衝立のような木枠の中に長方形の板位牌を上下二段にはめこみ、下部に台座を付けたもので、沖縄位牌と呼ばれている（竹田 1976）。屏主とも呼ばれている（平敷 1995）。

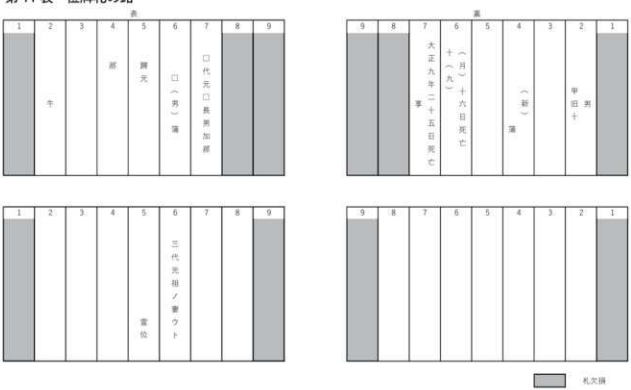
木枠は長方形で、中央枠により上下に区切られている。木枠内側には中央枠をはめ込むホゾ穴がある。中央枠の下側には下段の位牌札を持ち上げて取り出すための溝がある。木枠表面は黒の漆地に黒の堆錦技法による装飾を貼り付け、その上に金箔を貼っている。

文様と装飾　木枠の文様は左右に昇龍、中央に雲、下段に波で、上枠は欠損し不明である。また、木枠の左右には袖があり、葉状の袖飾りが付いていたものと考えられる。袖飾りは黒の漆地で縁に金箔を施す。台座の表面には朱の漆地に黒の堆錦技法で草花文を貼り付け、その上に金箔を貼る。木枠の装飾に施された金箔の殆どは剥落している。

位牌札　位牌札は上下二段に区切られ、各段９枚と想定される。位牌札表面は朱の漆地に金泥で俗名、裏面に黒の漆地に金泥で没年月日が書かれている。上段に男性、下段には女性と分けられている。位牌札は上・下段ともに左から①～⑨と番号を付した。状態が悪いため判読不明の位牌も多いが、いくつかの位牌札では銘が認められた。以下に、各段の位牌札銘を列記する。なお、銘は俗名で示されている。

上段の位牌　⑤『歸元』銘を中心とし、左から①札欠損、②表『牛』・裏『「男」の隣に「甲旧十」』銘で漆膜のみ残存、③表・裏判読不明、④表『那』・裏『「(新)」の隣に「蒲」』銘、⑥表『〇（男）蒲』・裏『「(月)十六日死亡」の隣に「十（九)」』銘、⑦表『〇代元〇長男加那』・裏『「大正九年　二十五日　死亡」の隣に「享」』銘、⑧・⑨は札欠損。

第 11 表　位牌札の銘



下段の位牌　⑤『霊位』を中心とし、左から①札欠損、②～④表・裏判読不明、⑥表『三代元祖ノ妻ウト』銘で裏判読不明、⑦・⑧表・裏判読不明、⑨札欠損。

上段位牌の裏面で銘が判読できたものは漆膜のみで、位牌から剥落し分離してしまっている。そのため、表面との対応関係は、破片の形や文字から推定したものである。この中で、上段④の位牌札は、雑な書体で上書きしたもので、他の位牌札と区別でき、同一のものであろうと推定できた。また、位牌札の並びについては、出土時の状況で並べているが、全体的に破損が著しく欠損した札もあるため、想定した並びであることを明記しておく。

保存処理　位牌は出土時には非常に脆くなっていた。現場での位牌の取り上げを行った後、位牌のクリーニング・接合・保存処理は㈱文化財サービスへの委託により実施した。

製作時期　沖縄国際大学非常勤講師の稲福政斉氏によると、位牌の形態や位牌札に書かれた銘から、近代（大正年間）に作られたもので、農村地域の家柄に一般的な位牌であるとされる。このような俗名を記した位牌は、臨済僧を招くことができない農村地域でよくみられ、形式としては新しいものとされる（平敷1994）。

出土地との関連　この位牌は、戦時中に埋められた土坑内（区画４４・ＳＫ334）から多量の本土産近代磁器とともに出土したものである。残存する位牌札の銘には上段⑦「長男加那」、下段⑥「三代元祖ノ妻ウト」など、人物名が判るものもあり、没年号も記されている。また、上段④と⑥の位牌札には「蒲」の字が認められるが、この位牌が出土した区画44は、昭和20年航空写真や宜野湾市教育委員会による戦前の屋号図と重ね図からは、屋号蒲喜屋武家の敷地に推定されるもので、屋号との関連が窺える。

※今回、この位牌の報告に際しては、沖縄国際大学非常勤講師の稲福政斉氏・浦添市美術館の金城聡子氏により多くの御教示を頂いた。

⑯瓦

明朝系瓦が1578点出土している。赤～褐色の赤色系を呈するものが殆どである。丸瓦（54・149）と平瓦（52・53・150・252）があり、部位ごとに集計を行った。丸瓦（54・149）・平瓦（52・53・150）は完形の資料である。

⑰その他の製品

ガラス製品やプラスチック製品、人形、ゴム製品、セメント、タイル、漆喰などをその他の製品としてまとめた。

ガラス製品　瓶や皿、キャップ、ビー玉など36点出土している。

瓶（93・94・97・99・100・104・105・214・233）は、薬瓶（94・99・100）や化粧瓶（93・104・105）、調味料の瓶（233）がある。ビー玉（215・234）も出土している。

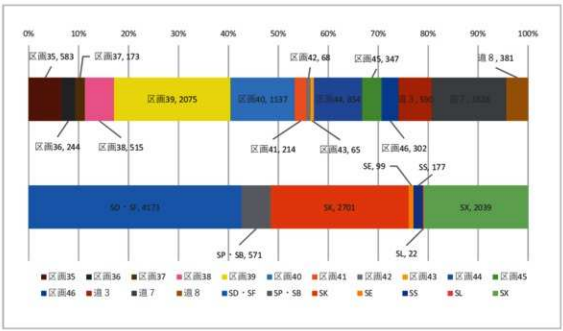
プラスチック製品　ボタン（159）や歯ブラシ（172・179）など5点出土している。

人形　（82）は瓦質の土人形であり、獅子など動物の脚部と考える。（260）はジュラルミン製の馬である。（261）はプラスチック製で、コカ・コーラ瓶のミニチュアである。戦後に持ち込まれたものか。

石材　当該時期の遺構からは、総数190点出土した。石灰岩やニービが多い。

２　遺物出土状況

近世～近代の遺構からは9782点出土した。区画35～46・道３～８では、区画39の出土が最も多い。次に、道７、区画40と続く。区画における遺構密度と遺物出土量は大きく関わっている。なお、区画別における割合算出に際しては、区画間の溝は除外している。また、遺構種別では区画溝や道（SD・SF）での出土が最も多く、土坑（SK）、その他（SX）と続く。

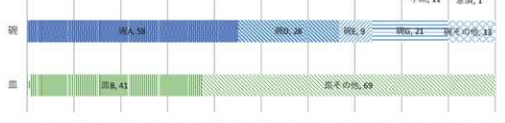


第 107 図　区画・道および遺構種別　遺物出土割合

SK334（Ⅹ Ⅰ地区・区画44）内一括出土本土産近代磁器

SK334内からは、多量の本土産近代磁器と位牌、沖縄産陶器、鉄製品、ガラス製品が一括して出土した。沖縄戦時中に埋められたものである。本土産近代磁器は破片357点・293個体が出土しており、土坑内出土遺物の９割を占める。第108図に器種・分類別の出土割合を示す。個体数は、口縁から底部まで接合するものと口縁部片もしくは底部片の多い方を足して算出した（沖埋文2013を参考）。

器種は碗・皿が主体で、小碗や小皿、小杯（軍杯）などがみられた。碗では、碗A類の型紙染付（スンカンマカイ）が多く、次にD類（拭き絵）、G類（緑二重線入り厚口碗）が多い。G類は高台内に統制番号がみられる。皿はB類（銅版転写）が多い。



第 108 図　SK334 本土産近代磁器　出土割合（個体数）

第12表　近世～近代　出土遺物観察一覧 a

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm)			観察事項	地区	区画	出土地
						口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (厚さ)				
第109図 図版30	1	石器	砥石	―	―	4.35	2.3	1.2	石灰岩製(サンゴの化石製)。石材の長軸に沿って研磨面。 重量:7.4g	X	35	SD1埋土
	2	白磁	小杯	―	口～底部	[4.9]	2.4	2.5	清代、徳化窯、型成形。全面に透明釉を施釉後、畳付にアルミナを塗布か。素地は白色で緻密。	X	35･36	SD3
	3	染付	碗	―	底部	―	6.4	―	清代、徳化窯、内底に二重圏線と草文、腰部に圏線、高台に二重圏線、外底に圏線と瓢箪文？を描く。畳付は釉剥ぎ。素地はややくすんだ白色で緻密。	X	35･36	SD3埋土
	4	青磁染付	碗	―	口縁部	―	―	―	清代、景徳鎮窯、外面に緑釉、内面に透明釉を施釉。外面に二重の圏線と算木文を施文。素地は白色で緻密。	X	35･36	SD3埋土
	5	本土産陶器	袋物	―	底部	―	[6.0]	―	胴部は底部からゆるやかに膨らむ。底部は平底で、ケズリによって高台状に面取される。内面はロクロナデの痕が明瞭に残る。透明釉を腰部まで施釉後、腰部で釉剥ぎ。素地はにぶい黄橙色で細かい。	X	35･36	SD3　2層
	6	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	―	底部	―	[12.4]	―	内面は櫛状の工具によって下ろし目が施される。底部は上げ底となり脚部が貼り付けられる。脚部を貼り付けた箇所はナデ調整の痕が明瞭に残る。器外面は灰色で、素地は褐色で細かい。	X	35･36	SD3埋土
	7	煙管	―	沖縄産 施釉陶器	雁首	―	―	―	羅宇接続部径1.7cm。外面に灰釉を施釉後、火皿の口を釉剥ぎ。素地は灰白色で細かい。重量:4.8g。	X	35･36	SD3埋土
	8	本土産染付	碗	―	底部	―	―	―	肥前。内底に圏線と虫文、外面に宝相唐草文?と圏線を描く。素地は白色で細かい。	X	35･36	SD3･4埋土
	9	染付	小碗	―	口縁部	[14.6]	―	―	清代、徳化窯。外面に二条の圏線の間に波濤文を巡らし、下位に唐草文を描く。口縁内面に圏線を巡らす。素地は黒色の粒子を含んだ白色で緻密。	X	35	SK31埋土 建物跡1号
	10	沖縄産 施釉陶器	碗	C-1類	口～底部	12.7	6.0	6.3	全面施釉後、畳付と見込みを釉剥ぎ。素地は褐色で細かい。素地の上に白化粧を施す。	X	35	SK31埋土 建物跡1号
	11	沖縄産 施釉陶器	小碗	C-2類	底部	―	[3.8]	―	全面施釉後、畳付と見込みを釉剥ぎ。素地はにぶい黄橙～白色で細かい。素地の上に化粧土を施す。	X	35	SK31埋土 建物跡1号
	12	銭貨	―	寛永通寳 (新)	―	2.3	0.6	0.1	全体的にかなり摩滅しているため、文字の輪郭は不鮮明。重量:2.5g	X	35	SK33埋土 建物跡1号
	13	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	口～底部	24.6	11.6	9.5	胴部は底部からゆるやかに内傾しながら立ち上がり、口縁部で短く逆L字状に屈曲する。内外面にロクロナデの痕が残る。底部は上げ底。器表面は灰色。素地は褐色で、白色粒を含み緻密。	X	35	SK21埋土
	14	白磁	小杯	―	底部	―	[1.7]	―	清代、徳化窯、型成形。透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。	X	35	SK80埋土
	15	煙管	―	沖縄産 無釉陶器	雁首	―	―	―	羅宇の表面は面取され、断面円形状を呈する。素地は白色粒を含み、暗赤褐色で細かい。重量2.3g	X	35	SK80埋土
	16	沖縄産 施釉陶器	碗	A類	底部	―	[7.4]	―	口縁部から胴部にかけて灰釉を施釉。素地は灰～にぶい黄橙色で細かい。	X	35	SK53埋土
	17	陶質土器	火炉	―	口縁部	[11.8]	―	―	胴部は口縁部下で逆くの字状に屈曲。口縁部下に穿孔。胎土は白色粒や赤色粒、雲母を含み橙色で細かいが軟質。	X	35	SK53埋土
	18	沖縄産 無釉陶器	壺	―	口縁部	―	―	―	口縁部はゆるやかに内湾する。口縁部下に縦耳状の把手が貼り付けられる。器外面にはマンガン釉が施される。素地は褐色で細かい。	X	35	SK53埋土
第110図 図版31	19	本土産磁器	鉢	―	底部	―	―	―	突起状の足が貼り付けられている。オリーブ灰色の釉を全面施釉後、外底を蛇の目状に釉剥ぎ。釉は半透明で貫入が入る。素地は灰色で緻密。	X	36	SD5埋土
	20	沖縄産 無釉陶器	土鍋	―	口縁部	―	―	―	口縁部は強く内側に屈曲する口縁。内外面ともナデが施される。口唇部にはススが付着。素地は赤色粒や白色粒を含み、橙色で軟質。	X	36	SD5埋土
	21	円盤状製品	―	沖縄産 施釉陶器	―	6.2	5.9	0.9	碗の底部を打ち欠いて円盤状に成形。底部は外面まで飴釉を施釉後、外底、高台裏を釉剥ぎ。素地は灰色で細かい。重量:60.5g	X	36	SD5埋土
	22	円盤状製品	―	沖縄産 施釉陶器	―	8.4	8.1	0.6	碗の底部を打ち欠いて円盤状に成形。素地は灰色で細かい。畳付には砂が付着。重量:104.9g	X	36	SD5埋土
	23	沖縄産 無釉陶器	蓋	―	摘み	―	―	―	厨子甕の摘み部分。摘みの径5.7cm。扁平な摘み。外面にマンガン釉を薄く施す。素地は橙色で細かい。	X	36	SD6埋土
	24	本土産磁器	皿	―	底部	―	[4.6]	―	肥前。18c代。灰白色の釉を全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。見込みは蛇の目状に釉剥ぎをする。素地はにぶい黄橙色で細かい。畳付の周辺に砂が付着する。	X	36	SD11埋土
	25	白磁	小碗	―	底部	―	3.5	―	清代、徳化窯、型成形。透明釉を高台まで施釉後、畳付にアルミナを塗布か。素地は白色で緻密。	X	36	SX14埋土 建物跡4号
	26	染付	碗	―	口縁部	[15.4]	―	―	17c後半～18c前半、福建･広東系、粗製染付。外面に簡素化した草文を描く。口縁部から胴部にのみ施釉。素地は白色の微粒子を含み灰白色で緻密。	X	36	SK123埋土 建物跡5号

第13表　近世～近代　出土遺物観察一覧 b

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm)			観察事項	地区	区画	出土地
						口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (厚さ)				
第110図 図版31	27	煙管	―	沖縄産 無釉陶器	雁首	3.1	―	―	火皿径1.8cm、羅宇接続部径1.6cm。羅宇及び火皿は面取され、断面形が円形状を呈する。素地は白色粒を含み黒褐色で細かい。 重量:8.3g	X	37	SK240埋土
	28	染付	小碗	―	底部	―	[3.8]	―	清代、福建・広東系。高台は露胎。素地は黒色の粒子を含み白色で緻密。	X	38	SD20埋土
	29	沖縄産 施釉陶器	小碗	A類	口～底部	[9.4]	4.4	[4.4]	口縁部から胴部にかけて灰釉を施釉。底部は露胎。素地はやや黄色みを帯びた灰白色で緻密。	X	38	SD20埋土
	30	沖縄産 無釉陶器	甕	―	底部	―	―	―	内面にナデ調整の痕が残り、外底には中央のマル内やその周辺に「/」や「―」の線彫りが施される。素地は白色粒を含み褐色で緻密。	X	38	SD20埋土
	31	染付	碗	―	底部	―	[4.8]	―	清代、徳化窯。外面に菊唐草文、高台に圏線。内底に圏線と花弁文、外底に圏線と銘?を描く。釉はやや青みを帯びる。素地は白色で緻密。	X	38	SD21埋土
	32	沖縄産 施釉陶器	碗	A-1類	口～底部	[12.8]	[6.6]	6.4	口縁部から胴部に灰釉を施釉。素地は灰白色で緻密。畳付と見込みに砂が残る。	X	38	SX24埋土
	33	沖縄産 施釉陶器	蓋	―	―	6.7	―	―	鍋の蓋。胴部下部に黄灰色の灰釉を施釉後、外底を蛇の目状に釉剥ぎ。口縁と外底に砂が付着。素地は褐色で細かい。	X	38	SX24埋土
	34	本土産陶器	蓋	―	―	―	―	―	底部は口縁部からほぼ直角に張り出す。素地は黒色で細かい。内外面とも辰砂色の釉を施釉。急須の口縁部と接する部分は釉剥ぎを施す。	X	39	SD25埋土
	35	褐釉染付	小碗	―	底部	―	[3.7]	―	清代、景徳鎮。17c後半。見込みに圏線と花弁文、外底に圏線と花弁文?外面は高台まで褐釉を施釉。内面は高台内面に透明釉を施釉。畳付は釉剥ぎ。素地は黒色の微粒子を含み白色で緻密。	X	39	SD30埋土
	36	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	口～底部	[15.7]	[9.0]	7.6	胴部は底部から外開きに立ち上がり、口縁部下で強く内湾する。底部は上げ底。素地は白色粒を含んだ褐色で細かい。	X	39	SD30埋土
第111図 図版32	37	沖縄産 施釉陶器	鉢	―	口～底部	[21.4]	10.4	10.1	口縁部は内湾。外面に飴釉、内面に透明釉を施釉後、畳付と見込みを釉剥ぎ。素地は浅い橙色で細かい。素地の上に白化粧を施す。重ね焼きの跡有り。	X	39	SD30埋土
	38	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	口～底部	45.4	20.8	[25.3]	胴部は底部からゆるやかに内湾しながら立ち上がり、口縁部で逆L字状に屈曲する。底部は平底。	X	39	SD30埋土
	39	円盤状製品	―	染付	―	6.5	5.0	0.9	17c後半、肥前。碗の底部を打ち欠いて円盤状に成形。高台の割取りは行っていない。重量:57.3g	X	39	SD30埋土
	40	円盤状製品	―	沖縄産 施釉陶器	―	5.3	4.8	1.1	碗の底部を打ち欠いて円盤状に成形。重量34.4g	X	39	SD30埋土
	41	本土産陶器	皿	―	底部	―	[8.8]	―	肥前。外面は腰より上部に透明釉を施釉。見込みには二条の圏線のように緑色釉を施している。蛇の目釉剥ぎ?目溜まりに目痕。素地は白色粒を含んだ灰色で細かい。	X	39	SK329埋土
	42	沖縄産 無釉陶器	植木鉢	―	底部	―	[13.0]	―	底部に脚を貼り付け、中央部には穴を穿つ。胴部の内外面ともナデ調整。底部はヘラケズリの後、ナデを施す。外面は褐色、内面は橙～灰白色を呈する。素地は白色粒や赤色粒を含み橙色で細かい。	X	39	SK362埋土
	43	染付	碗	―	口縁部	―	―	―	清代、18c。徳化窯。外面に丸文。内外面ともやや青みがかった透明釉を施釉。素地は黒色の微粒子を含み白色で緻密。	X	39	SK380埋土
	44	本土産染付	蓋	―	―	―	―	―	肥前。外面に網目文。内外面とも透明釉を施釉後、底部を釉剥ぎ。素地は黒色の微粒子を含んだ白色で緻密。	X	39	SK400埋土
	45	染付	碗	―	底部	―	[8.0]	―	清代、徳化窯。内底に圏線と唐草文、外面に草文と簡易な蓮弁・圏線を巡らす。高台は二重圏線を描く。やや青みがかった透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。	X	39	SK395埋土
	46	染付	大鉢	―	底部	―	[13.4]	―	福建・広東系。やや青みがかった透明釉を全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。高台に圏線、内底に圏線?を施す。見込みに重ね焼きした鉢若しくは碗の高台の一部が付着。素地はやや橙色みを帯びた白色で緻密。	X	39	SX35埋土
第112図 図版33	47	本土産陶器	急須	―	口縁部	[10.6]	―	―	薩摩焼。内外面とも土灰釉?を施釉。口唇部釉剥ぎ。素地は白色粒を含んだ橙色で細かい。	X	39	SX35埋土
	48	沖縄産 施釉陶器	皿	―	口～底部	[20.4]	[9.3]	[5.5]	口縁部はゆるく外反。白釉を全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。素地は橙色で細かい。焼成が良くないためかやや軟質。素地の上に白化粧を施す。	X	39	SX35埋土
	49	円盤状製品	―	沖縄産 施釉陶器	―	7.2	6.9	1.0	碗の底部を打ち欠いて円盤状に成形。他の円盤状製品に比べ打ち割る単位が細かい。重量:76.7g	X	39	SX35埋土
	50	円盤状製品	―	沖縄産 無釉陶器	―	7.3	7.2	1.5	蓋?を打ち欠いて円盤状に成形。重量:128.3g	X	39	SX35埋土
	51	沖縄産 施釉陶器	蓋	―	―	[12.7]	―	3.9	鍋の蓋。外面に飴釉を施釉後、口縁部と摘みの縁を釉剥ぎ。内面と釉剥ぎをした口縁部外面に化粧土を施す。素地は橙色で細かい。	X	39	SX40埋土
	52	瓦	明朝系平瓦	―	狭端部～ 広端部	18.1～ 24.4	23.5 (長さ)	1.4	完形。胎土は橙色で細かく、白色粒や赤色粒を含む。外面のナデや内面の布目痕が明瞭。重量:1150g	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1

第 14 表　近世～近代　出土遺物観察一覧 c

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm)			観察事項	地区	区画	出土地
						口径 (長軸)	底径 (短軸)	器高 (厚さ)				
第112図 図版33	53	瓦	明朝系平瓦	—	狭端部～ 広端部	18.3～ 25.5	23.5 (長さ)	1.5	完形。胎土は橙色で細かく、白色粒や赤色粒を含む。外面のナデや内面の布目痕が明瞭。両端部はナデによって稜を成している。重量:1160g	XI	40	SK171埋土 桝状遺構1
第113図 図版34	54	瓦	明朝系丸瓦	—	玉縁～ 端部	30.9	15.1	1.6	完形。胎土は橙色で細かく、白色粒や赤色粒を含む。外面のナデや内面の布目痕が明瞭。重量:1500g	XI	40	SK171埋土 桝状遺構1
	55	沖縄産 無釉陶器	壺	C-2 類	口～底部	11.1	15.1	39.2	完形。マンガン釉を外面全体に施釉。卵状の胴部で頸部にむけてすぼまる。頸部はラッパ状に立ち上がり、口縁部は玉縁状を呈する。肩部に丸箆で沈線をめぐらす。素地は白色粒を含む明赤褐色で細かい。	XI	40	SK328埋土
	56	沖縄産 無釉陶器	壺	B-1類	口～底部	17.3	19.8	45.1	完形。卵状の胴部で頸部にむけてすぼまる。頸部はまっすぐに立ち上がり、口縁部で逆L字状に屈曲する。肩部に丸箆で沈線をめぐらす。外面は灰褐色。素地は白色粒を含み褐色で細かい。	XI	40	SK328埋土
	57	沖縄産 施釉陶器	小杯	—	口～底部	4.3	2.0	2.1	白釉を内面と胴部に施釉後、見込みと腰部を釉剥ぎ。素地はくすんだ白色で緻密。	XI	40	SX40埋土
	58	沖縄産 無釉陶器	甕		底部	—	[23.2]	—	擂甕の底部片。内面に調整痕が明瞭に残る。器面外面は暗褐色。素地は白色粒を含み褐色で細かい。	XI	40	SP58埋土
	59	沖縄産 施釉陶器	碗	C-2類	口～底部	12.3	5.5	6.3	全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。外面に飴釉と呉須で草花文を描く。素地は赤色で細かい。白化粧を施す。	XI	44	SK334埋土
	60	沖縄産 施釉陶器	碗	C-2類	口～底部	12.3	5.4	6.3	全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。透明釉は外面を中心に白色に発色。外面に飴釉と呉須で草花文を描く。素地は赤色で細かい。白化粧を施す。	XI	44	SK334埋土
	61	沖縄産 施釉陶器	壺	—	口～底部	10.8	10.4	21.5	内外面に黒釉を施釉後、畳付内底を釉剥ぎ。素地は灰色で細かい。内面にロクロを用いたナデの痕が残る。いわゆる油壷。	XI	44	SK334埋土
第114図 図版35	62	木製品	位牌	—	—	—	—	—	屏位の9人立ち位牌。位牌札に銘あり。堆錦の装飾で左右に昇龍、中央に雲、下段に波。	XI	44	SK334埋土
第115図 図版36	63	染付	皿	—	口～底部	[14.6]	[7.7]	3.2	清代、徳化窯。全面に透明釉を施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁内と内底に菊花文。素地はややくすんだ白色で緻密。	XII	45	SD10埋土
	64	沖縄産 無釉陶器	植木鉢	—	口～底部	19.3	9.9	9.3	胴部は直線的に立ち上がり、口縁部は逆L字状に屈曲。底部の中心は穴が穿たれる。内底には漆喰が充填され、外底側はわずかに凹みを持つ。腰部に飛び鉋状の痕。素地は橙色で細かい。外面から口縁部内面にかけて泥釉を施す。	XII	46	SD20埋土
	65	染付	小杯	—	底部	—	2.3	—	清代、景徳鎮。全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。見込みに圏線と簡略化した荒磯文を描く。素地は白色で緻密。	XI	道7	SF1埋土
	66	瓦質土器	火炉	—	口～底部	—	—	—	内外面ともユビナデやヘラナデによって器面調整を行う。胎土は橙色で芯は灰色を呈し、赤色粒や白色粒、雲母を含んで細かい泥質の土。口縁部付近にススが付着。	XI	道7	SF1埋土
	67	銭貨	—	寛永通寶 (新)	—	2.3	0.6	0.1	全体的に緑青に覆われている。やや変形している。重量:2.8g	XI	道7	SF1南側溝内
	68	石器	砥石	—	—	15.1	11.5	6.8	ニービ製。台石状の置砥石。表面と裏面、側面の長軸方向に研磨痕。石材の角及び平坦面の中央には敲打痕。重量:1830g	XI	道7	SF1北側溝内
	69	円盤状製品	—	沖縄産 施釉陶器	—	6.2	5.4	0.5	灰釉碗の胴部を打ち欠いて円盤状に成形。重量:27.2g	XI	道7	SF1埋土
	70	円盤状製品	—	瓦	—	4.9	4.6	1.3	瓦を打ち欠いて円盤状に成形。重量:37.5g	XI	道7	SF1北側溝内
	71	円盤状製品	—	瓦	—	6.0	5.8	1.5	平瓦を打ち欠いて円盤状(隅丸方形)に成形。打ち欠いた面を研磨した可能性有り。重量:61.4g	XI	道7	SF1北側溝内
	72	煙管	—	沖縄産 無釉陶器	雁首	—	—	—	火皿径1.25cm。羅宇及び火皿は面取され、断面形が多角形状を呈する。素地は外面黒褐色。芯部は赤色。重量:6.7g	XI	道7	SD3埋土
	73	染付	碗	—	口～底部	[12.2]	[6.3]	5.3	清代、18c。徳化窯。高台外面まで施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。外面に唐草文を描く。素地は白色で緻密。	XI	道7	SD11埋土
	74	染付	碗	—	底部	—	[7.0]	—	清代、徳化窯。青みを帯びた透明釉を施釉後、畳付を釉剥ぎ。外面に圏線と簡易な蓮弁、内底に二重圏線と葉文を描く。全面に施釉後、素地は黒色の粒子が入る灰色で緻密。	XI	道7	SD11埋土
	75	円盤状製品	—	白磁	—	5.3	5.2	0.2	底部を打ち欠いて円盤状に成形。重量:21.4g	XI	道7	SD11埋土
第116図 図版37	76	染付	碗	—	底部	—	[7.3]	—	清代、福建・広東系。粗製染付。外面に唐草と丸鶴文の印花、高台に圏線を描く。素地は灰白色で緻密。底部～高台内に施釉後、見込みと内底を釉剥ぎ。	XI	道7	SD13埋土
	77	産地不明陶器	壺	—	不明	—	—	—	口唇部は内側に玉縁状に肥厚。内外面ともナデ調整が施される。素地は白色粒を含み灰色で細かい。	XI	道7	SD13埋土
	78	本土産染付	袋物	—	底部	—	4.8	—	肥前。腰部と高台に圏線を描く。内外面に施釉後、畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。	XI	道7	SD20埋土
	79	瑠璃釉	小杯	—	口～底部	4.2	—	—	徳化窯。外面に瑠璃釉、内面透明釉を施釉後、畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。	XI	道7	SD20埋土

第 15 表　近世～近代　出土遺物観察一覧 d

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
第116図 図版37	80	沖縄産 施釉陶器	小杯	―	口～底部	[5.0]	[2.4]	2.4	口縁部から腰部まで白釉を施釉後、腰部を釉剥ぎ。素地は灰白色で細かい。	XI	道7	SD20埋土
	81	沖縄産 施釉陶器	瓶	―	底部	―	―	―	肩から胴部にかけて線彫りで草花文を施文後、透明釉を施釉。素地は灰白色で細かい。素地の上に白化粧を施す。	XI	道7	SD20埋土
	82	人形	土製品	―		―	―	―	瓦質の人形の脚部分。犬若しくは獅子を模した人形。指の輪郭は箆状の工具を用いて表現。素地は橙色で雲母を含み細かい。	XI	道7	SD20埋土
	83	円盤状製品	―	沖縄産 施釉陶器		8.0	7.6	1.5	碗の胴部を打ち欠いて円盤状に成形。他の円盤状製品に比べ、剥取りが丁寧。重量：116.9ｇ	XI	道7	SD20埋土
	84	沖縄産 施釉陶器	酒器	―	口縁部	3.8	―	―	口縁部はラッパ状に開いた後、垂直に屈曲する。肩部に沈線を巡らせ、胴部上半には縦方向に連続した線彫りを施す。外面と頸部の内面に施釉を施す。素地は灰色で細かい。	XI	道8	SD16埋土
	85	陶質土器	灯明皿	―	口～底部	11.3	3.8	2.6	口唇部に三角形状の灯芯受けが付く。口唇部に煤が付着。内面と外面は口縁部はロクロナデを施し、底部付近はヘラケズリの痕が残る。素地は橙色で赤色粒や雲母を含んだ細かい泥質。	XI	道8	SD16埋土
	86	石器	砥石	―		8.8	4.1	2.7	石灰岩製。紐通しの穴が開けられている。両面が磨面で特に側面に研磨痕が顕著。重量：148.6ｇ	XI	道8	SD18埋土
	87	煙管	―	沖縄産 無釉陶器	雁首	―	―	―	火皿径1.8ｃｍ。羅宇接続部径は欠損しているため不明羅宇及び火皿は面取され、断面形が多角形状を呈する。素地は黒色で自然釉がかかる。重量:8.3g	XI	道8	SD16埋土
	88	染付	碗	―	口～底部	[15.2]	[6.9]	6.5	清代。徳化窯。やや青みがかった透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。高台内面に砂の痕有り。外面に二重圏線と丸文と草花文、高台に二重圏線、見込みに圏線と葉文。素地は微細な黒色粒を含む灰白色で緻密。	XI	―	1層
	89	沖縄産 施釉陶器	小皿	―	口～底部	[9.1]	[3.6]	2.6	内面と外面の口縁部付近にだけ白化粧を施し、その上から透明釉を施釉。胴部以下は露胎。素地は灰白色で細かい。	XI	―	1層
	90	沖縄産 施釉陶器	小杯	―	底部	―	[1.9]	―	外面は高台まで黒釉を施釉し、内面は白釉を施釉する。畳付と外底は施釉されない。素地はにぶい橙色で細かい。	XI	―	1層
	91	煙管	―	沖縄産 施釉陶器	吸口	―	―	―	灰釉を外面に施釉。口唇部は面取し、釉剥ぎを行う。素地はにぶい橙色。小口径1.4cm。重量:9.3g	XI	―	1層
図版38	92	本土産 近代磁器	皿	―	口～底部	11.6	11.6	1.0	絵の具皿。型成形で、円形状の枠で内部を区画している。底部は露胎。素地は白色で緻密。	X	35・36	SD4埋土
	93	ガラス製品	瓶	―	口～底部	1.4	a. 2.5 b. 1.4	7.2	横断面楕円形。色調は無色透明。化粧品の瓶か。	X	35	SK31埋土 建物跡1号
	94	ガラス製品	瓶	―	口～底部	1.9	a. 4.0 b. 2.2	8.3	胴部横断面が横長八角形。胴部に「生盛コロダイン」と「生盛薬剤株式會社」、側面に目盛と思われるエンボス。色調はコバルト色で透明。一般用薬瓶。	X	35	SK31埋土 建物跡1号
	95	沖縄産 施釉陶器	碗	A-1類	口縁部	[13.2]	―	―	灰釉を口縁部の内外面に施釉。素地は灰白色で細かい。	X	35	SK60埋土
	96	沖縄産 施釉陶器	袋物	―	胴部～ 底部	―	4.3	―	外面に緑色釉を施釉。内面は露胎。素地は浅黄橙色で細かい。	X	36	SD5埋土
	97	ガラス製品	瓶	―	口～底部	1.6	a. 4.0 b. 1.9	9.6	左右非対称の形態。外底に◯の中にモが描かれたエンボス。色調は透明。化粧瓶か。	X	36	SD6 埋土
	98	沖縄産 施釉陶器	碗	A-1類	口～底部	13.0	6.9	6.1	胴部以下露胎。素地は灰白～浅黄橙色で細かい。釉はやや白色に発色する。	X	36	SK103埋土
	99	ガラス製品	瓶	―	口～底部	1.7	a. 2.7 b. 1.6	5.6	胴部横断面が横長八角形で胴部縦方向に太い溝を持つ。胴部に「大学目薬」と「參天堂薬局」のエンボス。色調は透明。目薬瓶。	X	37・38	SD15埋土
	100	ガラス製品	瓶	―	口～底部	3.0	5.0	11.2	円筒形。胴部に「Wakamoto」、肩部の前面と背面に「わかもと」、外底に「23/NAGA/9」のエンボス。色調は茶色で半透明。整腸剤。	X	37・38	SD15埋土
	101	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	口縁部	[45.4]	―	―	逆L字状口縁。肩部に3条の横線や波状の沈線を施す。器表面は暗褐色。素地は赤褐色で緻密。102と同一個体と考えられる。	X	37・38	SD28埋土
	102	沖縄産 無釉陶器	鉢	―	底部	―	13.8	―	器表面に及び外底に漆喰？が付着。器面はロクロによるナデ調整。器表面は明赤褐色。素地は橙色～褐灰色で白色粒を含み緻密。101と同一個体と考えられる。	X	37・38	SD28埋土
	103	陶質土器	鉢	―	口縁部	―	―	―	内湾口縁。口縁部下に波状の沈線を施す。ロクロによるナデ調整。胎土は白色粒を含み橙色で細やか。	X	37・38	SD28埋土
	104	ガラス製品	瓶	―	口～底部	4.0	4.4	4.7	背の低い円筒形。高台内面に「□球替近恵冊？」のエンボス。色調は緑色で不透明。化粧クリーム瓶か？	X	37・38	SD28埋土
	105	ガラス製品	瓶	―	口～底部	5.4	6.0	3.3	背の低い円筒形。外底に「TONIC　POMADE」のエンボス。色調は白色で不透明。ポマード瓶。	X	37・38	SD28埋土
図版39	106	沖縄産 無釉陶器	甕	―	底部	―	24.0	―	胴部に擬線を巡らす。内面にロクロによるナデ調整の痕が明瞭に残る。器外面橙色。素地は白色粒を含み橙色で細かい。埋甕の底部片。	X	37	SP1437埋土

第16表　近世～近代　出土遺物観察一覧 e

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	法量(cm) 底径(短軸)	法量(cm) 器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
図版39	107	沖縄産 無釉陶器	壺	C-2類	口～底部	7.5	13.2	36.6	ほぼ完形。頸部と肩部に丸箆を用いて沈線を巡らす。外面に金属片が付着。素地は白色粒を含んだ細かい明赤褐色。	X	37	SX51埋土、方形石組1
図版39	108	本土産 近代磁器	皿	B類	口～底部	14.2	7.8	2.7	口錆。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	X	38	SD17埋土
図版39	109	沖縄産 施釉陶器	蓋	－	－	－	6.6	－	内外面に灰釉を施釉。内面は胴部下端付近で釉を掻き取っている。素地は橙～にぶい橙色で細かい。	X	38	SX24埋土
図版39	110	本土産 近代磁器	小杯	－	口～底部	6.6	2.8	2.5	全面乳白色の釉で施釉後、畳付を釉剥ぎ。見込みに色絵で桜が描かれていた痕跡。瀬戸・美濃系。	X	39	SD26埋土
図版39	111	本土産 近代磁器	急須	－	口～底部	7.2	6.0	8.9	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外底に「瀬751」の統制番号。瀬戸・美濃系。	X	39	SD26埋土
図版39	112	沖縄産 無釉陶器	壺	－	底部	－	22.2	－	大型壺の底部。器面はロクロによるナデ調整。器表面は赤褐色で、内面は黒褐色。白色粒を含む緻密な胎土。底部付近は焼き割れが生じている。	X	39	SD26埋土
図版39	113	本土産 近代磁器	小碗	B類	口～底部	7.6	3.0	4.8	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地はやや黄色じみた白色で緻密。外面に銅版転写による文様。高台に青色の圏線。	X	39	SD30埋土
図版39	114	本土産 近代磁器	小碗	B類	口～底部	7.4	3.4	4.8	肥前か。型作り。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版転写による文様。	X	39	SD30埋土
図版39	115	本土産 近代磁器	小碗	B類	口～底部	7.3	3.1	4.5	肥前か。型作り。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版転写による文様。	X	39	SD30埋土
図版39	116	本土産 近代磁器	小碗	B類	底部	－	2.8	－	肥前か。型作り。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版転写による文様。	X	39	SD30埋土
図版40	117	本土産 近代磁器	皿	A類	口～底部	12.8	8.0	2.9	肥前。全面施釉後に内底を蛇の目状に釉剥ぎ。素地は白色で緻密。型紙摺りによる施文。輪花皿。	X	39	SD30埋土
図版40	118	本土産 近代磁器	蓋	－	－	7.0	－	2.4	急須の蓋。全面施釉後に底部の内面のみ釉剥ぎ。素地は白色で緻密。花若しくは葉の文様が描かれている。	X	39	SD30埋土
図版40	119	沖縄産 施釉陶器	碗	A-1類	底部	－	6.0	－	胴部に灰釉を施釉。底部と腰部は露胎。素地は灰白色で細かい。見込みと畳付に砂が残る。	X	39	SD30埋土
図版40	120	沖縄産 施釉陶器	碗	B-3類	口縁部	－	－	－	外面に飴釉、内面に透明釉を施釉。素地は灰白～淡黄色で細かい。	X	39	SD30埋土
図版40	121	沖縄産 施釉陶器	碗	C-2類	底部	－	－	－	全面施釉後に、見込みと畳付を釉剥ぎ。イッチンで施文。素地は明黄褐～にぶい黄橙色で細かい。白化粧を施す。	X	39	SD30埋土
図版40	122	沖縄産 施釉陶器	鉢	－	口縁部	23.2	－	－	口縁部は逆L字状。外面に飴釉を施釉後、口縁部付近から透明釉を内面に施釉。白化粧を施す。素地は浅黄橙色で細かい。	X	39	SD30埋土
図版40	123	沖縄産 施釉陶器	香炉	－	口縁部	－	－	－	口唇部にコバルト釉を施釉後、口唇部から口縁部外面にかけて透明釉を施釉。素地は灰白～浅黄色で細かい。白化粧を施す。	X	39	SD30埋土
図版40	124	沖縄産 施釉陶器	火取	－	底部	－	10.4	6.6	外面腰部まで黒釉を施釉。胴下部に丸箆による圏線を巡らす。素地は淡黄色で細かい。素地の表面には薄く白化粧が施されている。	X	39	SD30埋土
図版40	125	沖縄産 施釉陶器	急須	－	把手	－	－	－	大型急須の把手。黒釉を施釉。素地は灰色で細かい。素地の上から薄く白化粧を施す。	X	39	SD30埋土
図版40	126	沖縄産 無釉陶器	壺	A-2類	口～肩部	－	－	－	口縁部は粘土を貼り付けて肥厚。肩部には耳を貼り付けていた跡有り。外面は自然釉によって黄緑色を呈する。素地は赤褐色で細かい。	X	39	SD30埋土
図版40	127	沖縄産 無釉陶器	鉢	－	口縁部	42.2	－	－	逆L字状口縁。頸部に波状の沈線や2条の圏線を施す。外面は明赤褐色、内面はにぶい赤褐色。素地は白色粒を含む赤褐色で細かい。	X	39	SD30埋土
図版40	128	沖縄産 無釉陶器	擂鉢	－	口～底部	27.8	12.2	12.4	逆L字状口縁。ロクロによるナデ調整。内面に櫛目を施す。器面及び素地は橙色で緻密。	X	39	SD30埋土
図版40	129	本土産 近代磁器	碗	A類	口～底部	14.0	4.2	6.3	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は灰白色で細かい。内外面に型紙摺りによる文様。見込みに目跡有り。いわゆるスンカンマカイ。肥前産。	X	39	SK362埋土
図版40	130	本土産 近代磁器	碗	D類	口～底部	10.9	3.8	5.5	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に吹き絵による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SK362埋土
図版41	131	本土産 近代磁器	碗	E類	口～底部	11.8	4.2	5.6	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に手描きによる文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SK362埋土
図版41	132	本土産 近代磁器	小碗	C類	口～底部	8.1	3.0	4.7	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面にゴム版による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SK362埋土
図版41	133	本土産 近代磁器	小碗	C類	口～底部	8.3	2.8	5.0	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面にゴム版による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SK362埋土
図版41	134	本土産 近代磁器	皿	E類	口～底部	－	－	2.2	口錆。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に染付による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SK362埋土

第 17 表　近世～近代　出土遺物観察一覧 f

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
図版41	135	本土産 近代磁器	皿	－	口～底部	－	－	－	透明釉を施釉。素地は白色で緻密。内面に波状文などの陽刻。	X	39	SK362埋土
	136	本土産 近代磁器	湯呑	－	口～底部	6.0	3.3	6.9	全面施釉。畳付には砂が付着。素地は白色で緻密。外面に色絵による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SK362埋土
	137	本土産 近代磁器	小碗	B類	口～底部	7.9	2.9	4.5	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SX35埋土
	138	沖縄産 施釉陶器	碗	A-1類	口～底部	－	6.0	6.1	口縁部から胴部にかけて灰釉を施釉。内面は胴部下端付近で釉を掻き取っている。素地はにぶい黄橙～白色で細かい。見込みと畳付に砂が残る。	X	39	SX35埋土
	139	沖縄産 施釉陶器	碗	B-3類	底部	－	6.5	－	胴部外面に飴釉。胴部内面から茶溜まりにかけて透明釉と飴釉が施され、見込みは蛇の目状に釉剥ぎ。素地はにぶい黄橙色で細かい。見込みには砂が残る。	X	39	SX35埋土
	140	沖縄産 施釉陶器	碗	C-1類	口～底部	－	5.9	6.5	全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。素地は灰白色で細かい。素地の上に白化粧を施している。	X	39	SX35埋土
	141	沖縄産 施釉陶器	小碗	C-2類	口～底部	8.3	3.7	4.0	全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。素地は淡黄橙色で細かい。素地の上に白化粧を施している。	X	39	SX35埋土
	142	陶質土器	火炉	－	口縁部	－	－	－	火入れ部は逆L字状を呈し、内面に突起を持つ。突起物の周囲は煤が付着。胎土は赤・茶色等の粒やガラス状の粒子が混り明赤褐色で砂質。	X	39	SX35埋土
	143	陶質土器	火炉	－	底部	－	8.5	－	高台は浅く、ロクロを用いたケズリで作り出している。器面はロクロナデを施す。胎土は赤・茶色等の粒やガラス状の粒子が混り、橙色で砂質。	X	39	SX35埋土
	144	青銅製品	簪	－	－	18.5	－	－	カブは耳掻き状。断面は六角形。軸部径0.2ｃｍ。重量:6.7g。	X	39	SX35上層
図版42	145	本土産 近代磁器	皿	B類	口～底部	14.4	7.4	2.9	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に銅版転写による文様。畳付に砂が付着。	X	39	SX40埋土
	146	鉄製品	蹄鉄	－	－	10.7	10.2	0.8	左右対称の形態。釘も一部残存。全体的に錆に覆われている。 重量:143.8g	X	39	SX40埋土
	147	本土産 近代磁器	小碗	C類	口～底部	8.1	2.7	4.7	クロム青磁。全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面にゴム版による文様。瀬戸・美濃系。	X	39	SX46埋土、壇
	148	沖縄産 施釉陶器	火取	－	底部	－	－	－	胴部外面に飴釉を施釉。素地は黄橙色で細かい。胴下部に丸鑿による圏線を巡らす。見込みや体部付近にロクロを用いた調整痕が明瞭。	X	39	SX46埋土、壇
	149	瓦	明朝系丸瓦	－	玉縁～ 端部	28.6	13.2	1.9	完形。胎土は明赤褐色で細かく、白色粒や黒色粒を含む。外面のナデや内面の布目痕が明瞭。瓦の縁に漆喰が付着。重量:1730g	X	39	SX52埋土、壇
	150	瓦	明朝系平瓦	－	狭端部～ 広端部	24.4	16.2	1.5	完形。外面のナデや内面の布目痕が明瞭。胎土は橙色で細かく、白色粒や赤色粒を含む。重量:1355g	X	39	SX52埋土、壇
	151	本土産 近代磁器	急須	－	口～底部	7.1	7.8	9.4	全面施釉後、底部と口縁部内面を釉剥ぎ。外面に草花文を呉須で描く。素地は白色で緻密。	XI	40	SK87埋土 柵状遺構2
	152	陶質土器	鉢	－	口縁部	－	－	－	内湾口縁。口縁部下に圏線と波状の沈線を巡らす。素地は赤色粒や白色粒、雲母を含み橙色で泥質。	XI	40	SK87埋土 柵状遺構2
	153	鉄製品	釘	－	－	9.6	－	－	錆膨れのため頭部上面観および断面形不明。頭部長軸:1.5cm、軸部径:0.7cm	XI	40	SK87埋土 柵状遺構2
図版43	154	煙管	－	青銅製品	雁首	－	－	－	全体的に潰れている。側面に接合部。長さ9.6cm、羅宇接続部0.8cm、火皿1.1cm。重量:9.5g	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1
	155	鉄製品	スコップ	－	－	36.2	23.7	0.3 (刃部)	刃部の先端は欠損。全体的に錆に覆われている。柄の部分無し。ソケット部分の径は約3.2cm。重量:680g	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1
	156	鉄製品	斧	－	－	23.5	6.8 (刃部)	4.6	柄の装着部に木材が残存。刃部の幅は柄の装着部付近に比べてあまり広がらない。全体的に錆に覆われている。	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1
	157	鉄製品	鍬	－	－	36.5	10.3	0.5 (刃部)	ミーフガー。肩抜きの刃部で、先端は錆で欠損。XI区で出土した他の鍬に比べて、刃部の幅が狭く、柄を装着する耳も薄い。全体的に錆に覆われている。重量:1640g	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1
	158	鉄製品	鍬	－	－	31.2	13.0	0.5	平鍬。刃幅いっぱいに厚い耳がつく。全体的に錆で覆われ、刃部の先端は錆で一部欠損。重量:1570g	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1
	159	プラスチック製品	ボタン	－	－	1.9	－	1.0	表面は桜の文様。裏面は圏線が巡らされ、紐を留める金具が残存。 重量:3.2g	XI	40	SK171埋土 柵状遺構1
	160	本土産 近代磁器	碗	A類	口～底部	14.1	4.3	6.6	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	40	SK328埋土
	161	本土産 近代磁器	碗	A類	口～底部	13.4	4.2	6.3	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。見込みに目跡有り。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	40	SK328埋土

第 18 表　近世～近代　出土遺物観察一覧 g

図版番号	挿図番号	種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
図版43	162	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	14.2	4.6	6.2	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	40	SK328埋土
	163	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	13.1	4.5	6.1	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	40	SK328埋土
図版44	164	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	11.5	4.2	5.5	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。見込みに目痕有り。高台内にマル内「1K」銘。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	40	SK328埋土
	165	本土産近代磁器	小碗	G類	口～底部	7.8	3.0	4.5	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	40	SK328埋土
	166	本土産近代磁器	皿	B類	口～底部	13.0	7.5	2.7	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	XI	40	SK328埋土
	167	本土産近代磁器	皿	B類	口～底部	13.0	7.5	2.7	口銹。全面施釉後に口唇部及び畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	XI	40	SK328埋土
	168	本土産近代磁器	皿	B類	口～底部	13.0	7.0	2.7	口銹。全面施釉後に口唇部及び畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	XI	40	SK328埋土
	169	本土産近代磁器	皿	B類	口～底部	13.0	7.2	2.7	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	XI	40	SK328埋土
	170	本土産近代磁器	皿	B類	口～底部	12.9	6.9	2.5	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	XI	40	SK328埋土
	171	沖縄産施釉陶器	蓋	－	－	－	－	－	油壺の蓋。外面肩に飴釉を施釉後、肩と首の間を蛇の目状に釉剥ぎを行い、そこに白化粧を施す。底部の外面に沈線をめぐらす。素地は灰白色で細かい。	XI	40	SE1埋土 井戸3
	172	プラスチック製品	歯ブラシ	－	－	－	－	－	頭部の上半は欠損。色調は茶色～薄い黄緑色で半透明。柄に「高級優秀歯科刷子」の文字有り。頭部短軸1.1ｃｍ・厚さ0.4ｃｍ。軸部長軸4.7cm・短軸0.9ｃｍ・厚さ1.0ｃｍ。重量:3.7ｇ	XI	40	SE1埋土 井戸3
	173	本土産近代磁器	小碗	C類	口～底部	－	2.8	3.4	全面施釉後に口唇部と畳付を釉剥ぎ。見込みと外面にゴム版により染色体文を施文。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	40	SX1埋土
	174	沖縄産施釉陶器	小碗	C-3類	口～底部	－	－	4.3	全面施釉後に見込みと畳付を釉剥ぎ。コバルト釉と飴釉で花文（イッチン）を施文。高台は外面を面取。素地はにぶい黄橙色で細かい。白化粧を施す。	XI	40	SX1埋土
	175	沖縄産施釉陶器	酒器	－	底部	－	7.0	－	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。肩部は圏線などを線彫りした後、コバルト釉と飴釉をかける。注口は白色の上を使用。素地は浅黄色で細かい。白化粧を施す。	XI	40	SX1埋土
	176	本土産近代磁器	小碗	E類	胴部	－	－	－	内外面とも透明釉を施釉。外面に手描きで染色体文を施文。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	40	SX40埋土
	177	本土産近代磁器	瓶	－	口～底部	5.5	－	11.2	クロム青磁。竹を模した花瓶。高台は露胎で、口縁部及び竹の葉の部分に青色の釉を施釉。素地は白色で緻密。	XI	43	SK324埋土 方形石組4
	178	本土産近代陶器	火取	A類	口～底部	－	－	－	外面の高台まで施釉後、畳付は釉剥ぎ。外面に型紙刷りによる文様。素地はやや黄色みを帯びた白色で細かい。砥部産。	XI	43	SK324埋土 方形石組4
	179	プラスチック製品	歯ブラシ	－	－	15.7	－	－	プラスチック製の歯ブラシで、毛は残っていない。色調は白～橙色で不透明。頭部長軸4.9cm・短軸1.1ｃｍ・厚さ0.4ｃｍ。軸部長軸10.8cm・短軸0.9ｃｍ・厚さ0.4ｃｍ。重量:6.8ｇ	XI	43	SK324埋土 方形石組4
図版45	180	木製品	桶	－	－	30.5	－	－	長方形の板約10枚で構成。	XI	44	SK314埋土 方形石組5
	181	鉄製品	鎌	－	－	31.6	13.0	0.3（刃部）	平鎌。刃幅いっぱいに厚い耳がつく。全体的に錆で覆われている。重量：1380ｇ	XI	44	SK314埋土 方形石組5
	182	本土産近代磁器	小碗	G類	口～底部	8.7	3.7	4.8	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。内底に「岐662」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK313埋土 方形石組6
	183	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	13.6	4.5	6.5	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。見込みに目跡有り。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	44	SK334埋土
	184	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	14.0	5.3	6.8	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。見込みに目跡有り。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	44	SK334埋土
	185	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	12.9	4.3	5.7	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	44	SK334埋土
	186	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	14.3	4.4	5.8	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。見込みに目跡有り。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	44	SK334埋土
	187	本土産近代磁器	碗	A類	口～底部	13.5	4.6	6.6	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に型紙刷りによる文様。見込みに目跡有り。いわゆるスンカンマカイ。砥部産。	XI	44	SK334埋土
	188	本土産近代磁器	碗	D類	口～底部	11.5	3.8	5.4	全面施釉後に口唇部及び畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に吹き絵による文様。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土

第19表　近世～近代　出土遺物観察一覧 h

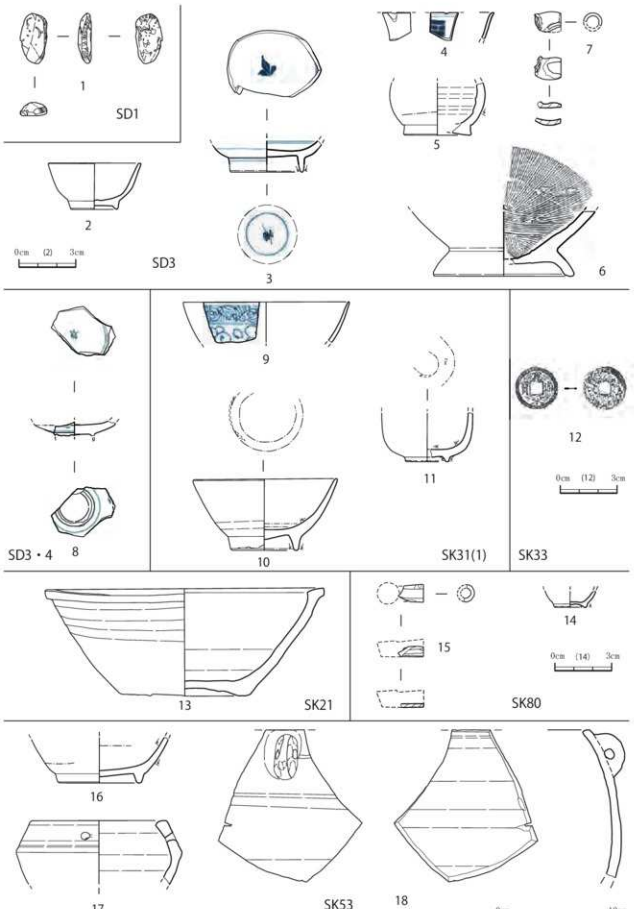
挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
図版45	189	本土産 近代磁器	碗	D類	口～底部	11.2	3.7	5.3	全面施釉後に口唇部及び畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に吹き絵による文様。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版45	190	本土産 近代磁器	碗	E類	口～底部	10.3	3.7	5.8	全面施釉後に口唇部及び畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に染付による文様。外底には「関？山」の銘と、「MADEIN・JAPAN・」の文字。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版45	191	本土産 近代磁器	碗	G類	口～底部	11.0	3.3	5.1	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版45	192	本土産 近代磁器	碗	G類	口～底部	10.8	3.5	5.1	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	193	本土産 近代磁器	碗	G類	口～底部	11.2	3.7	5.0	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。高台内に「岐1075」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	194	本土産 近代磁器	碗	G類	口～底部	10.8	4.5	5.5	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。外底に「岐1075」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	195	本土産 近代磁器	小碗	B類	口～底部	7.8	−	4.6	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。外面に銅版転写による文様。素地は白色で緻密。外底に「（不明）山」の銘。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	196	本土産 近代磁器	小碗	G類	口～底部	8.0	2.7	4.6	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。外底に陽刻で「岐464」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	197	本土産 近代磁器	小碗	G類	口～底部	8.0	2.7	4.6	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。外底に「岐464」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	198	本土産 近代磁器	小碗	G類	口～底部	8.0	2.7	4.6	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。外底に「岐425」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	199	本土産 近代磁器	小碗	G類	口～底部	8.0	2.7	4.6	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に二重の圏線を施す。素地は白色で緻密。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	200	本土産 近代磁器	皿	−	口～底部	13.0	7.2	1.9	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。見込みに色絵による文様。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	201	本土産 近代磁器	皿	−	口～底部	13.0	6.9	2.6	全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。見込みに色絵による文様。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	202	本土産 近代磁器	皿	−	口～底部	15.0	7.8	2.2	洋皿。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面に色絵による文様の跡有り。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	203	本土産 近代磁器	小皿	B類	口～底部	11.0	5.5	2.5	口錆。全面施釉後に口唇部及び畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面に銅版転写による文様。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	204	本土産 近代磁器	小杯	−	口～底部	5.0	1.8	2.8	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。内面に色絵の痕跡有り。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	205	本土産 近代磁器	小杯	−	口～底部	5.0	1.7	2.7	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。内面に色絵の痕跡有り。見込みには「祝」と思われる文字。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	206	本土産 近代磁器	小杯	−	口～底部	4.9	1.8	2.8	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。見込みに「酒銘福の玉」の文字及び、金粉？。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	207	本土産 近代磁器	小杯	−	口～底部	5.1	1.6	2.8	透明釉を全面施釉後、畳付を釉剥ぎ。内面に色絵の痕跡有り。見込みに「貿易店ムツワル」の文字。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	208	本土産 近代磁器	小杯	−	口～底部	6.1	2.1	2.8	軍杯。透明釉を施釉後、畳付を釉剥ぎ。見込みに色絵で日章旗や旭日旗、「退営記念」の文字。方形の高台。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	209	本土産 近代磁器	小杯	−	口～底部	6.2	2.1	2.9	軍杯。透明釉を施釉後、畳付を釉剥ぎ。見込みに色絵で日章旗や旭日旗、桜、文字（剥離のため判読不能）が描かれている。素地は白色で緻密。方形の高台。瀬戸・美濃系。	XI	44	SK334埋土
図版46	210	沖縄産 施釉陶器	香炉	−	口～底部	13.8	7.1	8.8	口縁部は逆L字状に短く屈曲する。口縁部下に円盤状の突帯を正面と裏面に張り付ける。胴下部に簡略化した脚がつく。口縁部から胴部にかけてコバルト釉を施釉。素地はにぶい黄橙色で細かい。白化粧を施す。	XI	44	SK334埋土
図版47	211	沖縄産 施釉陶器	蓋	−	−	12.0	8.3	3.2	油壺の蓋。外面肩に飴釉を施釉後、肩と首の間を蛇の目状に釉剥ぎ。庇部の外面に2条の沈線をめぐらす。素地は浅黄色で細かい。	XI	44	SK334埋土
図版47	212	沖縄産 無釉陶器	壺	C-2類	口～底部	11.0	15.5	39.6	完形。頸部と肩部に丸鑿で沈線をめぐらす。マンガン釉を施釉。素地は白色粒を含む明赤褐色で細かい。	XI	44	SK334埋土
図版47	213	鉄製品	鍬	−	−	28.3	13.1	0.6 (刃部)	平鍬。刃幅いっぱいに厚い耳がつく。全体的に錆で覆われている。重量：1550g	XI	44	SK334埋土
図版47	214	ガラス製品	瓶	−	口～底部	2.8 2.6	6.7	15.4	口縁部は楕円形。色調は青色で透明。	XI	44	SK334埋土
図版47	215	ガラス製品	ビー玉	−	−	2.5	−	−	不透明な乳白色のガラスに、深緑色のガラスが螺旋状に入る。重量：25.2g	XI	44	SK334埋土

第 20 表　近世～近代　出土遺物観察一覧 i

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
図版47	216	本土産近代磁器	皿	B類	口～底部	12.7	6.7	3.0	型成形による稜花皿。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内面は銅版転写、口縁部は吹き絵、腰部には2条の圏線が施される。瀬戸・美濃系。	XII	45	SD14埋土
	217	鉄製品	ツルハシ	－	刃部	33.8	－	－	刃部の反対側が平鏨状になる。柄装着部に木質が僅かに残る。全体的に錆で覆われている。重量:940g	XII	45	SX6埋土
	218	沖縄産施釉陶器	瓶	－	口～頸部	－	－	－	頸部に双耳が貼り付けられる。口縁部から頸部にかけて飴釉を施釉。素地は浅黄色で細かい。頸部内面にはロクロを用いた調整痕が明瞭に残る。	X	道3	SD33埋土
	219	沖縄産施釉陶器	急須	－	底部	－	－	－	外面は腰部から上にコバルト釉が、内面は透明釉が施される。底部と脚部は施釉されない。素地は浅黄～白色で細かい。白化粧を施す。	X	道3	SD33埋土
	220	青銅製品	器種不明	－	摘み	5.0	－	－	摘みが付く軸は空洞状。軸の摘みと反対側の側面には切れ込みが入る。重量:8.5g	X	道3	SD33埋土
	221	染付	小碗	－	口縁部	－	－	－	清代。徳化窯。外面に圏線、半梅花文。素地は白色で緻密。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	222	染付	皿	－	底部	－	－	－	清代。景徳鎮窯。見込みに宝文、外底に圏線と山水文？を描く。素地は白色で緻密。	XI	道7	SF1埋土石畳道
図版48	223	本土産近代磁器	小皿	－	口～底部	12.0	5.4	2.2	クロム青磁。全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。稜花状の口縁で青色の釉を施す。内面は型による文様。瀬戸・美濃系。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	224	本土産近代磁器	小杯	－	口～底部	－	－	2.7	口縁部に薄紫色の釉を施す。透明釉を施釉後、畳付を釉剥ぎ。花弁状の高台。素地は白色で緻密。瀬戸・美濃系。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	225	本土産近代磁器	小杯	－	底部	－	－	－	透明釉を施釉。素地は白色で緻密。内底に陽刻で「岐464」の統制番号。国民食器。瀬戸・美濃系。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	226	本土産近代磁器	蓋	－	－	7.2	－	3.3	急須の蓋。全面施釉後に底部を釉剥ぎ。素地は白色で緻密。外面に手描きの文様。瀬戸・美濃系。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	227	本土産近代磁器	蓋	－	－	10.0	－	3.0	碗の蓋か。全面施釉後に摘みの縁のみ釉剥ぎ。素地は白色で緻密。内外面にゴム版の文様。釉薬の上から色絵を施す。摘の内部に銘有り。瀬戸・美濃系。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	228	沖縄産施釉陶器	小碗	C-1類	底部	－	3.5	－	外面は面取り。全面施釉後に見込みと畳付を釉剥ぎ。見込みと畳付に砂が残る。素地は灰白で細かい。白化粧を施す。	XI	道7	SF1埋土石畳道
	229	円盤状製品	－	本土産磁器	－	6.5	6.2	1.0	口～腰部を打ち欠いて高台を円盤状に成形。重量:75.1g	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	230	青銅製品	金具	－	－	2.6	－	0.07	花弁を模した青銅製品。中心に直径3.6mmの穿孔。鞘のカブか。重量:2.6g	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	231	鉄製品	釘	－	－	7.5	－	0.7	軸部方形。頭部は隅丸の三角形で、側面観はL字状。頭部長軸1.7cm、短軸1.5cm。重量:26.5g	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	232	鉄製品	釘	－	－	6.9	－	1.0	軸部方形。頭部は六角形状で、側面観はL字状。軸部は錆で覆われている。頭部長軸1.8cm、短軸1.5cm。重量30.7g	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	233	ガラス製品	瓶	－	口～底部	2.2	a. 5.0 b. 2.8	8.4	外底に「ＡＪＩＮＯＭＯＴＯ　20」のエンボス。色調は無色で透明。調味料。	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	234	ガラス製品	ビー玉	－	－	1.3	－	－	色調は縞の入った緑色で不透明。重量:3.7g	XI	道7	SF1北側溝内石畳道
	235	沖縄産施釉陶器	小碗	C-2類	口～底部	－	3.6	4.3	全面施釉後、見込みと畳付を釉剥ぎ。胎土はにぶい黄橙色で細かい。化粧土を施す。	XI	道7	SF2埋土
	236	鉄製品	釘	－	－	7.4	－	－	頭部上面観隅丸三角形。軸部断面形方形。全体的が錆に覆われている。頭部は潰れている。頭部長軸:1.7cm、軸部径:0.7cm、重量:27.2g	XI	道7	SF2埋土
	237	沖縄産施釉陶器	瓶	－	口縁部	5.3	－	－	口縁部以下の外面に透明釉を施釉。頸～肩部に草花文を線彫りした後、コバルト釉と飴釉を施し葉、脈などを表現。白化粧を施す。素地はにぶい黄橙色で細かい。	XI	道7	SD10埋土
	238	沖縄産施釉陶器	壺	－	底部	－	9.3	－	黒釉を全面施釉後、腰部～内底まで釉剥ぎ。畳付に砂が残る。素地は灰白色で細かい。	XI	道7	SD10埋土

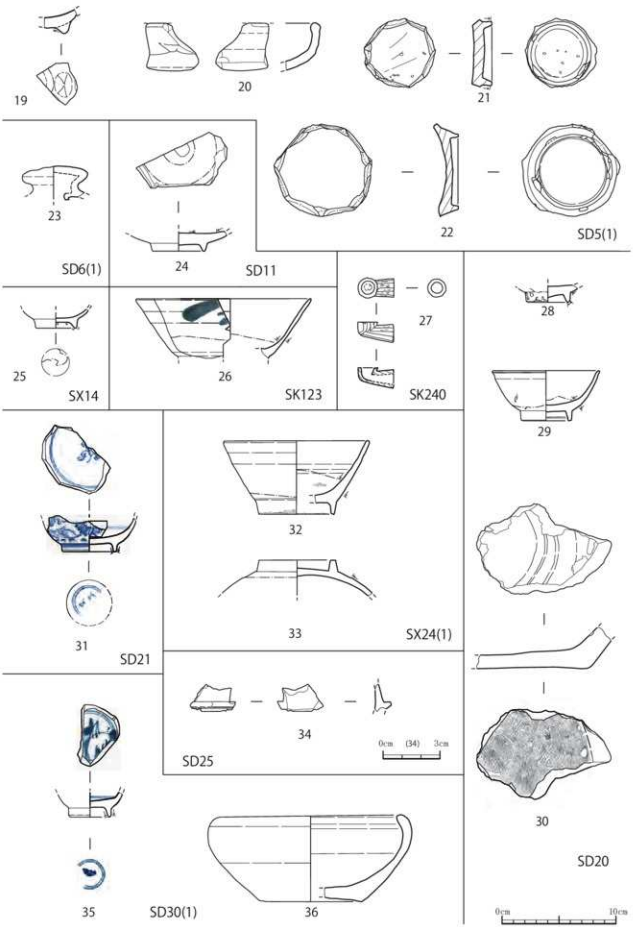
第21表　近世～近代　出土遺物観察一覧 j

挿図番号 図版番号		種類	器種	分類	部位	法量(cm) 口径(長軸)	底径(短軸)	器高(厚さ)	観察事項	地区	区画	出土地
図版48	239	銭貨	−	寛永通寶(古)	−	2.3	0.5	0.1	全体的にかなり摩滅しているため、文字の輪郭は不鮮明。重量:3.1g	Ⅺ	道7	SD10埋土
	240	銭貨	−	鉄銭	−	2.3	0.6	0.1	錆で覆われているため銘等は不明。鉄製か。重量:1.9g	Ⅺ	道7	SD10埋土
	241	沖縄産施釉陶器	碗	A-1類	口～底部	13.8	5.5	6.7	口縁部から胴部にかけて灰釉を施釉。素地は灰白色で細かい。	Ⅺ	道7	SD11埋土
	242	沖縄産無釉陶器	瓶	−	胴部	−	−	−	下膨れの器形。外面にはマンガン釉が施される。頸部に3条の沈線をめぐらす。素地は褐色で細かい。	Ⅺ	道7	SD11埋土
図版49	243	本土産近代磁器	小杯	−	口縁部	−	−	−	内外面とも透明釉が施釉され、口唇部は釉剥ぎを施す。素地は白色で緻密。	Ⅺ	道7	SD13埋土
	244	沖縄産施釉陶器	小碗	B-3類	口～底部	8.6	−	4.3	胴部外面に飴釉、胴部内面から茶溜まりにかけて透明釉と飴釉が施され、見込みは蛇の目状に釉剥ぎ。素地は灰白～にぶい黄橙色で細かい。見込みと畳付には砂が残る。	Ⅺ	道7	SD13埋土
	245	沖縄産施釉陶器	火炉	−	口縁部	−	−	−	直口口縁。口唇部から外面にかけて銅緑釉を施釉。内面は露胎。素地は灰白色で細かい。	Ⅺ	道7	SD14埋土
	246	円盤状製品	−	沖縄産無釉陶器	−	9.5	8.1	2.4	沖縄産無釉陶器を用いた円盤状製品。外面方向から打ち欠いて楕円形に成形。重量:251.2g	Ⅺ	道7	SD14埋土
	247	染付	碗	−	底部	−	−	−	清代・徳化窯。18C。外面に唐草文、下位に簡易な蓮弁を巡らす。見込みに圏線を巡らす。畳付は釉剥ぎ。素地は白色で緻密。	Ⅺ	道7	SD20埋土
	248	本土産染付	瓶	−	胴部	−	−	−	肥前。外面に鋸歯状の網目文。呉須はややくすんだ青色に発色。素地は白色で緻密。	Ⅺ	道7	SD20埋土
	249	沖縄産施釉陶器	急須	−	口～胴部	−	−	−	全体に透明釉を施釉した後、口唇～口縁部内面は釉剥ぎ。胴部は丸文を線彫りした後、呉須を施す。素地上には白化粧を施す。素地はにぶい黄橙色で細かい。	Ⅺ	道7	SD20埋土
	250	沖縄産施釉陶器	酒器	−	口～胴部	−	−	−	頸部内面～胴部外面に透明釉を施釉。肩部以下には文様を線彫りした後、コバルト釉や飴釉を施す。素地上には白化粧を施す。素地はにぶい黄橙色で細かい。注口は灰白色の土を使用。	Ⅺ	道7	SD20埋土
	251	本土産近代磁器	小碗	F類	−	−	3.1	3.8	クロム青磁。型成形。高台内側と外底は露胎。外面に飛び鉋を施す。素地は白色で緻密。	Ⅺ	道8	SF3埋土
	252	瓦	明朝系平瓦	−	狭端部	−	−	−	胎土は明赤褐色で細かく、白色粒や黒色粒を含む。外面のナデや内面の布目痕が明瞭。瓦の内側に一部漆喰が付着。重量:336.7g	Ⅺ	道8	SF3埋土
	253	白磁	皿	−	底部	−	−	−	清代・徳化窯。型成形。透明釉を全面施釉後に畳付を釉剥ぎ。畳付に砂が残る。素地は白色で緻密。	Ⅺ	−	I層
	254	本土産近代磁器	瓶	−	口～底部	2.0	7.5	26.8	やや青みを帯びた透明釉を口～畳付付近まで施釉後、畳付を釉剥ぎ。口縁部下に栓を閉めるための金具を付ける穴がある。腰部にゴム判で「大日本　播州灘　本嘉納」の文字。素地は白色で緻密。	Ⅺ	−	I層
	255	石器	砥石	−	−	23.9	18.1	3.3	片状砂岩製。台石状の置砥石。正面及び裏面を研磨に利用。側面に成形のための剥離痕有り。重量:2945g	Ⅹ	−	I層
図版50	256	石製品	石臼	−	−	34.0	33.5	9.5	凝灰岩製。上臼。側面に把手を取り付けるための抉りがある。中心より偏心位置に供給口が設けられている。上下を固定するための鉄製の芯棒の一部が残存。	Ⅹ	−	I層
	257	石製品	石臼	−	−	34.0	34.0	9.5	凝灰岩製。下臼。五区画の溝が刻まれている。中心に上下を固定するための芯棒孔が設けられている。	Ⅹ	−	I層
	258	石製品	印部石	−	−	56.0	30.0	8.4	ニービ製。「レ」などの字が刻まれている。	Ⅹ	−	I層
	259	青銅製品	簪	−	−	11.7	−	−	カブは耳掻き状。断面は六角形。軸部径0.3cm。重量:9.3g。	Ⅺ	−	I層
	260	人形	人形(馬)	−	−	2.0	2.0	0.4	ジュラルミン製。目やたてがみといった細部まで表現されている。重量:1.3g	Ⅹ	−	I層
	261	プラスチック製品	人形	−	−	0.5	1.3	3.9	コーラの瓶を模した製品。「Coka Cola」のロゴが入る。赤色の塗料を塗っていた痕跡有り。戦後の製品か。重量:3.7g	Ⅺ	−	I層



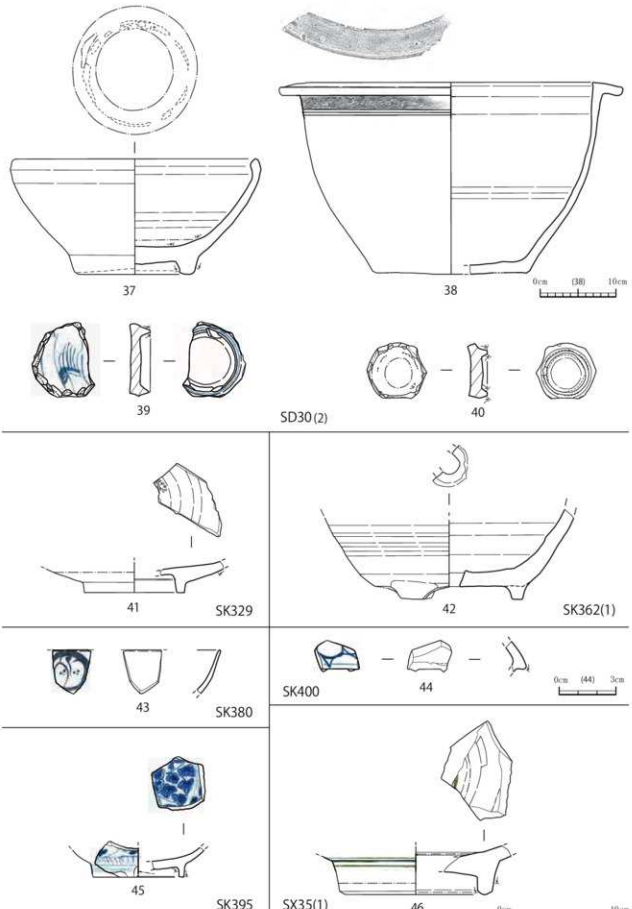
第 109 図　近世～近代 1　区画 35 出土遺物（X 地区）

図版 30　近世～近代 1　区画 35 出土遺物（X 地区）



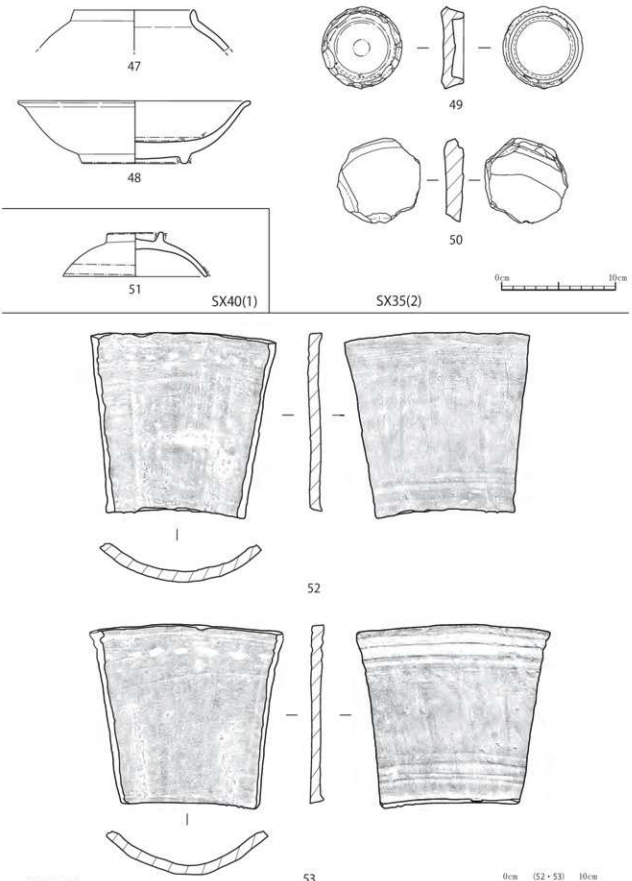
第 110 図　近世～近代 2　区画 36 ～ 39 出土遺物（X 地区）

図版 31　近世～近代 2　区画 36 ～ 39 出土遺物（X地区）



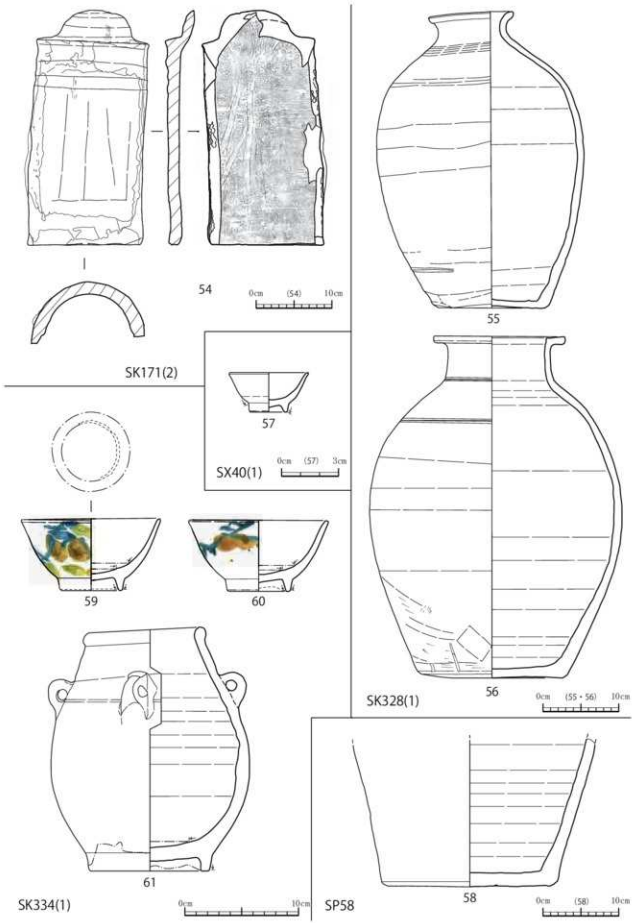
第 111 図　近世～近代 3　区画 39 出土遺物（X 地区）

図版 32　近世～近代 3　区画 39 出土遺物（X 地区）



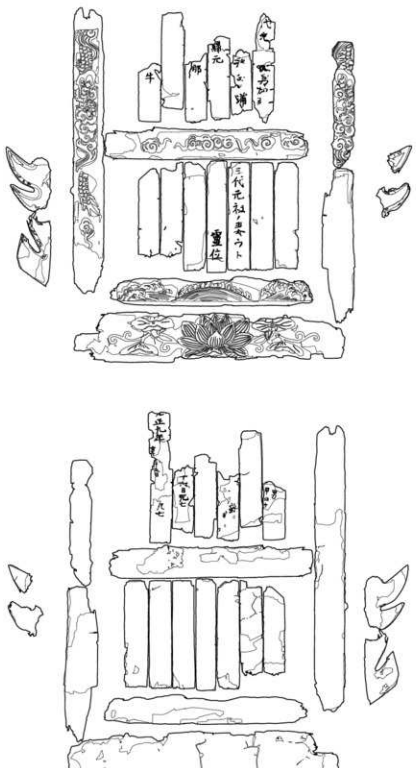
第 112 図　近世～近代 4　区画 39・40 出土遺物（X・XI 地区）

図版 33　近世～近代 4　区画 39・40 出土遺物（X・XI 地区）

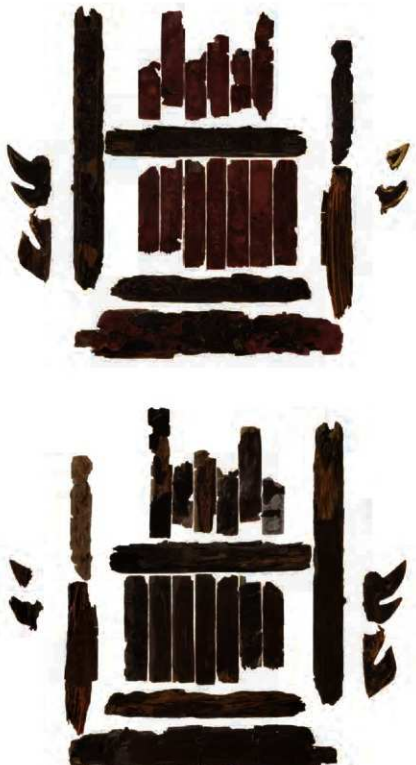


第 113 図　近世～近代 5　区画 40・44 出土遺物（XI 地区）

図版 34　近世～近代 5　区画 40・44 出土遺物（XI 地区）



第 114 図　近世～近代 6　区画 44 出土遺物（XI 地区）

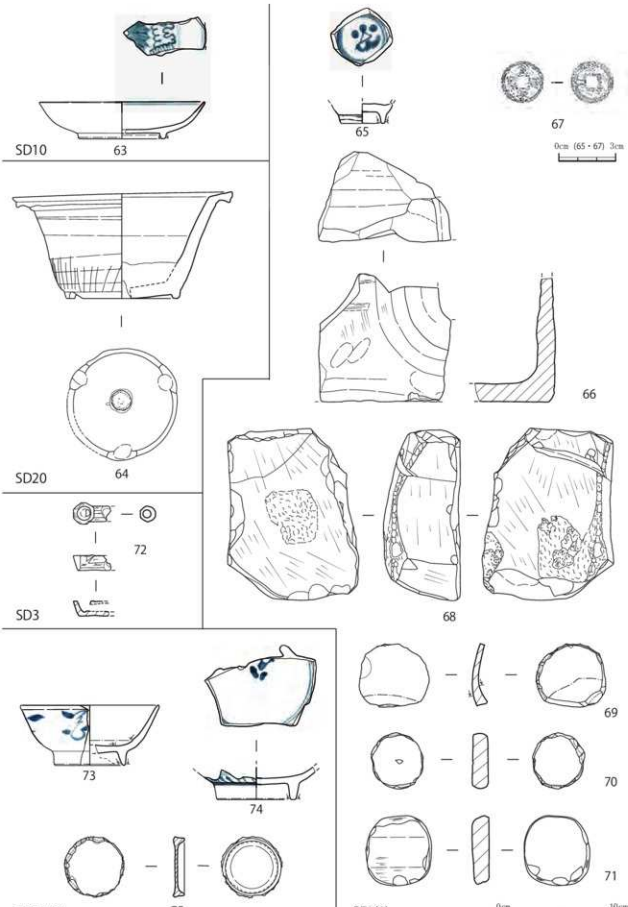


62

SK334(2)

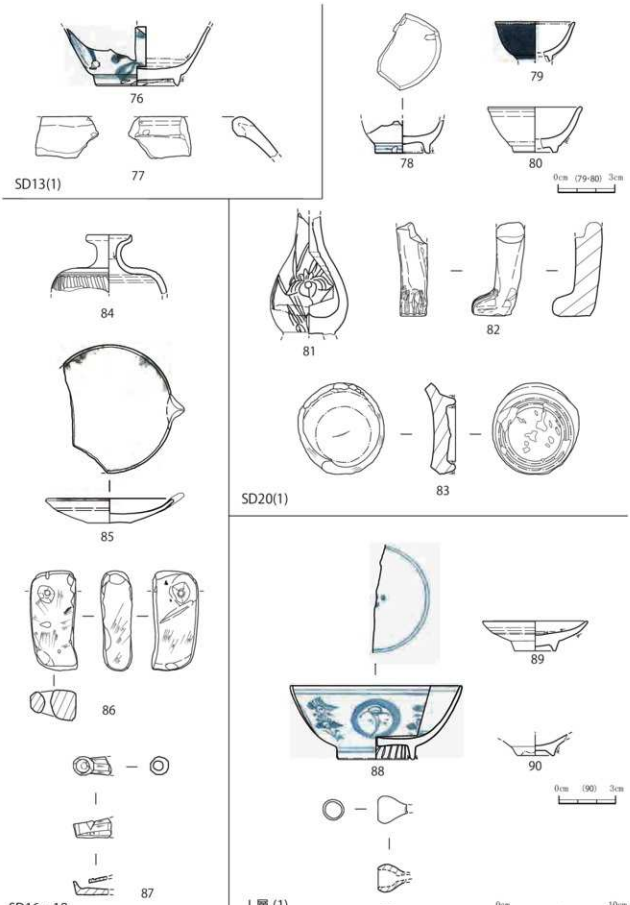
0　10cm

図版 35　近世～近代 6　区画 44 出土遺物（XI 地区）



第 115 図　近世～近代 7　区画 45 ～ 46・道 7 出土遺物（XI・XII 地区）

図版 36　近世～近代 7　区画 45 ～ 46・道 7 出土遺物（XI・XII 地区）



第 116 図　近世～近代 8　道 7～8・I 層出土遺物（XI・XII 地区）

図版 37　近世～近代 8　道 7～8・Ⅰ層出土遺物（XI・XII 地区）

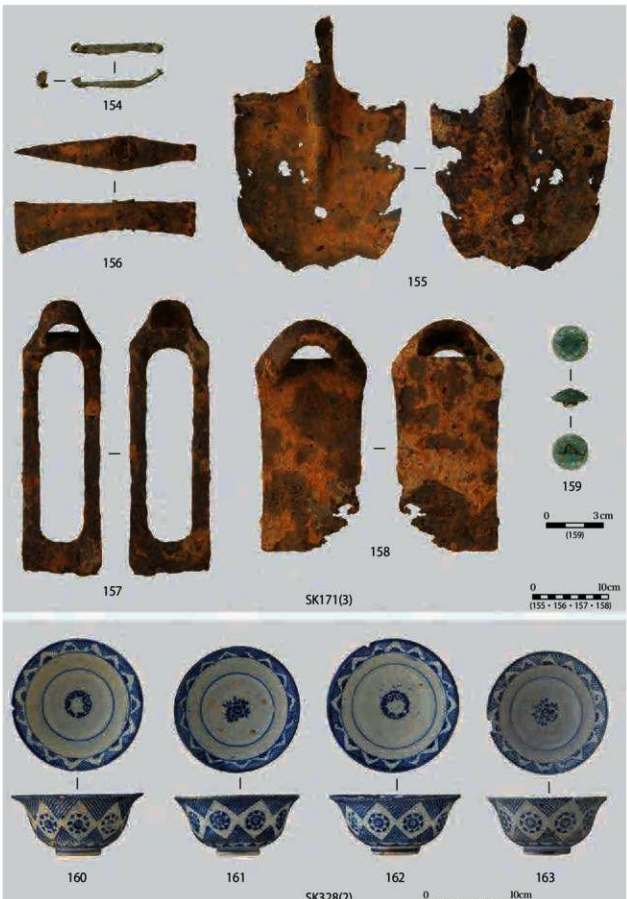
図版 38　近世～近代 9　区画 35 ～ 38 出土遺物（X地区）

図版 39　近世～近代 10　区画 37 ～ 39 出土遺物（X地区）

図版 40　近世～近代 11　区画 39 出土遺物（X地区）

図版 41　近世～近代 12　区画 39 出土遺物（X 地区）

図版 42　近世～近代 13　区画 39 ～ 40 出土遺物（X・XI 地区）



図版 43　近世～近代 14　区画 40 出土遺物（XI 地区）

図版 44　近世〜近代 15　区画 40・43 出土遺物（XI 地区）

図版 45　近世～近代 16　区画 44 出土遺物（XI 地区）

図版 46　近世〜近代 17　区画 44 出土遺物（XI 地区）

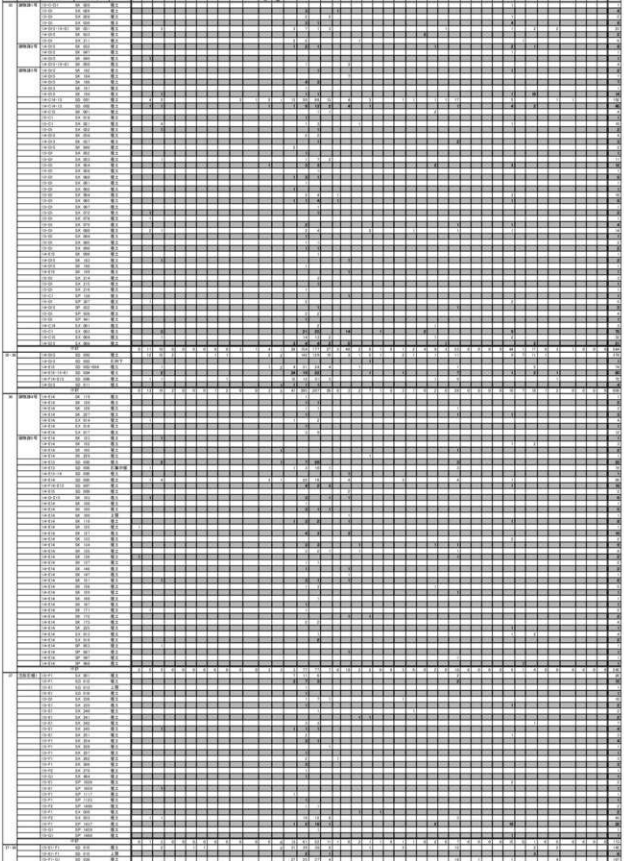
図版 47　近世～近代 18　区画 44～45・道 3・7 出土遺物（X～XII 地区）

図版 48　近世～近代 19　道 7 出土遺物（XI 地区）

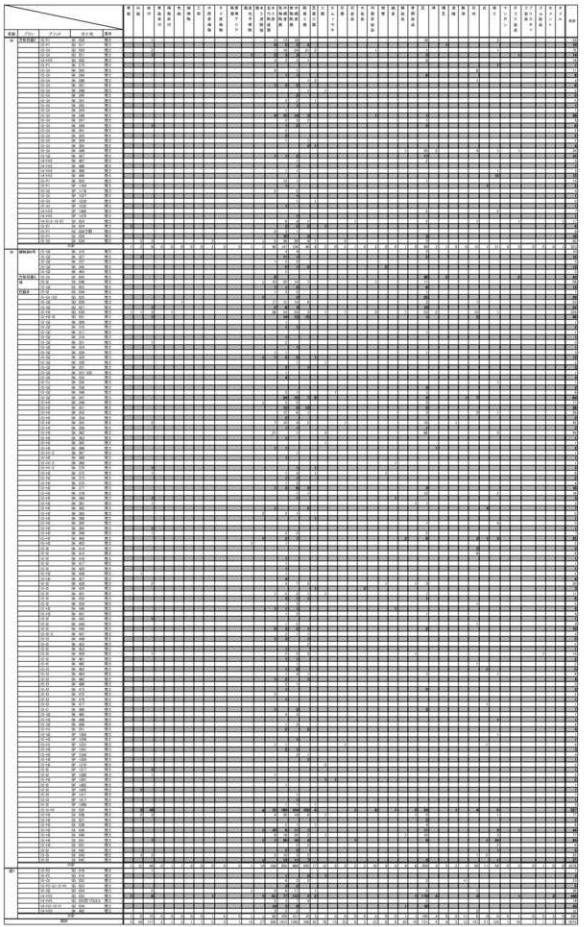
図版 49　近世～近代 20　道 7・8・I 層出土遺物（X～ XI 地区）

図版 50　近世～近代 21　Ⅰ層出土遺物

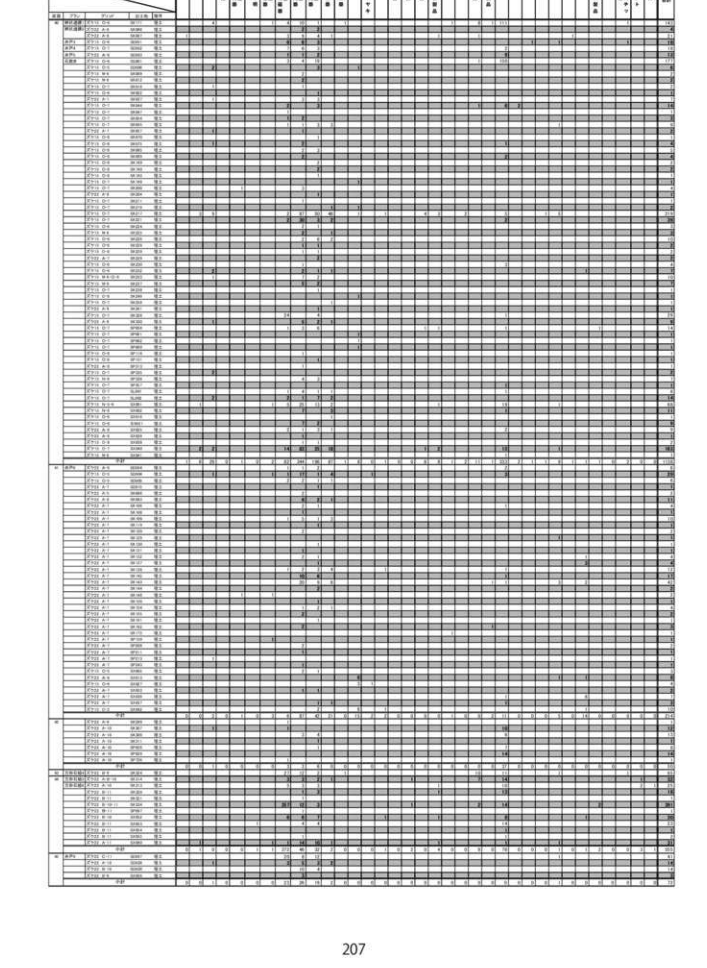
第 22 表　近世～近代の遺構　遺物出土状況（X 地区）1



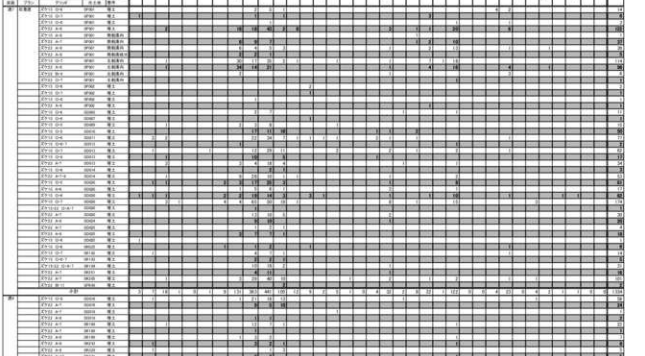
第 23 表　近世～近代の遺構　遺物出土状況 (X 地区) 2



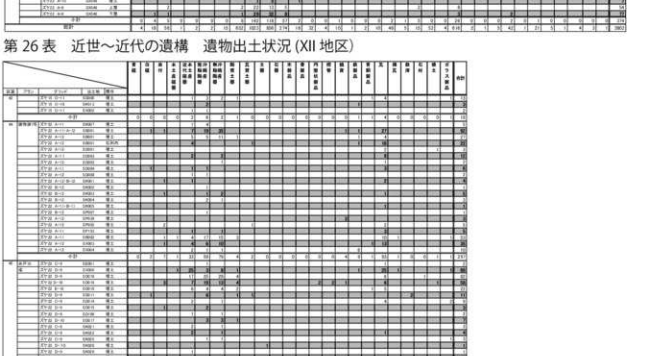
第 24 表　近世～近代の遺構　遺物出土状況 (XI 地区) 1



第 25 表　近世～近代の遺構　遺物出土状況 (XI 地区) 2



第 26 表　近世～近代の遺構　遺物出土状況 (XII 地区)



第27表　中国産青磁集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序／部位	碗 V類 胴部	碗 VI類 底部	碗 幅広高台タイプ 口縁部	碗 — 口縁部	皿 V類 底部	瓶 — 摘み	器種不明 — 胴部	合計
X区	36		14-E14	SK 125	埋土							1	1
			14-E14	SK 136	埋土					1			1
	38		14-E15・15-E1	**SX 024**	埋土							1	1
	39		15-H2	SD 030	埋土				1				1
	道3		14-H15	SD 033	埋土							1	1
	小計					0	0	0	1	1	0	3	5
XI区	40	柵状遺構2	ズケ22 A-8	SK 087	埋土		1						1
	道7	石畳道	**ズケ15 O-7**	SF 001	埋土	1							1
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土			1					1
			ズケ15 O-6	SD 025	埋土						1		1
	小計					1	1	1	0	0	1	0	4
XII区	46		ズケ22 E-13	SD 020	埋土					1			1
	小計					0	0	0	0	1	0	0	1
総計						1	1	1	1	2	1	3	10

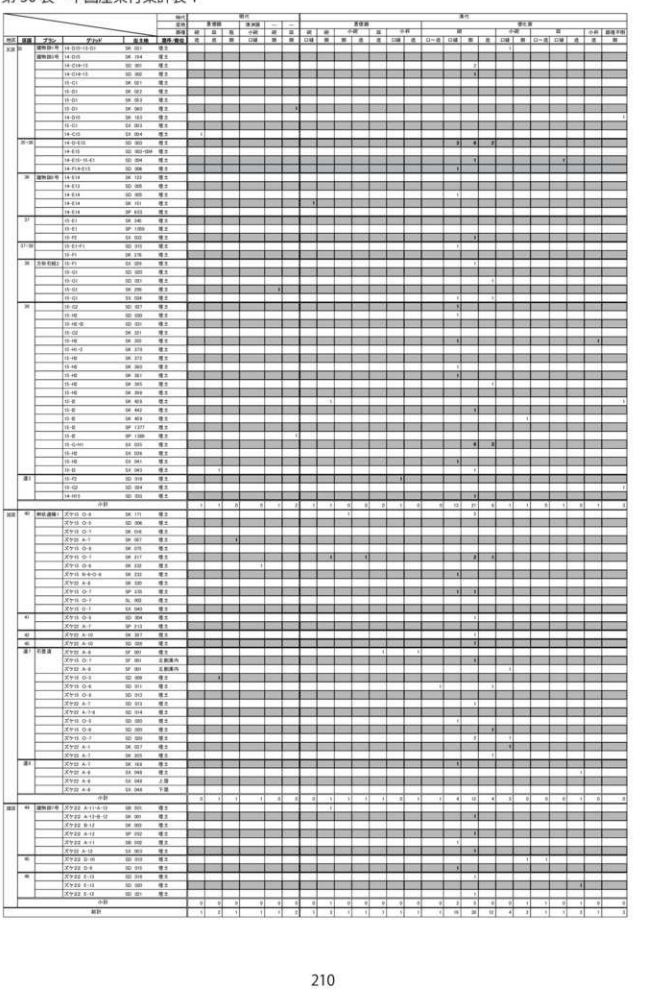
第28表　中国産白磁集計表

					時代・産地	グスク								明代		清代・徳化窯										合計
					器種	碗							器種不明	皿	碗	碗			小碗			皿	小杯			
					分類	Ⅳ類（玉縁碗）			Ⅴ類（外反碗）	Ⅷ類（櫛描碗）	Ⅸ類（口禿碗）	—	—	D'群	E群	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序/部位	口縁	胴	底	口縁	胴	胴	胴	胴	底	胴	口縁	胴	底	口縁	胴	底	口縁	口～底	口縁	底	
X区	35	建物跡2号	14-D15	SK 049	埋土	1																				1
			14-C14・15	SD 001	埋土									1					1	1	1					4
			14-C14・15	SD 002	埋土					1																1
			15-D1	SK 072	埋土		1																			1
			15-D1	SK 078	埋土			1																		1
			15-D1	SK 080	埋土							1													1	2
			15-D1	SP 357	埋土											1										1
	35・36		14-D・E15	SD 003	埋土		2												6	2	1		1			12
			14-F14・E15	SD 008	埋土																		1			1
	36	建物跡4号	14-E14	SX 014	埋土																1					1
			14-E13	SD 005	石集中部														1							1
			14-E14	SD 005	埋土													1								1
			14-D・E15	SK 103	埋土						1															1
			14-E14	SK 171	埋土								1													1
	37		15-F2	SX 033	埋土	1																				1
	38		15-G1	SX 034	埋土				1								1									2
	39	建物跡6号	15-G2	SK 327	埋土														1							1
			15-H2	SD 030	埋土														1							1
			15-H2	SK 426	埋土										1											1
			15-I2	SP 1405	埋土																1					1
			15-G・H1	SX 035	埋土		1												1		1					3
			15-H2	SX 036	埋土														1		1					2
			15-I3	SX 043	埋土														2	1						3
	小計					2	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14	4	8	0	2	0	1	44
XI区	40		ズケ15 O-7	SK 217	埋土														1	1	1					3
			ズケ15 N-5・6	SX 001	埋土																1					1
			ズケ15 O-7	SX 040	埋土														1		1					2
	44		ズケ22 A-11	SX 060	埋土														1							1
	道7		ズケ15 O-6	SD 011	埋土											2		1								3
			ズケ15 O-5	SD 020	埋土																	1				1
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土															1						1
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土																1					1
			ズケ15 O-7	SK 182	埋土	1																				1
	道8		ズケ15 O-8	SD 018	埋土																1					1
			ズケ22 A-8	SK 293	埋土																1					1
			ズケ22 A-8	SK 329	埋土														1							1
			ズケ22 A-8	SX 048	下層																1					1
	小計					1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	4	2	7	1	0	0	0	18
XII区	44	建物跡7号	ズケ22 A-11・A-12	SB 001	埋土														1							1
			ズケ22 A-11	SD 004	埋土														1							1
	45		ズケ22 D-9	SD 011	埋土																			1		1
	46		ズケ22 E-14	SD 019	埋土		1																			1
	小計					0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	4
総計						3	5	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	2	20	6	13	1	2	1	1	66

第29表　青磁染付・褐釉染付・中国産褐釉磁器・色絵・瑠璃釉・三彩・中国産褐釉陶器・タイ産褐釉・東南アジア産陶器・産地不明陶器集計表

					種類	青磁染付	褐釉染付	中国産褐釉磁器	色絵		瑠璃釉		三彩	中国産褐釉陶器		タイ産褐釉	東南アジア産陶器	産地不明陶器				合計
					時代／産地	清代・景徳鎮		—	—	—	—	—	—	—	—			—	—	—	—	
					器種	碗	小碗	小碗	碗	小皿	小碗	小杯	器種不明	壺	器種不明	器種不明	壺	碗	壺	器種不明		
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序／部位	口縁部	底部	口縁部	口縁部	底部	口縁部	口～底部	胴部	胴部	胴部	胴部	胴部	胴部	口縁部	胴部	—	
X区	35		14-C14・15	SD 001	埋土											3	1			1	1	6
			14-C14・15	SD 002	埋土															1		1
			15-D1	SK 054	埋土															1		1
	35・36		14-D・E15	SD 003	埋土	2							1		1					2		6
			14-E15	SD 003・004	埋土															1		1
			14-F14・E15	SD 008	埋土			1														1
	36		14-E14	SD 005	埋土															3		3
	37・38		15-E1・F1	SD 015	埋土				1		1											2
	38		15-G1	SD 021	埋土													1				1
			15-G1	SX 034	埋土										2							2
	39		15-G2	SD 026	埋土					1												1
			15-H2	SD 030	埋土		1															1
			15-H2	SK 403	埋土															1		1
	道3		15-G2	SD 024	埋土															1		1
			14-H15	SD 033	埋土										1							1
	小計					2	1	1	1	1	1	0	1	0	4	3	1	1	0	11	1	25
XI区	40		ズケ15 O-7	SK 200	埋土									1								1
	41		ズケ22 A-7	SK 148	埋土										1							1
	44		ズケ22 B-11	SX 053	埋土															1		1
	道7		ズケ15 O-7	SD 013	埋土														1			1
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土							1										1
	小計					0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	1	1	0	5
総計						2	1	1	2		2		1	4		3	1	15				34

第 30 表　中国産染付集計表 1



第31表　中国産染付集計表2

					時代	清代										—														合計
					産地	福建・広東系									—	—														
					器種	碗			小碗			皿	大鉢	器種不明	鉢	碗			小碗			皿		鉢	小杯		瓶類		器種不明	
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序/部位	口縁	胴	底	口縁	胴	底	底	底	胴	胴	口縁	胴	底	口縁	胴	底	口縁	底	胴	口縁	底	胴	底	胴	
X区	35	建物跡1号	14-D15・15-D1	SK 001	埋土															1										1
		建物跡2号	14-D15	SK 194	埋土	1																								1
			14-C14・15	SD 001	埋土																									2
			14-C14・15	SD 002	埋土																									1
			15-C1	SK 021	埋土	1	1	1										1												4
			15-D1	SK 002	埋土												1													1
			15-D1	SK 003	埋土		1																							1
			15-D1	SK 069	埋土																									1
			14-D15	SK 183	埋土																									1
			15-C1	SX 003	埋土			1									1												1	3
			14-C15	SX 004	埋土																									1
	35・36		14-D・E15	SD 003	埋土											3	1	1												13
			14-E15	SD 003・004	埋土	1																								1
			14-E15・15-E1	SD 004	埋土																									2
			14-F14・E15	SD 006	埋土																									1
	36	建物跡3号	14-E14	SK 123	埋土	1																								1
			14-E13	SD 005	埋土	1		1																						2
			14-E14	SD 005	埋土	2	1																							4
			14-E14	SK 151	埋土																									1
			14-E14	SP 653	埋土													1												1
	37		15-E1	SK 245	埋土												1													1
			15-E1	SP 1036	埋土	1																								1
			15-F2	SX 003	埋土																									1
	37・38		15-E1・F1	SD 015	埋土																								1	2
			15-F1	SK 278	埋土													1												1
	38	方形石組2	15-F1	SX 009	埋土																									1
			15-G1	SD 020	埋土						1			1																2
			15-G1	SD 021	埋土																									1
			15-G1	SK 399	埋土																									1
			15-G1	SX 004	埋土																					1				2
	39		15-G2	SD 037	埋土																									1
			15-H2	SD 030	埋土	1																							1	2
			15-H2・I2	SD 031	埋土			1																						1
			15-G2	SK 301	埋土												1													1
			15-H2	SK 305	埋土																									2
			15-H1・2	SK 370	埋土					1																				1
			15-H2	SK 372	埋土												1													1
			15-H2	SK 380	埋土																									1
			15-H2	SK 381	埋土																									1
			15-H2	SK 395	埋土																									1
			15-H2	SK 398	埋土											1														1
			15-I2	SK 429	埋土																									2
			15-I2	SK 462	埋土																									1
			15-I2	SK 459	埋土																									1
			15-I2	SP 1377	埋土										1															1
			15-I2	SP 1386	埋土																									1
			15-G・H1	SX 005	埋土			1	2				1						2	1		1					1			10
			15-H2	SX 006	埋土		1										2													3
			15-H2	SX 041	埋土																									1
			15-I2	SX 043	埋土																									2
	溝3		15-F2	SD 019	埋土																									1
			15-G2	SD 024	埋土												1													2
			14-H15	SD 033	埋土		1																						7	8
	小計					4	3	3	2	1	1	0	1	1	1	3	9	4	2	3	0	1	0	0	0	1	1	0	10	117
30区	40	柵状遺構1	ズウ15 O-6	SK 171	埋土																			1						4
			ズウ15 O-5	SD 006	埋土		2																							2
			ズウ15 O-7	SK 018	埋土						1																			1
			ズウ22 A-7	SK 057	埋土																									1
			ズウ15 O-6	SK 075	埋土																		1							1
			ズウ15 O-7	SK 217	埋土												4													4
			ズウ15 O-6	SK 332	埋土																				1					2
			ズウ15 N-6・O-6	SK 333	埋土																									1
			ズウ22 A-8	SK 330	埋土														1											1
			ズウ15 O-7	SP 325	埋土																									2
			ズウ15 O-7	SL 002	埋土					2																				2
			ズウ15 O-7	SX 040	埋土	2																								2
	41		ズウ15 O-5	SD 004	埋土																									1
			ズウ22 A-7	SP 313	埋土											1														1
	42		ズウ22 A-10	SK 307	埋土																									1
	43		ズウ22 A-10	SD 038	埋土																									1
	溝1	石畳道	ズウ22 A-6	SF 001	埋土																									2
			ズウ15 O-7	SF 001	北側溝内																									1
			ズウ22 A-6	SF 001	北側溝内																									1
			ズウ15 O-5	SD 009	埋土																									1
			ズウ15 O-6	SD 011	埋土																									2
			ズウ15 O-6	SD 013	埋土																							1		1
			ズウ22 A-7	SD 013	埋土	1		1																						2
			ズウ22 A-7・8	SD 014	埋土	1																								1
			ズウ15 O-5	SD 020	埋土																									1
			ズウ15 O-6	SD 030	埋土																									1
			ズウ15 O-7	SD 030	埋土																									3
			ズウ22 A-1	SK 037	埋土																									1
			ズウ22 A-7	SK 305	埋土																									1
	溝9		ズウ22 A-7	SK 168	埋土																									1
			ズウ22 A-8	SX 045	埋土																									1
			ズウ22 A-8	SX 049	上層																2									2
			ズウ22 A-8	SX 048	下層														1											1
	小計					4	2	1	0	2	1	0	0	0	0	1	4	0	2	0	2	0	1	1	1	0	0	1	0	38
30区	44	建物跡7号	ズウ22 A-11・A-12	SB 001	埋土																									1
			ズウ22 A-12・B-12	SK 001	埋土																									1
			ズウ22 B-12	SK 003	埋土			1																						1
			ズウ22 A-12	SP 052	埋土	1																								2
			ズウ22 A-11	SB 002	埋土																									1
			ズウ22 A-12	SX 003	埋土																									1
	45		ズウ22 D-10	SD 010	埋土			1																						2
			ズウ22 D-9	SD 015	埋土																									1
	46		ズウ22 E-13	SD 019	埋土																									1
			ズウ22 E-13	SD 020	埋土																									1
			ズウ22 E-12	SD 021	埋土			1				1																		2
	小計					1	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
総計						14	7	9	2	3	2	1	1	1	1	4	13	4	4	3	2	1	1	1	1	1	1	1	10	166

第 32 表　本土産陶磁器集計表

					産地	肥前														薩摩		不明																				合計
					分類	染付						磁器							陶器	陶器		磁器													陶器							
					器種	碗		小碗	瓶	皿	香炉	碗			小碗	皿	小皿	皿	皿	急須	不明	碗		小碗	皿	小杯	瓶	鉢	蓋	急須	蓋物		紅猪口	不明	小碗		皿	蓋物		擂鉢	不明	
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序/部位	胴	底	底	胴	—	底	口	胴	底	底	底	口	—	底	口	胴	口	胴	口	胴	口～底	胴	底	摘み	—	胴	底	口～底	胴	口	底	—	胴	底	底	口	
Ⅹ区	35		14-C14・15	SD 001	埋土																														1							1
	35-36		14-D・E15	SD 003	埋土																																	1	1			2
			14-E15	SD 003-004	埋土		1									1																										2
			14-E13	SD 003	埋土																							1														1
			14-E14	SD 005	埋土																	1																				1
			14-D15	SD 011	埋土											1																										1
	36	建物跡1号	14-E14	SK 185	埋土																										1											1
	37-38		15-E1・F1	SD 013	埋土													1																		1						2
	38		15-G1	SX 034	埋土											1																										1
	39	墓	15-I2	SX 046	埋土			1																																		1
			15-G1・G2	SD 025	埋土																																1					1
			15-G2	SK 329	埋土														1																							1
			15-H2	SK 348	埋土	1																																				1
			15-H2	SK 389	埋土																																				2	2
			15-H2	SK 400	埋土					1																																1
			15-G・H1	SX 035	埋土															1			1											2								4
			15-H2	SX 038	埋土																					1																1
			15-H2	SX 041	埋土																								1													1
			15-I2	SX 040	埋土																1																					1
	溝1		14-H15	SD 033	埋土							1																														1
	小計					1	1	1	0	1	0	1	0	0	0	3	0	1	1	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	2	1	1	1	1	1	0	2	27
Ⅺ区	40	桝状遺構1	ズケ15 O-6	SK 171	埋土											1																										1
			ズケ15 O-6	SP 035	埋土																												1									1
			ズケ15 N-5・6	SX 001	埋土							1																														1
	41		ズケ15 O-5	SD 004	埋土																											1										1
			ズケ22 A-7	SK 148	埋土																																			1		1
			ズケ22 A-7	SP 119	埋土										1																											1
	44		ズケ22 A-11	SX 090	埋土																			1																		1
	溝7		ズケ15 O-5	SD 020	埋土																						2															2
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土						1														1																	2
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土				1														3																			4
	小計					0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	2	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	15
Ⅻ区	44		ズケ22 A-11	SB 002	埋土								1																													1
	45	墓	ズケ22 D-9	SX 006	埋土								1																													1
	46		ズケ22 E-12	SD 021	埋土									2			1																									3
			ズケ22 E-13	SX 019	埋土																									1												1
	小計					0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
総計						1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	4	1	1	1	1	1	1	4	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	2	48

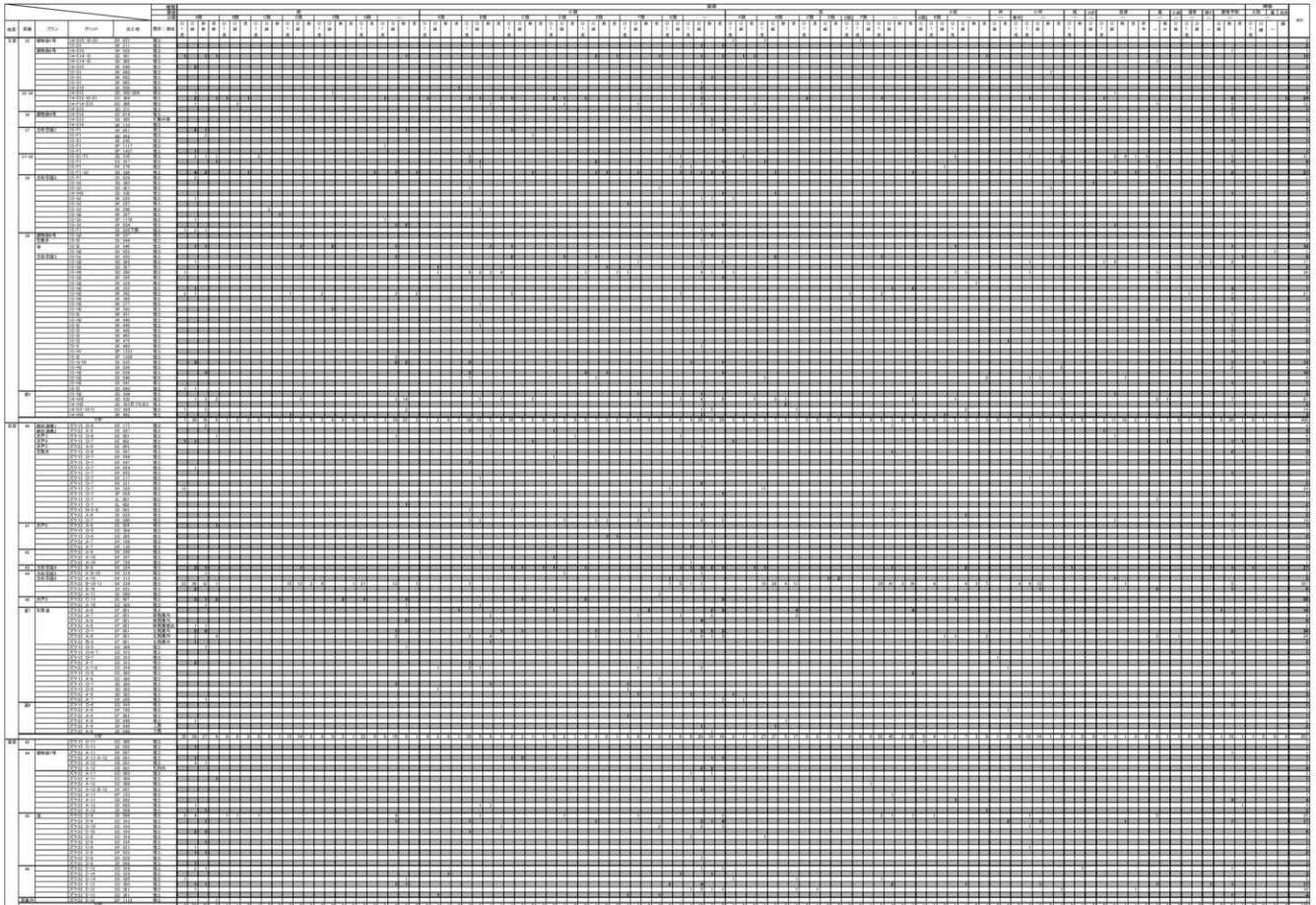
第 33 表　瓦質土器集計表

					器種	皿	壺	鉢			火炉		急須	器種不明		合計
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序 / 部位	底	底	口～底	口縁	胴	口縁	底	把手	胴	底	
Ⅹ区	35	建物跡1号	15-D1	SK 026	埋土									1		1
			15-D1	SK 064	埋土					1						1
			15-D1	SK 065	埋土					1						1
	37		15-F1	SK 262	埋土									1		1
	38		15-G1	SD 020	埋土						1			1		2
			15-G1	SK 286	埋土									2		2
			15-G1	SK 291	埋土									1		1
			15-G1	SK 305	埋土	1										1
			15-G1	SP 1229	埋土										1	1
			15-G1	SX 034	埋土						1					1
	39		15-G2	SK 329	埋土					1						1
			15-G2	SK 347	埋土									6		6
			15-H1・2	SK 370	埋土									1		1
			15-H2	SK 372	埋土									1		1
			15-H2	SK 389	埋土									1		1
			15-I2	SK 429	埋土									1		1
			15-I2	SP 1489	埋土									1		1
			15-G・H1	SX 035	埋土						3			1		4
			15-H2	SX 038	埋土									1		1
	溝3		15-G2	SD 024	埋土			1								1
			14-H15	SD 033	埋土						2					2
	小計					1	0	1	0	3	7	0	0	19	1	32
Ⅺ区	40	桝状遺構1	ズケ15 O-6	SK 171	埋土									1		1
	43	方形石組4	ズケ22 B-9	SK 324	埋土				1							1
	溝7	石畳道	ズケ22 A-8	SF 001	埋土							1		6	1	8
			ズケ15 O-7	SF 001	北側溝内							1				1
			ズケ15 O-6	SD 011	埋土		1									1
			ズケ22 A-7・8	SD 014	埋土								1			1
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土										1	1
	溝8		ズケ22 A-8	SX 048	埋土										1	1
			ズケ22 A-10	SX 048	埋土										1	1
	小計					0	1	0	1	0	0	2	1	7	4	16
Ⅻ区	44	建物跡7号	ズケ22 A-12	SB 001	石列内									1		1
			ズケ22 A-12	SP 052	埋土									1		1
	45		ズケ22 D-9	SD 011	埋土									1		1
	46		ズケ22 E-12	SD 021	埋土									2		2
			ズケ22 E-13	SX 017	埋土							1				1
	小計					0	0	0	0	0	0	1	0	5	0	6
総計						1	1	1	1	3	7	3	1	31	5	54

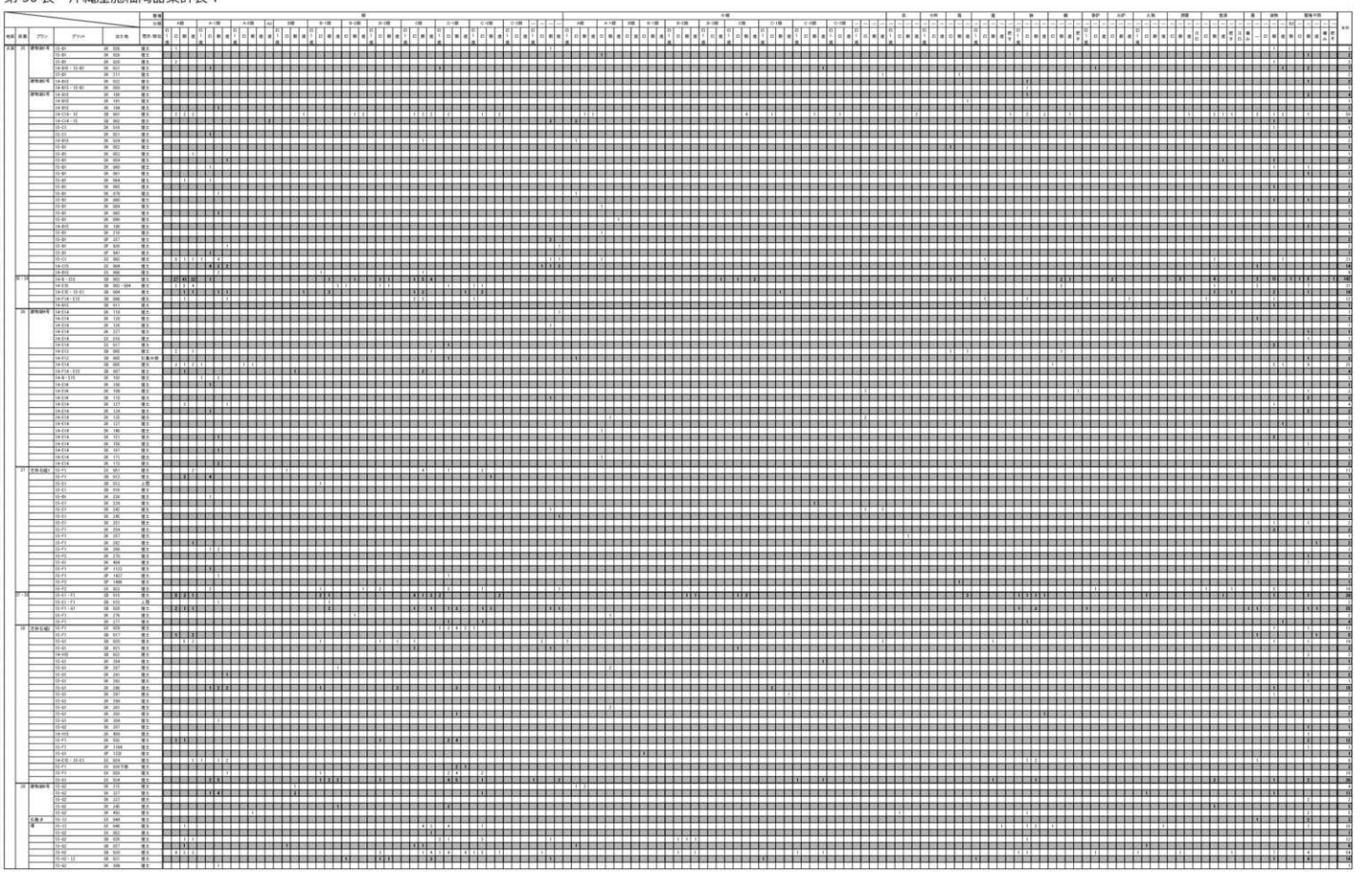
第 34 表　カムィヤキ集計表

					器種	壺	器種不明	合計
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序 / 部位	胴部	胴部	
Ⅹ区	35	建物跡1号	15-D1	SK 311	埋土		1	1
			15-C1	SK 301	埋土		1	1
	35-36		14-D・E15	SD 003	埋土	1		1
			14-E15	SD 003-004	埋土		1	1
	36		14-E14	SK 134	埋土		1	1
			14-E14	SK 135	埋土	1		1
	37		15-E1	SK 241	埋土		1	1
			15-F1	SX 033	埋土		1	1
	39		15-G2	SK 346	埋土		1	1
			15-H2	SP 1301	埋土	1		1
	小計					3	7	10
Ⅺ区	41		ズケ15 O-5	SD 004	埋土		1	1
			ズケ15 O-6	SX 027	埋土	1		1
	溝7		ズケ15 O-6	SD 011	埋土	1		1
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土	1		1
	小計					3	1	4
総計						6	8	14

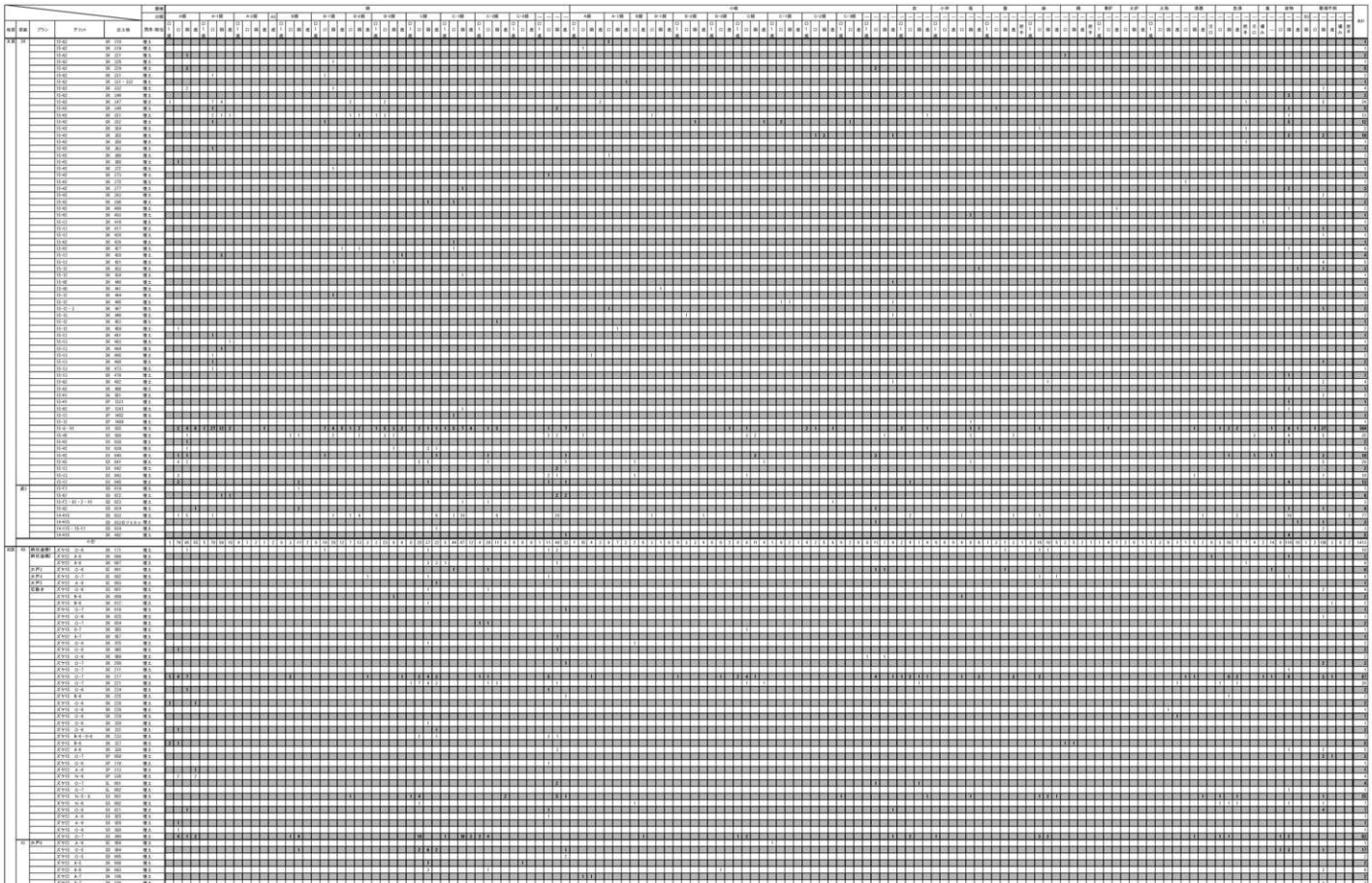
第 35 表　本土産近代陶磁器集計表



第 36 表　沖縄産施釉陶器集計表 1

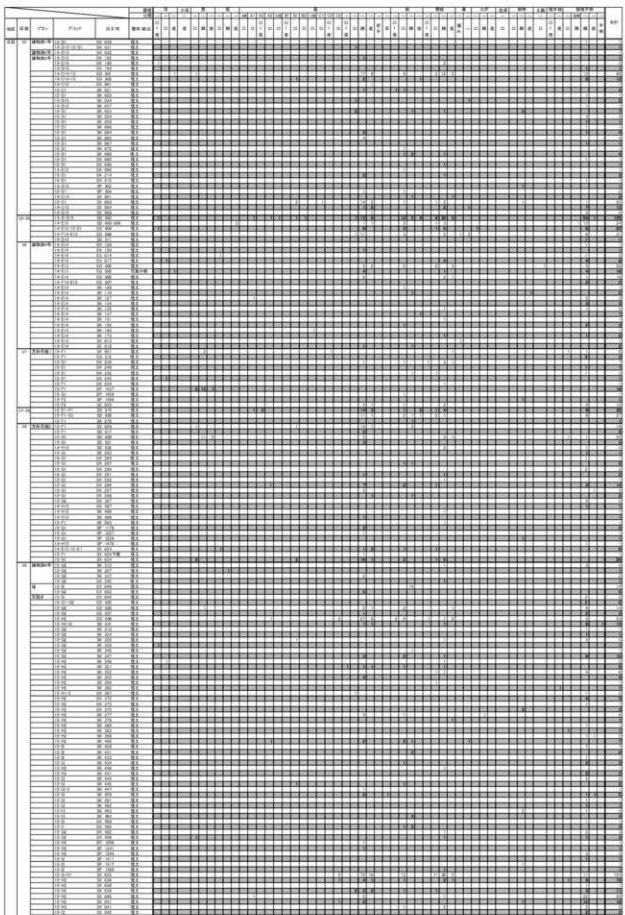


第 37 表　沖縄産施釉陶器集計表２

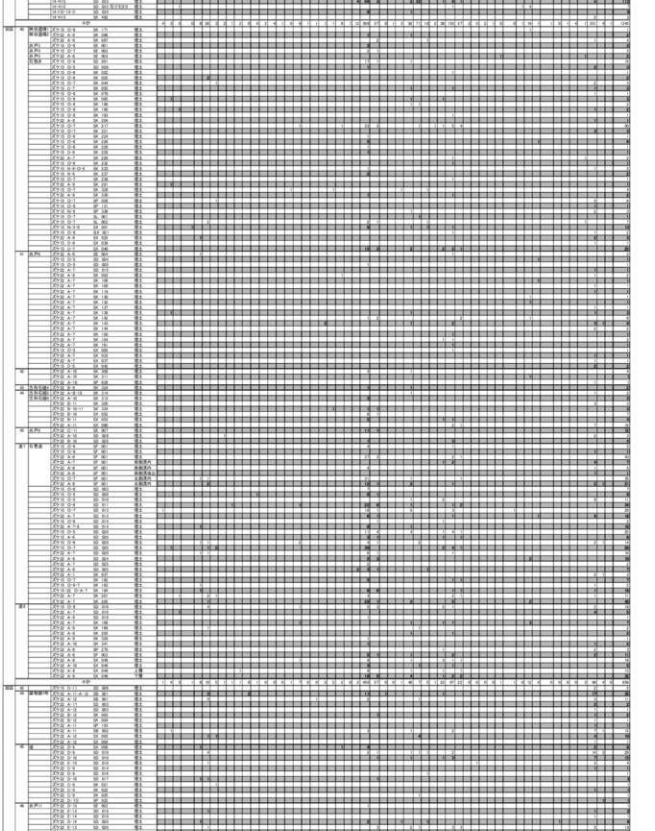


第 38 表　沖縄産施釉陶器集計表 3

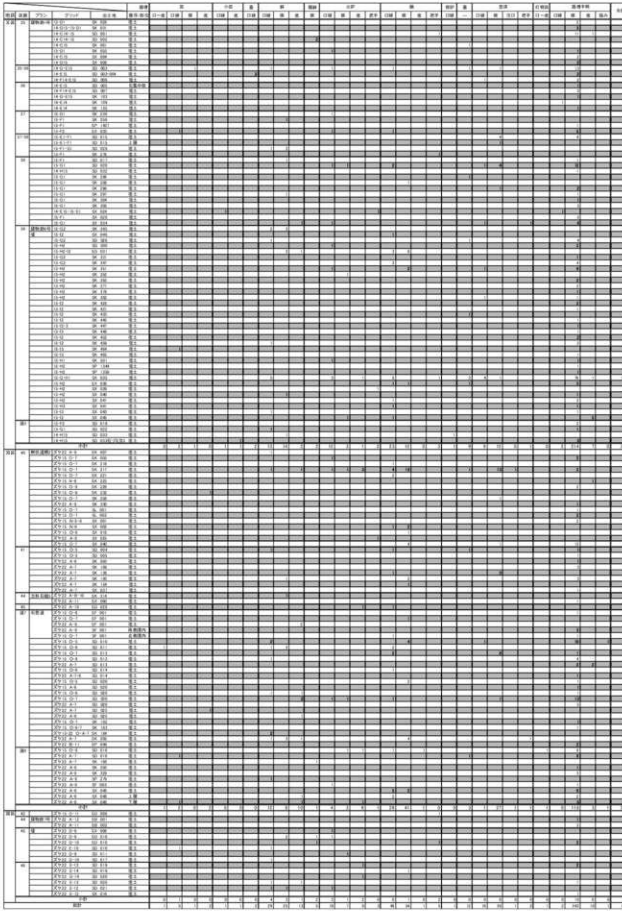
第 39 表　沖縄産無釉陶器集計表 1



第 40 表　沖縄産無釉陶器集計表 2



第41表　陶質土器集計表



第 42 表　土器集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序/部位	縄文 甕 宇座浜式 口縁	縄文 器種不明 — 胴	縄文 器種不明 — —	グスク 鍋 — 把手	グスク 器種不明 — 胴	グスク 器種不明 滑石混入 胴	グスク 器種不明 — —	— 器種不明 — 胴	合計
Ⅹ区	35	建物跡2号	14-D15・15-D1	SK 050	埋土			1				2		3
		建物跡3号	14-D15	SK 184	埋土					7				7
			14-C14・15	SD 001	埋土	1				3				4
			14-C14・15	SD 002	埋土		2			2				4
			14-D15	SK 183	埋土					1				1
			15-C1	SP 138	埋土					1				1
			15-C1	SX 003	埋土		2			12				14
			14-D15	SX 008	埋土					5				5
	35・36		14-D・E15	SD 003	埋土	1	2							3
	36		14-E13・14	SD 005	埋土					1				1
			14-E14	SD 005	埋土		4							4
			14-E15	SD 009	埋土					2				2
			14-D・E15	SK 103	埋土								1	1
			14-E14	SK 109	Ⅱ層		1							1
			14-E14	SK 110	埋土		1							1
			14-E14	SK 127	埋土					3				3
			14-E14	SK 146	埋土					1				1
			14-E14	SK 147	埋土			1						1
			14-E14	SK 151	埋土					1				1
			14-E14	SK 172	埋土					1				1
			14-E15	SK 199	埋土		1							1
			14-E14	SP 687	埋土								1	1
	38		15-G1	SK 288	埋土					1				1
			15-G2	SK 330	埋土		1							1
			14-E15・15-E1	SX 024	埋土				1					1
	39		15-H2	SD 030	埋土					1				1
			15-H2	SK 362	埋土					3				3
			15-H2	SK 365	埋土					1				1
			15-I2	SK 431	埋土		1							1
			15-H2	SP 1370	埋土					1			1	2
			15-H2	SP 1391	埋土						1			1
			15-H2	SX 036	埋土					1				1
			15-H2	SX 040	埋土					1				1
	道3		15-F2	SD 019	埋土								1	1
	小計					2	15	2	1	49	1	2	4	76
Ⅺ区	40		ズケ15 O-5	SD 006	埋土					1				1
			ズケ15 O-6	SK 025	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SK 199	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SK 216	埋土		1							1
			ズケ15 O-7	SK 217	埋土					1				1
			ズケ15 O-6	SK 246	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SP 061	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SP 062	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SP 069	埋土					1				1
	41		ズケ22 A-6	SX 013	埋土					6				6
			ズケ15 O-6	SX 027	埋土					2	1			3
			ズケ15 O-5	SX 042	埋土					6				6
	道7		ズケ15 O-6	SF 002	埋土					2				2
			ズケ15 O-7	SF 002	埋土					1				1
			ズケ15 O-6	SD 007	埋土					1				1
			ズケ15 O-6	SD 011	埋土					1				1
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土					3				3
	小計					0	1	0	0	30	1	0	0	32
Ⅻ区	45		ズケ22 D-10	SK 026	埋土					1				1
			ズケ22 D-10	SP 922	埋土					1				1
	小計					0	0	0	0	2	0	0	0	2
総計						2	16	2	1	81	2	2	4	110

第 43 表　石器・石製品集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序/部位	石器	石製品	合計
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

第 44 表　円盤状製品集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序	白磁	染付	本土産磁器	本土産近代磁器	沖縄産施釉陶器	沖縄産無釉陶器	陶質土器	瓦	合計
X区	35		14-C14・15	SD 001	埋土		1							1
	35・36		14-D・E15	SD 003	埋土					2				2
			14-E15・15-E1	SD 004	埋土								1	1
	36		14-E14	SD 005	埋土					2	1			3
	37		15-D1	SK 236	埋土					1				1
	37・38		15-E1・F1	SD 015	埋土					1	2			3
	38		15-G1	SD 020	埋土						1			1
			15-G1	SK 296	埋土				1					1
	39	壕	15-I2	SX 046	埋土						1			1
			15-H2	SD 030	埋土		1			2				3
			15-G・H1	SX 035	埋土					1	5			6
	小計					0	2	0	1	9	10	0	1	23
XI区	40	柵状遺構2	ズケ15 A-8	SK 087	埋土						1			1
			ズケ15 O-7	SK 217	埋土					2			1	3
			ズケ15 O-7	SP 058	埋土								1	1
			ズケ15 N-5・6	SX 001	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SX 040	埋土						2			2
	44	方形石組6	ズケ22 A-10	SK 313	埋土				1					1
			ズケ22 B-11	SK 320	埋土					1				1
			ズケ22 B-10	SX 052	埋土					1				1
			ズケ22 A-11	SX 060	埋土						1			1
	道7	石畳道	ズケ22 A-8	SF 001	埋土					1	2			3
			ズケ22 A-8	SF 001	南側溝内					1				1
			ズケ15 O-7	SF 001	北側溝内								1	1
			ズケ22 A-8	SF 001	北側溝内			1						1
			ズケ22 B-9	SF 001	北側溝内								1	1
			ズケ15 O-5	SD 010	埋土					1				1
			ズケ15 O-6	SD 011	埋土	1								1
			ズケ15 O-7	SD 013	埋土	1					1			2
			ズケ22 A-7・8	SD 014	埋土						1			1
			ズケ15 O-5	SD 020	埋土			1						1
			ズケ15 A-6	SD 020	埋土					2	1			3
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土					1	6	1		8
			ズケ22 A-7	SD 020	埋土					1	1			2
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土						1			1
			ズケ22 A-8	SD 024	埋土								1	1
			ズケ15・22 O・A-7	SK 184	埋土						1			1
			ズケ22 A-7	SK 201	埋土						1			1
			ズケ22 A-7	SK 205	埋土					2				2
	道8		ズケ22 A-8	SX 048	埋土						2			2
	小計					2	0	2	1	14	21	1	5	46
XII区	45		ズケ22 D-10	SD 010	埋土						2			2
	46		ズケ22 E-12	SD 021	埋土		1						1	2
			ズケ22 E-13	SD 021	埋土						1			1
	区画外		ズケ22 E-12	SD 022	埋土						1			1
	小計					0	1	0	0	0	4	0	1	6
総計						2	3	2	2	23	35	1	7	75

第 45 表　煙管集計表

					分類	沖縄産施釉陶器			沖縄産無釉陶器	青銅製品			合計
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序／部位	雁首	吸口	火皿部	雁首	雁首	吸口	―	
X区	35		14-C14・15	SD 001	埋土						1		1
			15-D1	SK 080	埋土				1				1
	35・36		14-D・E15	SD 003	埋土	1							1
	37		15-E1	SK 240	埋土				1				1
	39	建物跡6号	15-G2	SK 345	埋土	2							2
			15-H2	SK 372	埋土				1				1
			15-I2	SK 428	埋土			1					1
	小計					3	0	1	3	0	1	0	8
XI区	40	柵状遺構1	ズケ15 O-6	SK 171	埋土							1	1
	41		ズケ22 A-7	SK 175	埋土				1				1
	道7		ズケ15 O-6	SD 003	埋土				1				1
			ズケ22 A-7	SD 013	埋土		1						1
	道8		ズケ15 O-6	SD 016	埋土				1				1
	小計					0	1	0	3	0	0	1	5
XII区	45		ズケ22 D-10	SD 010	埋土					1	1		2
	小計					0	0	0	0	1	1	0	2
総計						3	1	1	6	1	2	1	15

第 46 表　銭貨集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序	寛永通寳（古）	寛永通寳（新）	寛永通寳	鉄銭	無文銭	一銭	近代銭	銭種不明	合計
X区	35	建物跡1号	14-D13	SK 033	埋土		1						1	2
			15-C1	SX 003	埋土	1	1							2
	39		15-H1・2	SK 369	埋土								1	1
			15-H2	SK 380	埋土		1							1
			15-H2	SK 440	埋土			1						1
			15-G・H1	SX 035	埋土						1			1
	小計					1	3	1	0	0	1	0	2	8
XI区	40		ズケ15 O-7	SK 217	埋土		1	1						2
	道7	石畳道	ズケ22 A-8	SF 001	埋土		1							1
			ズケ15 A-8	SF 001	南側溝内								1	1
			ズケ22 A-7	SF 001	南側溝内		1							1
			ズケ15 O-5	SD 010	埋土	1			1					2
			ズケ15 O-6	SD 011	埋土		1							1
			ズケ15 O-7	SD 013	埋土					1				1
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土								1	1
	道8		ズケ22 A-8	SX 048	埋土		3							3
			ズケ22 A-8	SX 048	上層								2	2
	小計					1	7	1	1	1	0	0	4	15
XII区	44	建物跡7号	ズケ22 A-11・A-12	SB 001	埋土			1						1
			ズケ22 A-12	SP 039	埋土		2					1		3
	45		ズケ22 D-10	SD 010	埋土							1		1
	46		ズケ22 E-14	SD 019	埋土							1		1
	小計					0	2	1	0	0	0	3	0	6
総計						2	12	3	1	1	1	3	6	29

第 47 表　青銅製品集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	器種 / 層序・部位	銭 —	煙管 —	金具 —	留め具 —	ベルト —	器種不明 摘み	器種不明 —	合計
Ⅹ区	35	建物跡1号	14-D15・15-D1	SK 031	埋土							1	1
			14-C14・15	SD 001	埋土	1							1
			14-D15	SX 008	埋土	1							1
	39		15-H2	SK 381	埋土	1							1
			15-I2	SK 428	埋土							1	1
			15-I2	SK 459	埋土	1							1
			15-G・H1	SX 035	埋土	2							2
			15-H2	SX 036	埋土	1							1
	道3		14-H15	SD 033	埋土						1		1
	小計					7	0	0	0	0	1	2	10
Ⅺ区	40	桝状遺構1	ズケ15 O-6	SK 171	埋土		1						1
	41		ズケ22 A-7	SK 143	埋土	1							1
			ズケ22 A-7	SK 162	埋土	1							1
	道7	石畳道	ズケ15 O-7	SF 001	北側溝内			1					1
	小計					2	1	1	0	0	0	0	4
Ⅻ区	42		ズケ15 O-11	SD 006	埋土							1	1
	44		ズケ22 A-12	SX 003	埋土				1				1
	45		ズケ22 E-10	SD 010	埋土			1					1
	46		ズケ22 E-13	SD 020	埋土					1			1
	区画外		ズケ22 E-12	SK 047	埋土							1	1
	小計					0	0	1	1	1	0	2	5
総計						9	1	2	1	1	1	4	19

第 48 表　鉄製品集計表

地区	区画	プラン	グリッド	出土地	器種 / 層序・部位	鍋 口・胴・把手	鍋 口～底	鉄鍋 胴部	釘 —	鉄釘 —	ツルハシ —	鎌 —	斧 —	ノミ —	スコップ —	スコップの柄 —	蹄鉄 —	竿 —	スプーン —	器種不明 胴部	器種不明 —	合計
Ⅹ区	35	建物跡２号	14-D15	SK 032	埋土																1	1
			14-C14・15	SD 001	埋土					1												1
			14-C15	SK 001	埋土																2	2
			15-D1	SK 054	埋土																2	2
			14-C14	SX 001	埋土																1	1
			14-C15	SX 004	埋土				1													1
	S-3		14-D15・E15	SD 003	埋土																1	1
			14-F14・E15	SD 006	埋土				1													1
	36		14-E14	SK 134	埋土														1			1
			14-E14	SK 156	埋土																1	1
	37		15-F1	SP 1437	埋土				1												1	2
	38		15-G1	SK 306	埋土																1	1
	39		15-H2	SD 030	埋土																1	1
			15-H2	SK 400	埋土																2	2
			15-H2	SX 040	埋土												1					1
	道３		14-I15・15-I1	SD 034	埋土																1	1
	小計					0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	14	20
Ⅺ区	40	桝状遺構１	ズケ 15 O-6	SK 171	埋土				1			3	1	1	1	1						8
		桝状遺構２	ズケ 15 A-8	SK 087	埋土				1													1
		石敷き	ズケ 15 O-6	SS 001	埋土				1													1
			ズケ 15 O-7	SK 044	埋土																1	1
	43	方形石組４	ズケ 22 B-9	SK 324	埋土																10	10
	44	方形石組５	ズケ 22 A・B-10	SK 314	埋土				6			1										7
			ズケ 22 B-10・11	SK 334	埋土							1									1	2
	道７	石畳道	ズケ 15 O-7	SF 001	埋土																3	3
			ズケ 22 A-8	SF 001	埋土													1				1
			ズケ 22 A-7	SF 001	南側溝内				1												1	2
			ズケ 22 A-8	SF 001	南側溝内				2													2
			ズケ 15 O-7	SF 001	北側溝内				4												3	7
			ズケ 22 A-8	SF 001	北側溝内				4													4
			ズケ 22 A-8	SF 002	埋土				1													1
			ズケ 15 O-6	SD 020	埋土																1	1
			ズケ 22 A-7	SK 205	埋土																1	1
	小計					0	0	0	21	0	0	5	1	1	1	1	0	1	0	0	21	52
Ⅻ区	42		ズケ 15 O-10	SK 013	埋土																1	1
	44	建物跡７号	ズケ 22 A-11・A-12	SB 001	埋土															1		1
			ズケ 22 A-12	SB 001	埋土																1	1
			ズケ 22 A-12	SB 001	石列内				1													1
			ズケ 22 A-12	SX 004	埋土				6													6
	45	堀	ズケ 22 D-9	SX 006	埋土						1											1
	46		ズケ 22 E-13	SD 019	埋土		1															1
			ズケ 22 E-13	SD 020	埋土	1																1
			ズケ 22 E-12	SD 021	埋土			1														1
			ズケ 22 E-13	SD 021	埋土				1													1
	区画外		ズケ 22 E-12	SK 047	埋土																1	1
	小計					1	1	1	8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	16
総計						1	1	1	32	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	38	88

第 49 表　明朝系瓦集計表 1

					種類	丸瓦								平瓦										丸平不明								合計
					分類	赤色				灰色	灰色	褐色		赤色					灰色		褐色			赤色					灰色		褐色	
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序／部位	玉縁～端部	玉縁部	胴部	端部	玉縁部	端部	端部	―	広端～狭端部	広端部	狭端部	胴部	端部	狭端部	端部	広端部	狭端部	端部	広端部	狭端部	胴部	端部	―	端部	―	端部	
X区	35		14-C14-15	SD 001	埋土			1	1			2				4											9					17
			14-C14-15	SD 002	埋土																						1					1
			14-D15	SK 027	埋土																						2					2
			15-D1	SK 076	埋土																								1			1
			15-D1	SK 080	埋土																						1					1
			14-D15	SP 832	埋土																								1			1
	35・36		14-D-E15	SD 003	埋土						2				1			1			2	1					2				2	11
			14-E15	SD 003-004	埋土											1																1
			14-E15・15-E1	SD 004	埋土				1						1	1		1									2		1			7
			14-F14・E15	SD 006	埋土				1				1			1											5	1				9
	36	建物跡4号	14-E14	SK 126	埋土																								1			1
			14-E14	SK 227	埋土																								1			1
		建物跡5号	14-E14	SK 165	埋土																						1					1
			14-E13	SD 005	埋土				2											1												3
			14-E13	SD 005	石集中部																							3				3
			14-E14	SD 005	埋土				2																			1		1		4
			14-E14	SK 134	埋土																						1					1
			14-E14	SK 135	埋土																								1			1
			14-E14	SK 136	埋土											1																1
			14-E14	SK 156	埋土																								1			1
			14-E14	SP 947	埋土																								1			1
	37	方形石組1	15-F1	SX 001	埋土													2														2
			15-F1	SD 012	埋土																							2				2
			15-F2	SX 033	埋土				2		1																					3
	37～38		15-E1-F1	SD 015	埋土										3					1			1				6		2			12
			15-F1-G1	SD 028	埋土		1	2								1											13		1			18
			15-F1	SK 276	埋土			1																								1
			15-F1	SK 277	埋土				1																							1
	38	方形石組2	15-F1	SX 029	埋土										2	4											9		1			16
			15-G1	SD 020	埋土																						1					1
			15-G1	SD 021	埋土				1																		1					2
			14-H15	SD 032	埋土													1									6		1			8
			15-G1	SK 294	埋土													1									3					4
			15-G1	SK 296	埋土																						1					1
			15-G1	SK 297	埋土																						1					1
			15-G1	SK 299	埋土											1													1			2
			15-G1	SK 306	埋土				4									3								5	13					25
			15-G2	SK 307	埋土												1										10					11
			14-H15	SK 407	埋土																						2					2
			15-F1	SK 300	埋土													1														1
			14-H15	SP 1469	埋土													2									3					5
			14-E15・15-E1	SX 024	埋土													1											1			2
			15-F1	SX 028	埋土																						3					3
			15-G1	SX 034	埋土				1						1	1																3
	39	建物跡6号	15-G2	SK 315	埋土																						2					2
			15-G2	SK 327	埋土																						2					2
		石敷き	15-I2	SX 044	埋土				1																							1
		方形石組3	15-G1	SX 050	埋土		1	5	2						7	5		8														28
		溝	15-I2	SX 046	埋土				1							1		9														11
			15-G2	SX 052	埋土	3								3																		6
			15-G1・G2	SD 025	埋土			2	2						1	4		6									10					25
			15-G2	SD 026	埋土																						1		1			2
			15-G2	SD 027	埋土											2		2									6					10
			15-H2	SD 030	埋土		15	2	2						4	4		8									4	10		4		53
			15-H2・I2	SD 031	埋土																						1					1
			15-G2	SK 317	埋土																						1					1
			15-G2	SK 328	埋土			1																								1
			15-G2	SK 336	埋土				1																		2					3
			15-G2	SK 346	埋土																						1					1
			15-G2	SK 347	埋土																								4			4
			15-H2	SK 349	埋土																						2		1			3
			15-H2	SK 351	埋土																							3		2		5
			15-H2	SK 352	埋土													2											1			3
			15-H2	SK 355	埋土										3	2		6											1			12
			15-H2	SK 359	埋土													1														1
			15-H2	SK 362	埋土		1	2	13						9	4		15									39					89
			15-H2	SK 377	埋土				1																		1		1			3
			15-H2	SK 378	埋土				4							1		4									3					12
			15-H2	SK 381	埋土														1													1
			15-H2	SK 392	埋土																						1					1
			15-H2	SK 398	埋土																						1		1			2
			15-H2	SK 400	埋土																						4		2			6
			15-I2	SK 428	埋土			1										1											1			3
			15-I2	SK 431	埋土															1												1
			15-I2	SK 433	埋土																								1			1
			15-H2	SK 441	埋土																		1									1
			15-I2	SK 445	埋土							1			1																	2
			15-I3	SK 464	埋土																										1	1
			15-I3	SK 475	埋土													2														2
			15-I1	SK 480	埋土				3																							3
			15-G・H1	SX 035	埋土				2						1	1		4		2							13		1			24
			15-H2	SX 036	埋土			1												1							2		1			5
			15-H2	SX 037	埋土																								2			2
			15-H2	SX 038	埋土																						4					4
			15-H2	SX 039	埋土			1							5	4		1														11
			15-H2	SX 040	埋土		1									2		3									9					15
			15-H2	SX 041	埋土				1									1									7					9
			15-I2	SX 045	埋土													4														4
	溝1		15-G1	SD 023	埋土																							2				2
			15-G2	SD 024	埋土																						3					3
			14-H15	SD 033	埋土		1	3	21						7	19		22						2	1		81		5		1	170
			14-H15	SD 033石ブロック3	埋土														1								1					2
			14-E5・15-I1	SD 034	埋土			2	1							4		2									5		2			16
	小計					3	20	24	74	0	3	3	1	3	45	39	1	116	2	6	3	1	3	2	1	5	300	23	46	7	4	751

第 50 表　明朝系瓦集計表 2

					種類	丸瓦								平瓦										丸平不明								合計
					分類	赤色				灰色	黒色	褐色		赤色					灰色		褐色			赤色					灰色		褐色	
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序／部位	玉縁～端部	玉縁部	胴部	破片	玉縁部	破片	破片	—	広端～狭端部	広端部	狭端部	胴部	破片	狭端部	破片	広端部	狭端部	破片	広端部	狭端部	胴部	破片	—	破片	—	破片	
[illegible]	40	[illegible]	ズヤ15 O-6	SK 171	埋土	14		1	13					23	7	5		45									1		2			111
		井戸4	ズヤ15 O-7	SE 002	埋土																						1		1			2
		井戸5	ズヤ22 A-6	SE 003	埋土										1			8														9
		石積み	ズヤ15 O-6	SS 001	埋土			1	8						11	7		47									76					150
			ズヤ15 O-7	SK 044	埋土										2	1		3														6
			ズヤ15 O-6	SK 075	埋土													1														1
			ズヤ15 O-6	SK 099	埋土											2																2
			ズヤ15 O-7	SK 217	埋土					1					1			3														5
			ズヤ15 O-7	SK 221	埋土													2														2
			ズヤ15 O-6	SK 230	埋土				1						1			1														3
			ズヤ15 O-7	SK 326	埋土																						1					1
			ズヤ15 O-7	SP 058	埋土																						1					1
			ズヤ15 O-7	SP 227	埋土													1														1
			ズヤ15 O-7	SL 001	埋土																								1			1
			ズヤ15 N-5・6	SX 001	埋土			2	7					1	4	1		4														19
			ズヤ15 N-6	SX 002	埋土																						1					1
			ズヤ22 A-6	SX 003	埋土																						2					2
			ズヤ15 O-7	SX 040	埋土										1												14					15
			ズヤ15 N-6	SX 041	埋土																						1					1
	41	井戸6	ズヤ22 A-6	SE 004	埋土				1						1																	2
			ズヤ15 O-5	SD 004	埋土																						2		1			3
			ズヤ22 A-7	SK 106	埋土															1												1
			ズヤ22 A-7	SK 138	埋土													1														1
			ズヤ22 A-7	SK 142	埋土															1												1
			ズヤ22 A-7	SK 143	埋土																						1					1
			ズヤ22 A-7	SX 036	埋土													1														1
			ズヤ22 A-7	SX 037	埋土																						1					1
	42		ズヤ22 A-10	SK 307	埋土										2	2		6														10
			ズヤ22 A-10	SK 309	埋土				3																		3					6
			ズヤ22 A-10	SP 025	埋土			1								1		5														7
			ズヤ22 A-10	SP 075	埋土				1						1			12														14
	43	方形石組A	ズヤ22 B-9	SK 324	埋土											1											10					11
	44	方形石組B	ズヤ22 A・B-10	SK 214	埋土													2									12					14
		方形石組B	ズヤ22 A-10	SK 313	埋土			2	1						1			6														10
			ズヤ22 B-11	SK 320	埋土										3	1		9														13
			ズヤ22 B-10・11	SK 334	埋土				2						4	4		4														14
			ズヤ22 B-10	SX 052	埋土				1						1			1	1								4					8
			ズヤ22 B-11	SX 053	埋土				1						1	2		1									9					14
			ズヤ22 B-11	SX 054	埋土										1																	1
			ズヤ22 B-11	SX 055	埋土													1														1
			ズヤ22 A-11	SX 060	埋土										1																	1
	道1	石畳道	ズヤ15 O-6	SF 001	埋土																						1					1
			ズヤ22 A-6	SF 001	埋土																						20					20
			ズヤ22 A-7	SF 001	西側溝内																						10					10
			ズヤ22 A-6	SF 001	西側溝内											1											12					13
			ズヤ15 O-7	SF 001	北側溝内				2						2			2									11					18
			ズヤ22 A-6	SF 001	北側溝内				4																		12					16
			ズヤ22 O-7	SF 001	北側溝内																						1					1
			ズヤ15 O-6	SD 003	埋土				1																							1
			ズヤ15 O-6・7	SD 012	埋土													1														1
			ズヤ15 O-7	SD 013	埋土																						2					2
			ズヤ22 A-7	SD 013	埋土															1												1
			ズヤ22 A-7・8	SD 014	埋土													2														2
			ズヤ15 O-5	SD 020	埋土																					1	2					3
			ズヤ15 N-6	SD 020	埋土			1																								1
			ズヤ15 O-6	SD 020	埋土										1	1											7				1	10
			ズヤ15 O-7	SD 020	埋土				1									4									9		1			15
			ズヤ22 A-7	SK 200	埋土											1		1														2
	道4		ズヤ22 A-7	SK 186	埋土																						1					1
			ズヤ22 A-6	SK 199	埋土																						1					1
			ズヤ22 A-6	SK 280	埋土											1																1
			ズヤ22 A-10	SK 341	埋土													1														1
			ズヤ22 A-6	SP 278	埋土													1														1
			ズヤ22 A-6	SF 003	埋土											1											6					7
			ズヤ22 A-6	SX 046	埋土																						3					3
			ズヤ22 A-6	SX 048	上層																						7		1			8
			ズヤ22 A-6	SX 048	下層																						3					3
	小計					14	6	8	44	1	0	0	0	24	47	30	0	177	1	3	0	0	0	0	0	1	250	0	7	0	1	614
[illegible]	40		ズヤ15 B-11	SD 008	埋土																						4					4
	44	建物跡1号	ズヤ22 A-11・A-12	SB 001	埋土		3	3	3						6		6	6														27
			ズヤ22 A-12	SB 001	埋土				1						1	1		1														4
			ズヤ22 A-12	SB 001	石列内		2	3	3						1	6		1														16
			ズヤ22 A-12	SD 001	埋土													2														2
			ズヤ22 A-11	SD 002	埋土													7									1					8
			ズヤ22 A-12	SD 003	埋土													1														1
			ズヤ22 A-11	SD 004	埋土																						3					3
			ズヤ22 A-12・B-12	SK 001	埋土																						2					2
			ズヤ22 B-12	SK 002	埋土													1														1
			ズヤ22 A-11・B-11	SK 003	埋土																						1					1
			ズヤ22 A-12	SP 002	埋土										1												1					2
			ズヤ22 A-11	SP 133	埋土																						3					3
			ズヤ22 A-11	SS 002	埋土				1						2	1		2									4					10
			ズヤ22 A-12	SX 003	埋土			2	1							3											7					13
	45	井戸10	ズヤ22 C-9	SE 001	埋土																						1					1
		堀	ズヤ22 D-9	SX 006	埋土									2	4	6		11														21
			ズヤ22 D-9	SD 010	埋土		1		1							1		3														6
			ズヤ22 D-10	SD 010	埋土				1						1			4														6
			ズヤ22 E-10	SD 010	埋土				2						1																1	3
			ズヤ22 C-9	SD 014	埋土										2			2														4
			ズヤ22 C-9	SK 022	埋土																						1					1
	46		ズヤ22 E-14	SD 019	埋土					1								1														2
			ズヤ22 D-14	SD 020	埋土				2							1		1														4
			ズヤ22 E-13	SD 020	埋土	1	1	1	1					1	11	5		2														23
			ズヤ22 E-12	SD 021	埋土				4						8	2		11														25
			ズヤ22 E-13	SD 021	埋土		1	1	1							2		3														8
			ズヤ22 D-12	SP 1041	埋土										1												3					4
	小計					1	7	9	22	1	0	0	0	3	41	29	6	58	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	1	211
総計						23	27	41	140	3	3	3	1	30	133	117	10	353	3	9	2	1	3	2	1	7	388	22	47	7	9	1379

第51表　木製品集計表

	区画	プラン	グリッド	出土地	層序／器種	椀	位牌	器種不明	合計
X区	39		15-I2	SK 429	埋土			2	2
XI区	44	方形石組5	ズケ22 A・B-10	SK 314	埋土	1			1
			ズケ22 B-10・11	SK 334	埋土		1		1
XII区	46		ズケ22 E-13	SX 016	埋土			1	1
総計						1	1	3	5

第52表　貝・骨製品集計表

				種類	貝製品					骨製品	合計
				器種	未製品					歯ブラシ	
				分類	サラサバティ	巻貝	ヤコウガイ	サザエ	不明	―	
地区	区画	グリッド	出土地	層序							
XI区	40	ズケ15 O-7	SK217	埋土		4					4
		ズケ15 O-7	SP058	埋土		1					1
		ズケ15 O-7	SX040	埋土				1			1
	道7	ズケ15 O-6	SD010	埋土					1		1
		ズケ15 O-6	SD011	埋土		2					2
		ズケ15 O-6	SD013	埋土	1						1
	小計				1	7	0	1	1	0	10
XII区	46	ズケ22 E-12	SD21	埋土						1	1
	小計				0	0	0	0	0	1	1
総計					1	7	0	1	1	1	11

第53表　石材集計表

					分類	火成岩		堆積岩									変成岩							鉱物等		―	合計
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序	角閃石石英ヒン岩	蛇紋岩	砂岩	片状砂岩	シーピ	石灰岩	結晶質石灰岩	凝灰岩	泥岩	チャート	礫石	緑色千枚岩	黒色千枚岩	緑色岩	緑色片岩	片岩	礫質片岩	角閃岩	石英	方解石	石材不明	
X区	35	建物跡1号	13-C・D1	SK 020	埋土													1									1
			13-D1	SK 028	埋土			1																			1
			13-D1	SK 030	埋土				1			2						1									4
			14-D12・13-D1	SK 031	埋土													1									1
		建物跡2号	14-D13	SK 032	埋土			2																			2
			14-D13	SK 047	埋土										1												1
		建物跡3号	14-D13	SK 182	埋土													1									1
			14-D13	SK 194	埋土															1							1
			13-C14-15	SD 001	埋土			1		3	1																5
			14-C14-15	SD 002	埋土					1					2								1				4
			13-D1	SK 021	埋土					1																	1
			13-D1	SK 004	埋土						3																3
			13-D1	SK 064	埋土		1	2																			3
			13-D1	SK 062	埋土			1																			1
			13-D1	SK 075	埋土			1																			1
			13-D1	SK 080	埋土																			1			1
			13-D1	SP 307	埋土			2																			2
			13-C1	SX 003	埋土						8						1										9
			14-C13	SX 004	埋土				1			1															2
	35・36		14-D-E13	SD 002	埋土			2		2							3					2					9
			14-E13・15-E1	SD 006	埋土										1												1
	36	建物跡4号	14-E14	SK 227	埋土																			1			1
		建物跡5号	14-E14	SK 152	埋土													1									1
			14-E14	SD 006	埋土			1																			1
			14-F14-E15	SD 007	埋土										1												1
			14-E14	SK 110	埋土														1								1
			14-E14	SK 123	埋土			2																			2
			14-E14	SK 325	埋土														1								1
			14-E14	SX 013	埋土										1												1
	37		13-E1	SK 239	埋土												1										1
			13-E1	SK 251	埋土										1												1
			13-E1	SP 1023	埋土			2																			2
			13-F1	SP 1427	埋土					8	2																10
			13-G1	SP 1460	埋土			1																			1
	37・38		13-F1・G1	SD 005	埋土						1																1
	38		13-G1	SK 253	埋土					6																	6
			13-G1	SK 298	埋土										1												1
			13-G1	SK 308	埋土					3	1																4
			14-E13・15-E1	SX 024	埋土						1																1
	39		13-G2	SD 008	埋土												1										1
			13-H2	SD 030	埋土			4	1	3	2																10
			13-H2・I2	SD 031	埋土											2											2
			13-I2	SK 347	埋土	1		4			1	1															7
			13-H2	SK 352	埋土						2				1												3
			13-H2	SK 400	埋土					1																	3
			13-I2	SK 414	埋土											3											3
			13-I2	SK 415	埋土											6											6
			13-I2	SK 434	埋土						1																1
			13-I2	SK 444	埋土					1																	1
			13-I2	SK 462	埋土			1																			1
			13-G・H1	SX 035	埋土				1	3																	4
			13-I1	SX 043	埋土													1									1
	道2		13-G2	SD 034	埋土																					1	1
			14-H15	SD 033	埋土					2	1																3
			14-H15	SK 492	埋土					2																	2
	小計					1	1	29	4	33	27	4	0	0	9	12	4	6	2	1	0	2	1	3	0	1	147
XI区	40	井戸1	ズケ15 O-6	SE 001	埋土							1															1
			ズケ15 O-6	SK 023	埋土			1																			1
			ズケ15 O-7	SK 033	埋土					1																	1
			ズケ15 O-7	SK 217	埋土					3	1										1						5
			ズケ15 N-5・6	SX 001	埋土						1																1
			ズケ15 O-7	SX 040	埋土															1							1
	41		ズケ22 A-7	SK 129	埋土						1																1
			ズケ22 A-7	SK 143	埋土					2	1																3
			ズケ22 A-8	SX 012	埋土														1								1
	42	方形石組4	ズケ22 B-9	SK 324	埋土							1															1
	44		ズケ22 A-11	SX 060	埋土					1																	1
	45	井戸6	ズケ22 C-11	SE 007	埋土								1														1
	道1	石敷道	ズケ15 O-6	SF 001	埋土						1									1							2
			ズケ15 O-6	SF 001	埋土						1																1
			ズケ22 A-8	SF 001	埋土			1		1	3																5
			ズケ22 A-8	SF 001	南側溝内							1															1
			ズケ22 A-8	SF 001	北側溝内						4																4
			ズケ22 B-9	SF 001	北側溝内						2	1															3
			ズケ15 O-6	SD 011	埋土																				1		1
			ズケ15 O-7	SD 012	埋土													1									1
			ズケ15 O-6	SD 020	埋土						1																1
			ズケ15 O-7	SK 182	埋土						1																1
			ズケ22 A-7	SK 205	埋土						1																1
	道6		ズケ22 A-8	SX 046	下層						2																2
	小計					0	0	2	0	8	20	4	1	0	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	1	0	42
XII区	46		ズケ22 D-9	SD 018	埋土									1													1
	小計					0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計						1	1	31	4	41	47	8	1	1	9	12	4	7	3	3	1	2	1	3	1	1	190

第 54 表　その他遺物集計表

					種類	炭	焼土	焼瓦	瓦	漆喰	鉄滓	ガラス製品							プラスチック製品			ゴム製品	セメント	タイル	人形	マンガン	合計
					器種	—	—	—	—	—	—	皿	瓶		ビー玉	キャップ	器種不明		ボタン	ハブラシ	器種不明	瓶	—	—	土製品	—	
地区	区画	プラン	グリッド	出土地	層序/部位/分類	—	—	—	—	—	—	脚部	口～胴	口縁	—	—	胴部	—	—	—	—	口縁	—	—	瓦質	—	
X区	35	建物跡1号	14-D15·15-D1	SK 001	埋土		2						2														4
			15-D1	SK 211	埋土	1																					1
		建物跡2号	14-D15	SK 002	埋土		1																				1
		建物跡3号	14-D15	SK 154	埋土		10																				10
			14-C14·15	SD 001	埋土								1							1							2
			14-C14·15	SD 002	埋土		2																				2
			14-D15	SX 003	埋土		3																				3
	35-36		14-D-E15	SD 003	埋土	7	11																			1	19
			14-E15	SD 003·004	埋土		5																				5
			14-E15·15-E1	SD 004	埋土		2					1															3
			14-F14·E15	SD 006	埋土								1														1
	36	建物跡5号	14-E14	SK 152	埋土		2																				2
			14-E14	SP 980	埋土	1																					1
			14-E14	SX 013	埋土		2																				2
	37		15-E1	SK 242	埋土		1																				1
	37-38		15-E1·F1	SD 015	埋土		2						2														4
			15-E1·F1	SD 015	上層		3																				3
			15-F1·G1	SD 025	埋土			1					2	1			1										5
			15-F1	SK 278	埋土					1								1									2
	39	方形石組1	15-F1	SX 029	埋土		3																				3
			15-F1	SD 017	埋土			1																			1
			15-G1	SD 020	埋土		1																				1
			15-G1	SD 021	埋土												1										1
			15-F1	SK 273	埋土		1																				1
			15-G1	SK 306	埋土		1		2								1										4
			14-H15	SK 469	埋土		1																				1
			14-H15	SK 490	埋土		12																				12
			15-F1	SP 1164	埋土	1																					1
			14-H15	SP 1469	埋土		2																				2
			14-E15·15-E1	SX 024	埋土										1									1			2
	39	方形石組2	15-G1	SK 050	埋土			2					2														4
			15-H2	SD 030	埋土		1																				1
			15-H2	SD 030	埋土				2																		2
			15-C1	SK 335	埋土		1																				1
			15-G2	SK 347	埋土						1																1
			15-H2	SK 352	埋土		1																				1
			15-H2	SK 353	埋土					1																	1
			15-H2	SK 363	埋土		3																				3
			15-H2	SK 366	埋土				1																		1
			15-H2	SK 378	埋土		2																				2
			15-H2	SK 382	埋土	4																					4
			15-H2	SK 392	埋土		4																				4
			15-H2	SK 400	埋土	1	3																				4
			15-I2	SK 459	埋土																	1					1
			15-I1	SK 463	埋土	1																					1
			15-I2	SK 464	埋土		1																				1
			15-I2	SK 477	埋土	1																					1
			15-H2	SK 498	埋土		1																				1
			15-G2	SP 1363	埋土		1																				1
			15-H1	SP 1331	埋土	1																					1
			15-G-H1	SX 025	埋土		5			1																	6
			15-H2	SX 028	埋土		1																				1
			15-H2	SX 029	埋土		3									1											4
			15-H2	SX 040	埋土		3																				3
			15-H2	SX 041	埋土	1	24																				25
			15-H3	SX 041	埋土		2																				2
			15-I2	SX 042	埋土		1																				1
			15-I3	SX 043	埋土	2																					2
			15-I2	SX 045	埋土		1																				1
	溝3		15-G1	SD 032	埋土						11																11
			14-H15	SD 033	埋土				4								1						3				8
	小計					21	124	4	9	3	12	1	10	1	1	1	4	1	0	1	0	1	3	1	0	1	199
30区	40	柵状遺構1	ズケ15 O-6	SK 171	埋土														1								1
		柵状遺構2	ズケ15 A-6	SK 367	埋土	1																					1
		井戸1	ズケ15 O-6	SE 001	埋土			1												1							2
			ズケ15 O-7	SK 044	埋土				2																		2
			ズケ15 O-7	SK 217	埋土					1																	1
			ズケ15 O-6	SK 202	埋土		1																				1
			ズケ15 O-7	SP 058	埋土										1												1
	41		ズケ22 A-7	SK 132	埋土		1																				1
			ズケ22 A-7	SK 137	埋土		3																				3
			ズケ22 A-7	SK 143	埋土		2																				2
			ズケ22 A-6	SX 013	埋土		1																				1
			ズケ22 A-7	SX 008	埋土		8																				8
			ズケ15 O-5	SX 042	埋土		1																				1
	43	方形石組4	ズケ22 B-9	SK 324	埋土															1							1
	44	方形石組5	ズケ22 A-B-10	SK 314	埋土																		1				1
		方形石組6	ズケ22 A-10	SK 313	埋土																		2	1			3
			ズケ22 B-10·11	SK 334	埋土								1		1												2
			ズケ22 B-10	SX 053	埋土		1																				1
	溝1	石敷道	ズケ15 O-6	SF 001	埋土					4																	4
			ズケ22 A-6	SF 001	東側溝内										1												1
			ズケ22 A-6	SF 001	北側溝内								1														1
			ズケ15 O-6	SD 016	埋土		1																				1
			ズケ15 O-6	SD 030	埋土																1				1		2
			ズケ15 O-7	SD 020	埋土		3																				3
			ズケ22 A-7	SK 203	埋土		1																				1
	小計					1	21	1	2	5	0	0	2	0	3	0	0	0	1	2	1	0	3	1	1	0	44
38区	42		ズケ15 O-11	SD 006	埋土										1												1
	44		ズケ22 A-12	SD 001	埋土		1																				1
			ズケ22 D-9	SD 011	埋土						2																2
			ズケ22 A-11	SB 002	埋土			1							1												2
	45	塚	ズケ22 D-9	SX 306	埋土			1					1														2
			ズケ22 D-10	SD 010	埋土		1																				1
			ズケ22 C-9	SD 014	埋土								2														2
			ズケ22 C-9	SK 023	埋土								1														1
	46		ズケ22 E-14	SD 019	埋土								1														1
	区画外		ズケ15 O-12	SK 008	埋土								3														3
			ズケ22 E-12	SK 047	埋土								1														1
			ズケ22 E-12	SP 1081	埋土								1														1
	小計					0	2	2	0	0	2	0	10	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
総計						22	147	7	11	8	14	1	22	1	6	1	4	1	1	3	1	1	6	2	1	1	261

第６節　自然遺物

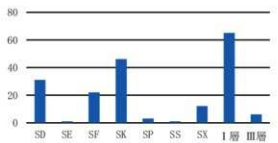
１．貝類遺体

平成 24・25 年度のⅩ～Ⅻ地区の調査では、貝類遺体が出土している。第 56 ～ 57 表に示した通り、巻貝が 18 科 38 種、二枚貝が 10 科 16 種確認できた。最小個体数の特定について、巻貝では完形と殻頂を合計し個体数とし、破片でのみ出土した貝種については、最少個体数「1」として数えた。二枚貝は、右殻・左殻それぞれの完形と殻頂を合計し多い方を個体数とし、破片でのみ出土した貝種については、最少個体数「1」として数えた。

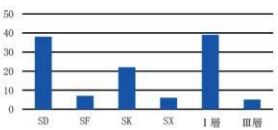
縄文時代・グスク時代の遺構からは、出土は認められなかった。グスク時代の包含層（Ⅲ層）では巻貝・二枚貝ともに少量の出土であった。近世～近代の遺構からの出土が主である。遺構ごとにみると、Ⅰ・Ⅲ層を除けば、巻貝は SK（土坑）の出土が多く、次に SD（溝）の出土が多い（第 117 図）。一方、二枚貝は SD（溝）の出土が多く、次に SK（土坑）の出土が多いことが確認できた（第 118 図）。

区画別に見ると道７が最も検出量が多く次いで区画 40、39 となっている（図 119）。区画 40 は道７と隣接している。

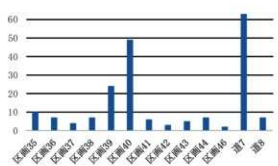
生息地別の組成では、Ⅰ－２－ｃが約 25％を占めている。その他の割合において、サンゴ礁域に生息するものが多くみられる（第 120 図）。



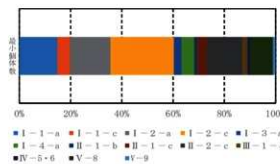
第 117 図　遺構別検出状況（巻貝）



第 118 図　遺構別検出状況（二枚貝）



第 119 図　貝類区画別出土状況



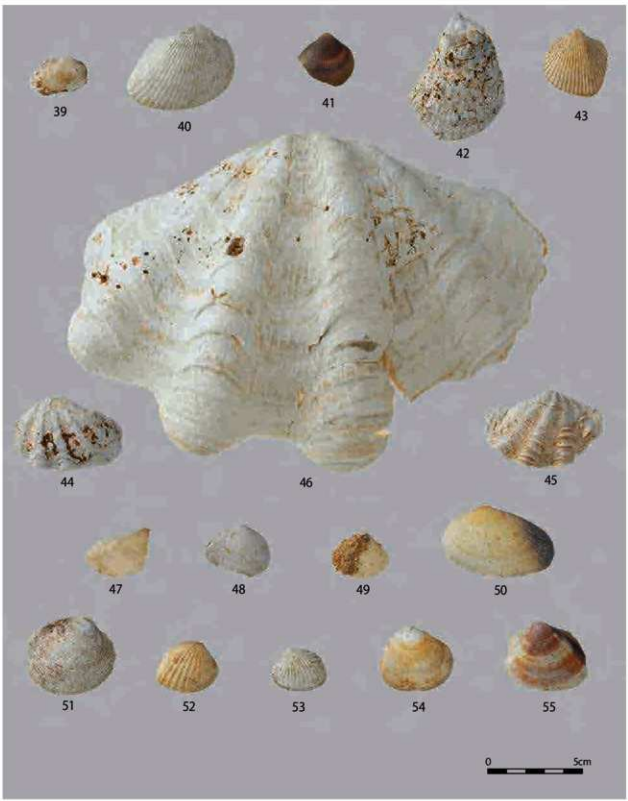
第 120 図　生息地組成図

第 55 表　貝類生息場所類型表

外洋～内湾	水深	底質
Ⅰ　外洋～サンゴ礁 Ⅱ　内湾～転石域 Ⅲ　河口干潟～マングローブ域	0　潮間帯上部（Ⅰではノッチ、Ⅲではマングローブ） 1　潮間帯中・下部 2　亜潮間帯上部（Ⅰではイノー） 3　下瀬（Ⅰにのみ適用） 4　礁斜面およびその下部	a　岩礁/岩盤 b　転石 c　礫/砂/泥底 d　植物上 e　淡水の流入する礫底
Ⅳ　淡水域	6　止水 6　流水	
Ⅴ　陸域	7　林内 8　林内・林縁部 9　林縁部 10　海浜部	
Ⅵ　その他	11　打ち上げ物 12　化石	

図版 51　貝類遺体１（巻貝）

1.ニシキウズガイ科ニシキウズ　2.ニシキウズガイ科サラサバテイ　3.ササエ科ヤコウガイの蓋　4.ササエ科チョウセンササエ　5.ササエ科カンギク
6.アマオブネガイ科ニシキアマオブネ　7.オニノツノガイ科オニノツノガイ　8.オニノツノガイ科クワノミカニモリ　9.フトヘナタリ科カワアイ　10.ソデボラ科オハグロガイ
11.ソデボラ科ムカシタモト　12.ソデボラ科マガキガイ　13.ソデボラ科クモガイ　14.タカラガイ科ヤクシマダカラ　15.タカラガイ科ヒメホシダカラ
16.タカラガイ科ハナマルユキ　17.タカラガイ科キイロダカラ　18.タカラガイ科フジダカキイロダカラ　19.タカラガイ科ハナビラダカラ　20.タカラガイ科ジュズダマダカラ
21.タカラガイ科クチヒロダカラ　22.フジツガイ科ミツカドボラ　23.フジツガイ科ホラガイ　24.アッキガイ科シロニシ　25.アッキガイ科クチベニレイシダマシ
26.イトマキボラ科イトマキボラ　27.ニデガイ科オオミノムシガイ　28.イモガイ科ナンヨウクロミナシ　29.イモガイ科マダライモ　30.イモガイ科ベニイモ
31.イモガイ科ササガタイモ　32.イモガイ科ヤナギシボリイモ　33.カワニナ科カワニナ　34.ツクシガイ科ミノムシ　35.ヤマタニシ科オキナワヤマタニシ
36.ナンバンマイマイ科シュリマイマイ　37.オナジマイマイ科バンダナマイマイ　38.オナジマイマイ科キナワウスカワマイマイ



図版52　貝類遺体2（二枚貝）

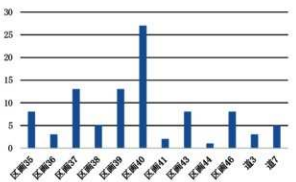
39.フネガイ科オオカリガネエガイ　40.フネガイ科リュウキュウサルボウ　41.タマキガイ科ウチワガイ　42.ウミギク科メンガイ類　43.ザルガイ科カワラガイ
44.シャコガイ科ヒメジャコガイ　45.シャコガイ科ヒレジャコガイ　46.シャコガイ科オオシラナミ　47.ニッコウガイ科ニッコウガイ　48.ニッコウガイ科リュウキュウシラトリ
49.チドリマスオ科イソハマグリ　50.シオサザナミ科リュウキュウマスオ　51.マルスダレガイ科ヌノメガイ　52.マルスダレガイ科アラスジケマンガイ
53.マルスダレガイ科ホソスジイナミガイ　54.マルスダレガイ科タイワンシラオ　55.マルスダレガイ科ハマグリの一種

２．脊椎動物遺体

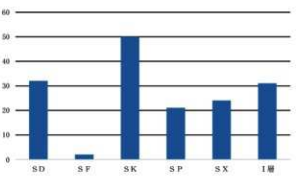
平成 24・25 年度のⅩ～Ⅻ地区の調査では、脊椎動物遺体が出土しており、魚類、鳥類、哺乳類が確認されている。詳細については、第 58 ～ 59 表に示す。

縄文時代はⅩ地区 SK280 からイノシシの歯 1 点のみの出土である。グスク時代の遺構からの出土はなかった。

近世～近代の遺構からの出土が殆どであり、区画別では区画 40 が最も多く、その出土量は 27 点となっている（第 121 図）。区画 37 では、ピット内の埋甕内（SP1437）からは、ウマの骨のみが確認された。また、この骨は、右側のみの出土であった。その他にも、方形石組 1（SX51）では、野生とは思えないブタの形態をした幼獣の頭蓋骨が出土した。区画 43 の土坑内からイノシシ / ブタ及びヤギの四肢骨に解体痕が認められるものも出土している。Ⅹ～Ⅻ地区の遺体には、四肢骨に解体痕が認められるものが出土している。



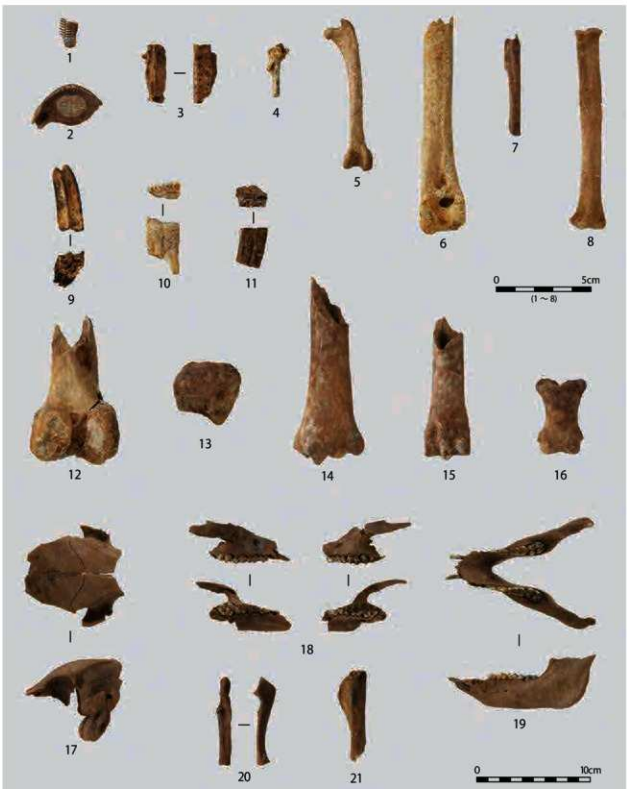
第 121 図　区画別検出状況



第 122 図　遺構別検出状況

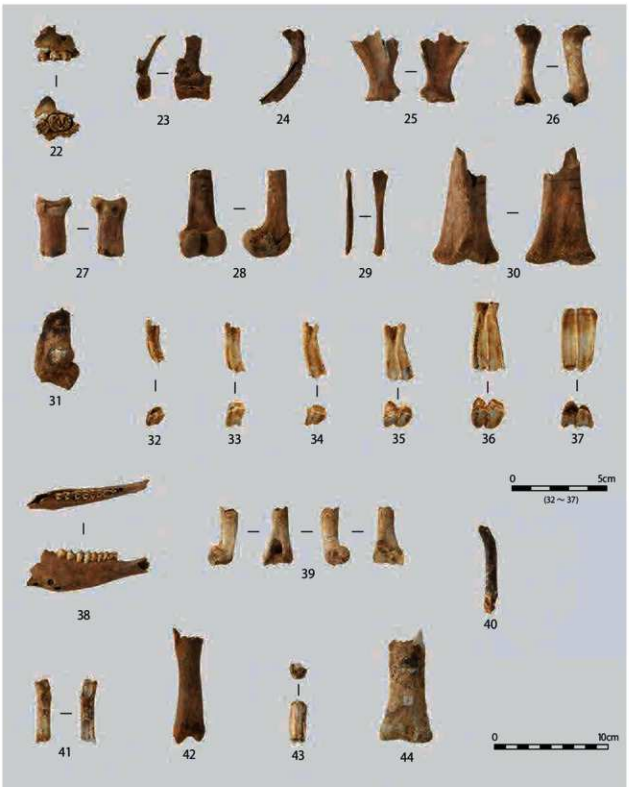
動物依存体種名一覧

脊椎動物門　Phylum VERTEBRATA
　硬骨魚綱　Class Osteichthyes
　　スズキ目　Order Perciformes
　　ブダイ科　Family Scaridae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet
　　フグ目　Order Tetraodontiformes
　　ハリセンボン科　Family Diodontidae
鳥綱　Class Aves
キジ目　Order Galliformes
　キジ科　Family Phasianidea
　　ニワトリ　Gallus gallus var. domesticus
哺乳綱　Class Mammalia
　食肉目　Order Carnivora
　　イヌ科　Family Canidae
　　イヌ　Canis familiaris
　奇蹄綱　Order Perissodactyla
　　ウマ科　Family Equidae
　　ウマ　Equus caballus
　偶蹄綱　Order Artiodactyla
　　イノシシ科　Family Suidae
　　ブタ　Sus scrofa var. domesticus
　　ウシ科　Family Bovidae
　　ウシ　Bos taurus
　　ヤギ　Capura hirucus



図版 53　脊椎動物遺体 1

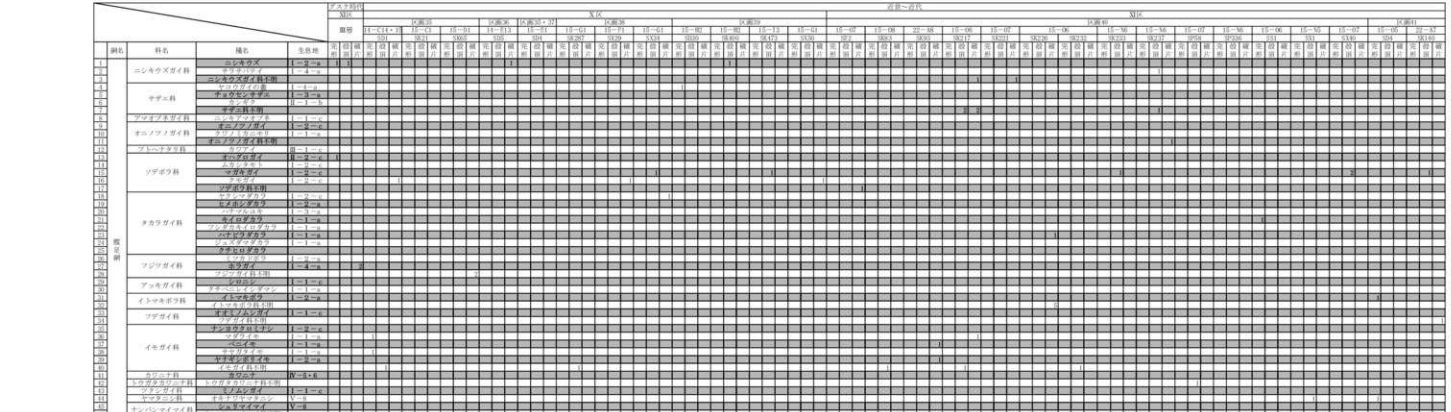
サカナ　1. 上咽頭骨　プダイ科　2. 歯骨　ハリセンボン　**ニワトリ**　3. 胸椎　4. 左　中手骨　5. 左　大腿骨　（開窓クラス）　6. 右　脛骨　7. 右　脛骨　**イヌ**　8. 右　橈骨
ウマ　9. 右　上顎骨　M^1 か M^2　10. 左　下顎骨 P^2　11. 右　下顎骨　M　臼歯　12. 右　大腿骨　13. 右　膝蓋骨　14. 右　脛骨　15. 右　中足骨　16. 右　基節骨
ブタ　17. 頭頂骨＋前頭骨＋側頭骨　18. 左右　上顎骨　19. 左右　下顎骨　幼獣　20. 右　尺骨　21. 左　脛骨　幼～若獣

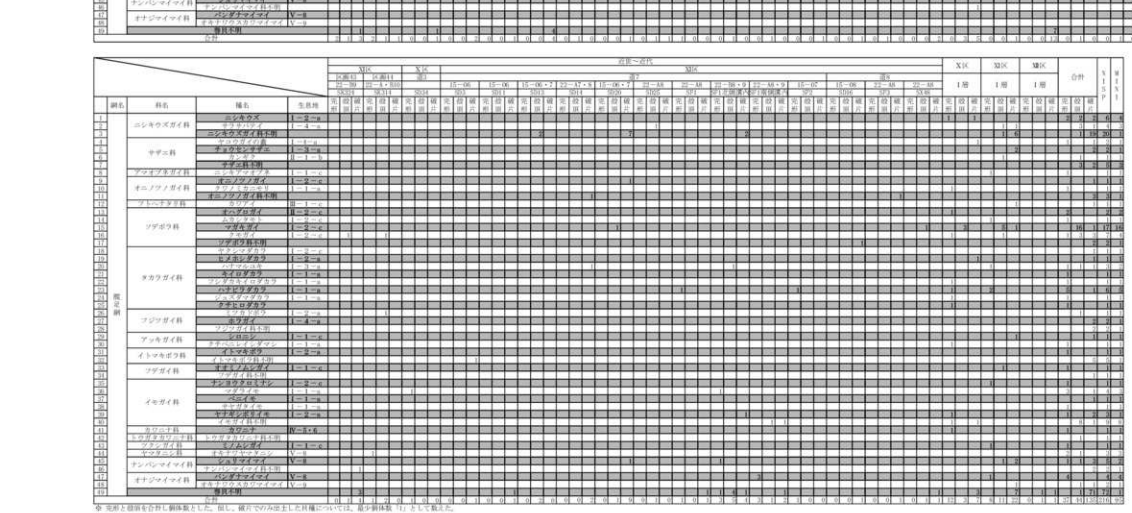


図版 54　脊椎動物遺体 2

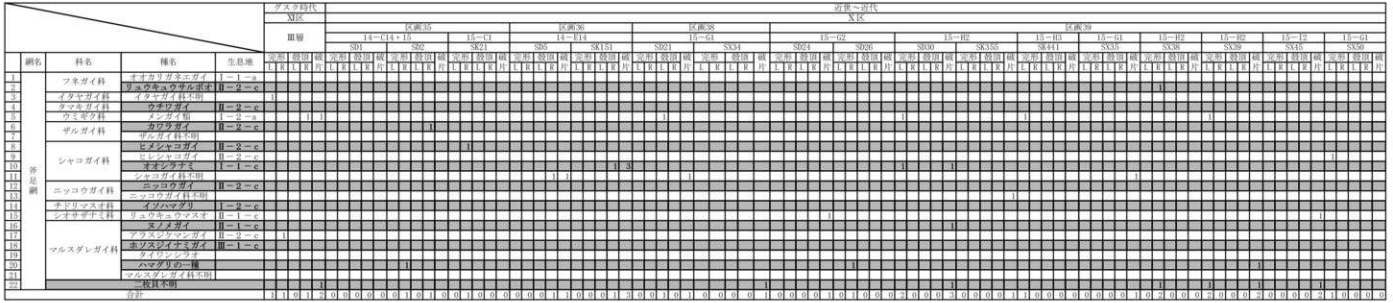
イノシシ／ブタ　22. 左　上顎骨　M^1、M^2　23. 腰椎　24. 左　肋骨　25. 右　肩甲骨　キズあり　26. 右　上腕骨　幼獣　27. 左　第 3 中手骨　キズあり
28. 右　大腿骨　29. 右　脛骨　30. 右　腓骨　幼～若獣　キズあり（近）　31. 左　踵骨　　***ヤギ***　32. 左　上顎骨　P^2　33. 左　上顎骨　P^3　34. 左　上顎骨　P^4
35. 左　上顎骨　M^1　36. 左　上顎骨　M^2　37. 左　上顎骨　M^3　38. 右　下顎骨　幼～若獣　39. 左　上腕骨　キズあり　40. 右　橈骨　41. 右　中手骨　キズあり
42. 左　大腿骨　幼～若獣　　***ウシ***　43. 左　下顎骨　M^1 か M^2 か M^3　44. 左　中手骨　近位　叩き切り

第 56 表　貝類遺体集計表 1



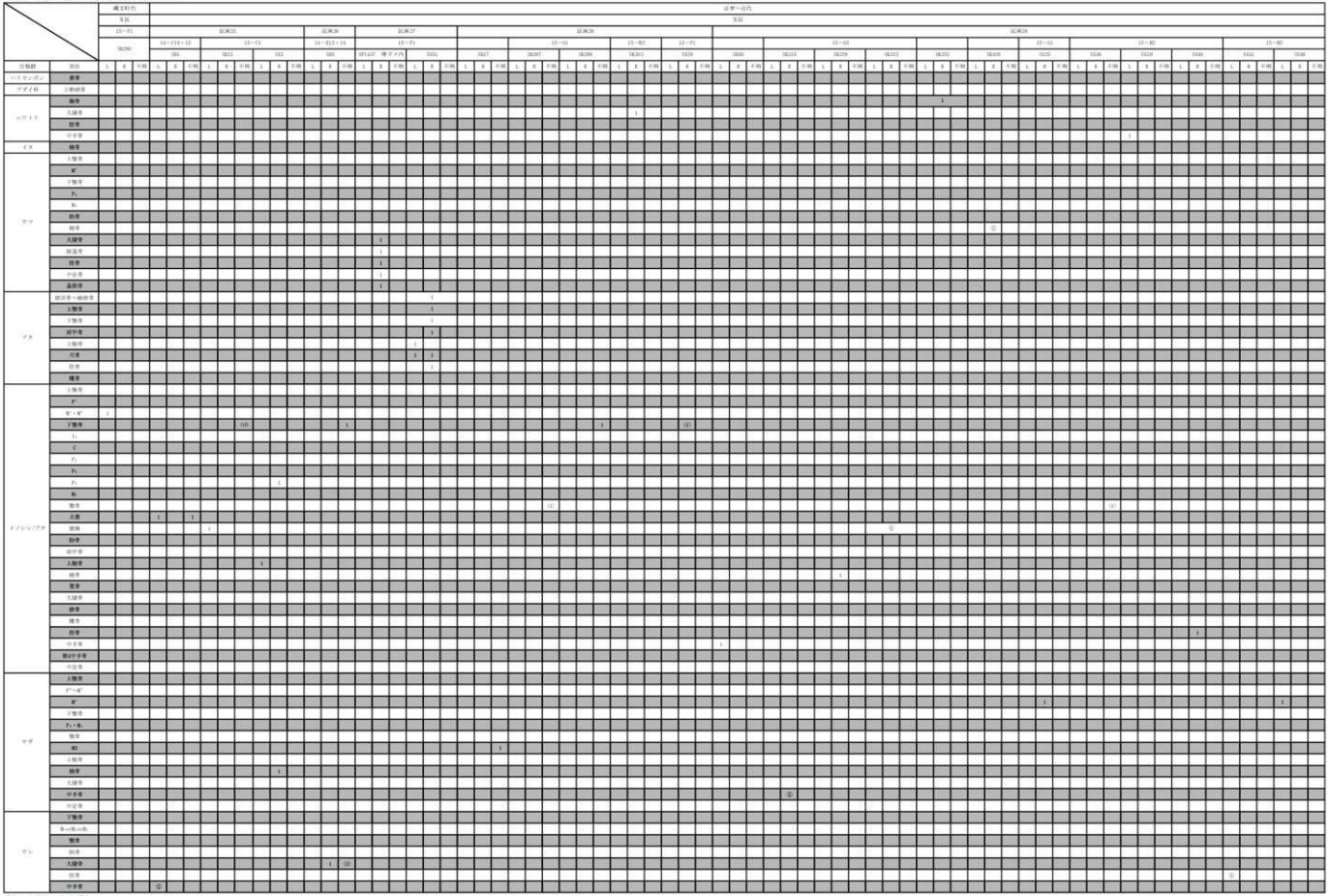


第 57 表　貝類遺体集計表 2

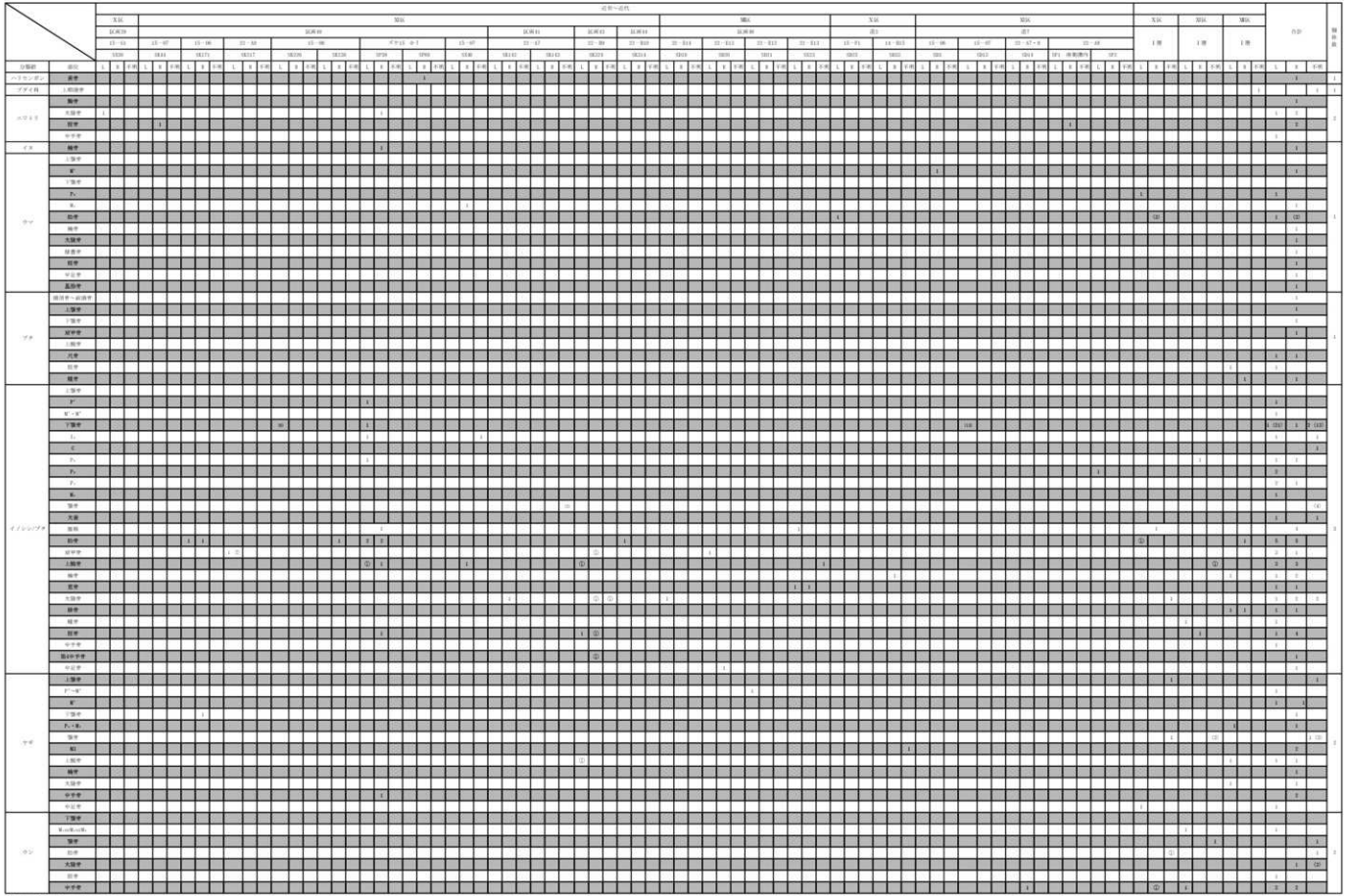


※　右殻、左殻それぞれの完形と殻頂を合計し多い方を個体数とした。但し、破片でのみ出土した貝種については、最少個体数「1」として数えた。

第 58 表　脊椎動物遺体集計表 1



第 59 表　脊椎動物遺体集計表 2



第 4 章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

キャンプ瑞慶覧内海軍病院建設予定地は、沖縄県宜野湾市に所在し、琉球層群からなる更新世の段丘面上に位置する。宜野湾市域では、更新世の段丘面が中位段丘上位面 (標高 90m 以上)、下位面 (50 ～ 90m)、低位段丘上位面 (30 ～ 40m)、下位面 (10 ～ 30m) の 4 面に区分されている (上原 ,2000)。当社では、これまでも海軍病院Ⅶ～Ⅸ地区 (平成 22・23 年度調査区) において自然科学分析を実施しており、遺跡の評価を行う上での情報を得ている。

本報告では、海軍病院Ⅹ・Ⅺ地区 (平成 24 年度調査区) において検出された遺物や遺構の埋土、埋没谷内堆積物などを対象に、遺構の性格や周辺の古環境などの情報を得ることを目的として、自然科学分析を実施する。

1. 試料

土壌試料は、Ⅺ地区の SL4 と隣接する SL4 西土坑、および埋没谷内堆積物である東西トレンチのⅢ層 (22 層)、Ⅳ層 (29 層) より各 1 点、計 4 点が採取されている。発掘調査所見によると、SL4 は近世～近代、埋没谷内堆積物がグスク時代と考えられている。

炭化材試料は、Ⅹ地区の SP1051、SP1328、およびⅪ地区の SL4 より抽出された、計 3 点である。発掘調査所見によると、SP1051、SP1328 のいずれもグスク時代と考えられている。

これらの試料を用いて、放射性炭素年代測定 2 点、微細物分析 4 点、花粉分析 2 点、植物珪酸体分析 2 点、炭化材同定 1 点、灰像分析 1 点を実施する。分析試料および分析項目一覧を表 1 に示す。

第 60 表　分析試料および分析項目一覧

調査年度	地区	遺構／トレンチ	層	No.	試料の質	備考	AMS	微細	花粉	珪酸体	材同定	灰像
H24	Ⅹ地区	SP1051		1033	炭化材	覆土より抽出	○				(○)	
H24	Ⅹ地区	SP1328			炭化材	覆土より抽出	○				(○)	
H24	Ⅺ地区	SL4　燃焼部		561	土壌			○			○	○
H24	Ⅺ地区	SL4　炭廃部		562	土壌			○				
H24	Ⅺ地区	東西トレンチ	Ⅲ層(22層)		土壌	グスク土器と晩期混りの土		○	○	○		
H24	Ⅺ地区	東西トレンチ	Ⅳ層(29層)		土壌	ニービが入っていた流込の土		○	○	○		
合計点数							2	4	2	2	1	1

1)AMS：放射性炭素年代測定、微細：微細物分析、花粉：花粉分析、珪酸体：植物珪酸体分析、材同定：炭化材同定、灰像：灰像分析。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

炭化材は、形状を観察し、小さなものは全量、大きなものは最外年輪付近から約 50mg の年代測定用試料を切り出す。切り出した植物片から、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HCl によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する (酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は HCl、NaOH 共に最大 1mol/L である。一方、試料が脆弱で 1mol/L では試料が損耗し、十分な炭素が得られないと判断された場合は、薄い濃度の NaOH の状態で処理を終える。その場合は AaA と記す。試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化 (鉄を触媒とし水素で還元する) は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX- Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1) の測定も行う。

δ 13C は試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver and Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0、較正曲線は Intcal13(Reimer et al.,2013) である。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5,730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。較正のもとになる直線は暦時代がわかっている遺物や年輪 (年輪は細胞壁のみなので、形成当時の 14C 年代を反映している) 等を用いて作られており、最新のものは 2013 年に発表された Intcal13(Reimer et al.,2013) である。また、較正年代を求めるソフトウエアはいくつか公開されているが、今回は CALIB を用いる。なお、年代測定値に関しては、国際的な取り決めにより、測定誤差の大きさによって値を丸めるのが普通であるが (Stuiver and Polach,1977)、将来的な較正曲線ならびにソフトウエアの更新に伴う再計算ができるようにするため、表には丸めない値 (1 年単位) を記す。また、中央値は、確率分布の面積が二分される値を年代値に換算したものである。

(2) 微細物分析

試料から炭化種実等の微細な遺物を分離・抽出するために、試料を 48 時間常温乾燥後、水を満たした容器内に投入し、速やかに容器を傾けて浮いた炭化物を粒径 0.5mm の篩に回収する。容器内の残土に水を入れて軽く攪拌し、容器を傾けて炭化物を回収する作業を炭化物が浮かなくなるまで繰り返す (20 回程度)。残土を粒径 0.5mm の篩を通して水洗する。

水洗後、水に浮いた試料 (炭化植物主体) と水に沈んだ試料 (砂礫主体) を、粒径別に常温乾燥させる。乾燥後、粒径の大きな試料から順に双眼実体顕微鏡下で観察し、ピンセットを用いて、同定が可能な炭化種実や炭化葉と炭化材 (主に径 2mm 以上) の他、土器片などの遺物を抽出する。

炭化種実や炭化葉の同定は、現生標本や中山ほか (2010)、鈴木ほか (2012) 等を参考に実施し、部位・状態別の個数を数えて、結果を一覧表で示す。同定された分類群は、写真図版に示して同定根拠とする。また、栽培種のイネの炭化胚乳を対象として、デジタルノギスで長さ、幅、厚さを計測し、結果を一覧表に併記する。

炭化材は重量と最大径、土器片は個数と重量、最大径を表示する。分析残渣は、炭化材主体、砂礫主体に大まかに分け、粒径別重量を表示する。分析後は、抽出物と分析残渣を容器に入れて保管する。

(3) 花粉分析

試料 10cc を正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液 (臭化亜鉛，比重 2.3) による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス (無水酢酸 9，濃硫酸 1 の混合液) 処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作製し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して、出現する全ての種類を対象に 200 個以上同定・計数する (化石の少ない試料ではこの限りではない)。同定は、当社保有の現生標本や島倉 (1973)、中村 (1980)、藤木・小澤 (2007)、三好ほか (2011) 等を参考にする。

また、花粉プレパラート中に含まれる微粒炭 (微細な炭化植物片) の含量が、自然植生に対する人類干渉の指標として有効であるとされていることから (安田 ,1987 など)、試料中に含まれる微粒炭の含量も求める。微粒炭は花粉プレパラート内に残存するものを対象とし、同定基準は山野井 (1996)、井上ほか (2002) 等を参考にする。計数は、山野井 (1996) などを参考にし、長径が約 20 μ m 以上の微粒炭を対象とし、それ以下のものは除外する。

結果は同定・計数結果の一覧表として表示する。微粒炭量は、山野井 (1996) などを参考とし、分析土壌量 (cc)、分析残渣量 (ml)、プレパラート作成量 (μ l) を測定し、堆積物 1cc あたりに含まれる個数を一覧表に併せて示す。この際、有効数字を考慮し、10 の位を四捨五入して 100 単位に丸め、100 個 /cc 未満は「<100」で表示する。

(4) 植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法 (ポリタングステン酸ナトリウム，比重 2.5) の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部 (葉身と葉鞘) の葉部短細胞に由来した植物珪酸体 (以下、短細胞珪酸体と呼ぶ) および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体 (以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ) を、近藤 (2010) の分類を参考に同定し、計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量を正確に計量し、乾土 1g あたりの植物珪酸体含量 (同定した数を乾土 1g あたりの個数に換算) を求める。

結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示す。その際、各分類群の含量は 10 の位で丸め (100 単位にする)、100 個 /g 未満は「<100」で表示する。合計は、各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。

(5) 炭化材同定

炭化材同定試料は、XI区 SL4 から出土した炭化材 1 点であるが、抽出された炭化材には多数の破片があり、一通り観察して複数種類が認められたことから、全種類を記載する。この他、年代測定を実施した SP1051 と SP1328 の炭化物についても、由来確認のための観察・同定を実施する。

試料を自然乾燥させた後、木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産樹木の木材組織については、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

(6) 灰像分析

灰像分析では、珪化組織片の産出に注目した。植物体の葉や茎に存在する植物珪酸体は、珪化細胞列などの組織構造を呈している。植物体が土壌中に取り込まれた後は、ほとんどが土壌化や撹乱などの影響によって分離し単体となる。しかし、植物が燃えた後の灰には組織構造が珪化組織片などの形で残されている場合が多い (例えば、パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1993)。そのため、珪化組織片の産状により当時の燃料材などの種類が明らかになると考えられる。

灰像分析に用いた XI地区 SL4 は、肉眼観察したところ、植物が燃えた後に残る灰は明瞭に認められなかった。そこで、植物珪酸体と共に珪化組織片も濃集し分離できる植物珪酸体分析の手法で、珪化組織片の検出を試みた。分析方法は、前出の植物珪酸体と同一である。

結果は、検出された珪化組織片や植物珪酸体の分類群と産状の一覧表で示す。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を表 61 に、暦年較正結果を表 62 に示す。試料の測定年代 (補正年代) は、SP1051 出土炭化材が 845 ± 25BP、SP1328 出土炭化材が 1,060 ± 25BP の値を示す。

測定誤差を 2 σとして計算させた結果、SP1051 は calAD 1,160 ～ 1,251、SP1328 は calAD 901 ～ 1,022 である。暦年較正の中央値は SP1051 が calAD 1,197、SP1328 が calAD 991 である。

第 61 表　放射性炭素年代測定結果

地区	遺構	種類	処理	補正年代 BP	$\delta^{13}C$ (‰)	Code No.	
X地区	SP1051	木炭	AaA	845±25	−23.1±0.4	pal−10220	TKA−17189
X地区	SP1328	木炭	AaA	1,060±25	−19.9±0.5	pal−10221	TKA−17190

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5,568 年を使用。
2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
3) 付記した誤差は、測定誤差σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。
4)AAA は酸−アルカリ−酸処理、AaA はアルカリの濃度を薄くした処理を示す。

第 62 表　暦年較正結果

試料名	補正年代 (BP)		暦年較正年代 年代値			相対比	中央値	Code No.	
X地区 SP1051	846±23	σ	cal AD 1,169 − cal AD 1,178	cal BP 781 − 772	0.163	calAD 1,197	pal−10220	TKA−17189	
			cal AD 1,181 − cal AD 1,219	cal BP 769 − 731	0.837				
		2σ	cal AD 1,160 − cal AD 1,251	cal BP 790 − 699	1.000				
X地区 SP1328	1,058±24	σ	cal AD 980 − cal AD 1,016	cal BP 970 − 934	1.000	calAD 991	pal−10221	TKA−17190	
		2σ	cal AD 901 − cal AD 921	cal BP 1,049 − 1,029	0.087				
			cal AD 952 − cal AD 1,022	cal BP 998 − 928	0.913				

1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV7.1.0 を使用。
2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
4) 統計的に真の値が入る確率は σ は 68%、2 σは 95% である。
5) 相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。
6) 中央値は、確率分布図の面積が二分される値を年代値に換算したもの。

(2) 微細物分析

結果を表 63 に示す。また、炭化葉・炭化種実各分類群の写真を図版 1 に、イネ胚乳の計測値を表 63 に示して同定根拠とする。

XI地区の SL4、東西トレンチⅢ層およびⅣ層の 4 試料計 3,591g を洗い出した結果、裸子植物 1 分類群 (マツ属複維管束亜属) の炭化葉が 1 個、被子植物 3 分類群 (栽培種のイネ、草本のイネ科、タデ属) の炭化種実が 8 個の、計 9 個が抽出・同定された。

その他、炭化していない被子植物 2 分類群 (草本のイヌタデ近似種、ヒユ属) の種実が 3 個、炭化材が 13.6g、土器片が 1 個 0.3g 確認された。分析残渣は、砂礫主体が 106.3g、炭化材主体が 18.1g を量る。このうち、Ⅲ層 (22 層) より果実が 2 個検出されたイヌタデ近似種と、SL4 から種子が 1 個検出されたヒユ属は、保存状態が極めて良好で混入と判断されるため、考察より除外している。以下、試料別出土状況を述べる。

SL4 燃焼部 (試料 1,270g) からは、栽培種のイネの炭化穎 (基部) が 1 個、炭化穎が 3 個、炭化胚乳が 1 個、草本のイネ科の穎・胚乳が 1 個、木本のマツ属複維管束亜属の炭化葉が 1 個の、計 7 個と、炭化材が 12.1g(最大 2.0cm)、確認された。分析残渣は、砂礫主体が 66.9g、炭化材主体が 14.5g を量る。炭化材が 4 試料中極めて多産し、砂礫類には植物圧痕が確認される土製品？を含む。

イネの胚乳 (炭化米) の計測値より求めた「粒大 (長さ×幅)、粒形 (長さ / 幅)」(佐藤 ,1988) は、粒大が 13.3 で小型、粒形が 1.7 となり、短粒に該当する。

SL4 灰原部 (試料 1,230g) からは、炭化種実は検出されず、炭化材が 1.4g(最大 0.6cm)、確認されるのみであった。分析残渣は、砂礫主体が 17.7g、炭化材主体が 3.6g を量る。SL4 よりも炭化材、砂礫ともにきわめて少ない。

第 63 表　微細物分析結果

分類群	部位	状態・粒径	XI地区 SL4 燃焼部	XI地区 SL4 灰原部	XI地区 東西トレンチ Ⅲ層(22層)	XI地区 東西トレンチ Ⅳ層(29層)	備考
炭化葉							
マツ属複維管束亜属	葉	破片	1	−	−	−	
炭化種実							
イネ	穎(基部)	破片	1	−	−	−	
	穎	破片	3	−	−	−	
	胚乳	完形	1	−	−	−	長さ4.78mm,幅2.78mm,厚さ2.08mm,0.007g
イネ科	穎・胚乳	完形	−	−	1	−	
		破片	1	−	−	−	基部欠損
タデ属	果実	完形	−	−	1	−	焼き膨れ,果実内部発泡突出
炭化材			20.3	6.4	2.4	2.6	最大径(mm)
		>4mm	6.0	−	−	−	乾重(g)
		4−2mm	6.1	1.4	0.0	0.0	乾重(g),Ⅳ層(29層):1個
炭化材主体		2−1mm	5.9	1.8	−	−	乾重(g)
		1−0.5mm	8.5	1.8	0.0	−	乾重(g)
土器片			−	−	1	−	個
			−	−	9.7	−	最大径(mm)
			−	−	0.3	−	乾重(g)
砂礫主体		>4mm	32.5	1.7	0.8	−	乾重(g),SL4:植物圧痕土製品?含む
		4−2mm	20.7	6.2	1.1	−	乾重(g)
		2−1mm	8.1	3.5	3.9	−	乾重(g)
		1−0.5mm	5.6	6.2	8.4	7.5	乾重(g)
非炭化種実							状態極良好,混入の可能性
イヌタデ近似種	果実	完形	−	−	1	−	
		破片	−	−	1	−	
ヒユ属	種子	完形	1	−	−	−	
分析量			1270	1230	715	376	湿重(g)

1) イネ籾殻の計測はデジタルノギスを使用した。

東西トレンチのⅢ層 (22 層)(試料 715g) からは、草本のイネ科の穎・胚乳が 1 個、タデ属の果実が 1 個の、計 2 個と、炭化材が 0.0g(最大 2.4mm)、土器片が 1 個 0.3g(径 1.0cm) 確認された。分析残渣は、砂礫主体が 14.2g、炭化材主体が 0.0g を量るのみであった。

(3) 花粉分析

結果を表 64 に示す。東西トレンチのⅢ層 (22 層) からは、わずかに検出される程度 (堆積物 1cc あたり 100 個未満) であり、Ⅳ層 (29 層) にいたっては花粉・シダ類胞子は 1 個体も確認されなかった。保存状態も全体的に悪く、花粉外膜が破損あるいは溶解しているものが多く認められた。わずかに検出された種類は、木本花粉ではコナラ属アカガシ亜属、草本花粉ではイネ科、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科である。

微粒炭は、Ⅲ層で約 3,600 個 /cc、Ⅳ層で 1cc あたり 100 個未満であった。検出された微粒炭は、母材の推定が難しい不明型であり、母材推定が可能な構造を有するものは確認できなかった。

第 64 表　花粉分析結果

種　類	XI地区 東西トレンチ Ⅲ層(22層)	XI地区 東西トレンチ Ⅵ層(29層)
木本花粉		
コナラ属アカガシ亜属	1	−
草本花粉		
イネ科	5	−
アブラナ科	1	−
セリ科	2	−
ヨモギ属	4	−
キク亜科	1	−
タンポポ亜科	1	−
不明花粉		
不明花粉	7	−
シダ類胞子		
シダ類胞子	18	−
合　計		
木本花粉	1	0
草本花粉	14	0
不明花粉	7	0
シダ類胞子	18	0
合計(不明を除く)	33	0
微粒炭数(個/cc)	3600	<100
花粉・胞子数(個/cc)	<100	0

1) 微粒炭数、花粉・胞子数については、10 の位を四捨五入して 100 単位に丸めている。

2)<100：100 個未満。

4) 植物珪酸体分析

結果を表 65 に示す。東西トレンチの Ⅲ 層 (22 層)、Ⅳ 層 (29 層) の 2 点からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔 (溶食痕) が認められる。いずれも、分類群が明確にならない不明の短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体が見られる。その含量は少なく、Ⅲ 層で短細胞珪酸体が 200 個 /g 程度、機動細胞珪酸体が 300 個 /g 程度、Ⅳ 層で短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が共に 100 個 /g 未満である。

第 65 表　植物珪酸体含量

分類群	XI地区 東西トレンチ Ⅲ層(22層)	XI地区 東西トレンチ Ⅵ層(29層)
イネ科葉部短細胞珪酸体		
不明	200	<100
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
不明	300	<100
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	200	<100
イネ科葉身機動細胞珪酸体	300	<100
植物珪酸体含量	500	<100

1) 含量は、10 の位で丸めている (100 単位にする)。
2) 合計は各分類群の丸めない数字を合計した後に丸めている。
3)<100：100 個 /g 未満。

(5) 炭化材同定

結果を表 66 に示す。XI地区の SL4 には 3 種類が認められた。X地区の SP1051 と併せて、炭化材には針葉樹 1 分類群 (マツ属複維管束亜属) と広葉樹 2 分類群 (クスノキ科、カキノキ属) が同定された。

第 66 表　炭化材同定結果

地区	遺構	No.	形状	樹種
X地区	SP1051	1033	破片	広葉樹(散孔材)
X地区	SP1328		微細片	不明(炭質物)
XI地区	SL4 燃焼部	561	板目板状	マツ属複維管束亜属
			ミカン割状	クスノキ科
			ミカン割状	カキノキ属

なお、SP1051 は、SL4 に認められた広葉樹 2 分類群とは明らかに異なる種類であるが、組織が破損しており、種類は不明である。また、SP1328 は、組織構造が認められず、由来不明の炭質物である。同定された各種類の解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属 (Pinus subgen. Diploxylon)　マツ科

軸方向組織は、仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成されるが、水平樹脂道とエピセリウム細胞は全て破損しており、痕跡が空壁として残る。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15 細胞高。

・クスノキ科 (Lauraceae)

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独または 2-3 個が放射方向に複合して散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-2 細胞幅、1-20 細胞高。柔組織は周囲状および散在状。柔細胞には油細胞が認められる。

・カキノキ属 (Diospyros)　カキノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または 2-4 個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は異性、1-3 細胞幅、10-20 細胞高で階層状に配列する。

(6) 灰像分析

結果を表 67 に示す。SL4 では、珪化組織片としてススキ属の短細胞列が検出される。また単体の植物珪酸体も認められ、イネ属、タケ亜科、ススキ属などが見られる。この中では、ススキ属の産出が目立つ。

第 67 表　灰像分析結果

	XI地区 SL4
検出された灰像	
ススキ属短細胞列	+
想定される植物体	ススキ (葉部)
単体の植物珪酸体	
イネ科葉部短細胞珪酸体	
イネ属	+
タケ亜科	+
ススキ属	++
不明	++
イネ科葉身機動細胞珪酸体	
イネ属	+
不明	+

1) +：検出、++：多い。

4. 考察

(1) 遺構の年代観

各遺構の放射性炭素年代測定の結果、X地区のSP1051が補正年代で845±25BP、暦年代でcalAD 1,160～calAD 1,251、SP1328が補正年代で1,060±25BP、暦年代でcalAD 901～calAD 1,022の値が得られた。

発掘調査時の所見によれば、SP1051、SP1328のいずれもグスク時代とされている。暦年代をみると、SP1051は12世紀後半～13世紀中頃、SP1328は10世紀初頭～11世紀前半の値が示されSP1051は概ね調査所見と調和的であるが、SP1328はやや古い値を示した。この点については、古い時代の炭化材の混入などが考えられ、炭化材の出土状況等も含め改めて検討する必要がある。

(2)SL4について

XI地区のSL4は、発掘調査所見から近世～近代の遺構とされている。微細物分析では、SL4から、炭化葉・炭化種実、炭化材などの遺物が検出された。炭化葉・種実は、3分類群(マツ属複維管束亜属、イネ、イネ科)に同定された。栽培種は、SL4よりイネの穎・胚乳が確認され、胚乳(炭化米)は短粒・小型(佐藤,1988)に該当した。イネは当時利用された植物質食糧と示唆され、火を受けたとみなされる。イネは、以前に分析を実施したIX地区のSP710でも炭化穎が確認されている。

栽培種を除いた分類群についてみると、SL4より炭化葉が確認されたマツ属複維管束亜属(おそらくリュウキュウマツ)は、当時の本遺跡周辺域の森林の林縁や二次林などに生育していたと考えられる。SL4から炭化種実が確認されたイネ科は、調査区周辺の明るく開けた草地環境に生育していたと考えられる。なお、いずれも火を受け炭化したとみなされる。

また、微細物分析で洗い出された炭化材は、窯の燃料材とされる。板目板状あるいはミカン割状などの炭化材片が認められるが、いずれも燃焼と埋没を経た形状であり、利用時の形状・木取り・大きさ等は不明である。これらの炭化材にはマツ属複維管束亜属、クスノキ科、カキノキ属が認められ、燃料材に少なくとも3種類が混在していたことが推定される。

各種類の材質についてみると、針葉樹のマツ属複維管束亜属は、現在の分布からリュウキュウマツの可能性が高い。リュウキュウマツは、軽軟で強度は低く、白アリの食害も受けやすいが、松脂を多く含み、比較的保存性が高く、また燃焼性も高い。クスノキ科には、様々な種類が含まれ、材質の幅も広い。カキノキ属は、一般に重硬で強度が高い。この結果から、軽軟で燃焼性が高いリュウキュウマツと、比較的重硬な材質の広葉樹材(カキノキ属)とが混在していたことになり、利用された木材の材質に幅があることが推定される。確認された種類はいずれも沖縄本島に生育し、比較的普通に見られる種類であることから、遺跡周辺に生育してた樹木を燃料材として利用したことが推定される。

灰像分析からは、SL4ではススキ属の短細胞列が検出され、ススキ属の植物体が燃えた後の灰が混入していたことが窺える。ススキ属は集落周辺に生育することが多く、容易に入手できることから、燃料材のひとつとして利用された可能性が考えられる。また、植物体は火が着きやすいものの、火力が弱く、燃焼時間も短い。そのため、薪炭材への火付け材として利用されたことが想定される。

以上のことから、SL4の燃料材としてリュウキュウマツやクスノキ科、カキノキ属、ススキ属などが推定され、遺構内にはイネなどの食料残渣も混入していたことが窺える。

(3) 埋没谷内堆積物について

埋没谷内堆積物とされる東西トレンチのIV層(29層)についてみると、花粉化石や種実遺体は1個体も検出されず、植物珪酸体も、不明珪酸体が100個/g未満検出された程度である。IV層はニービが混入する流れ込みの土壌とされていることから、堆積速度が早く花粉や胞子などが取り込まれにくかった可能性がある。

Ⅲ層 (22 層) については、花粉化石や種実遺体が検出されるものの、いずれも産状が悪い。一般的に堆積した場所が常に酸化状態にあるような場合、酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている (中村 ,1967; 徳永・山内 ,1971; 三宅・中越 ,1998 など)。詳細な堆積環境は不明であるが、花粉化石の保存状態が悪い状況を踏まえると、好気的環境下で分解・消失した可能性などが想定される。また、植物珪酸体についても、亜熱帯湿潤気候の下では堆積物中で珪酸分を含む無機成分の溶脱作用が起こるとされているほか (松井 ,1988)、湿潤な土壌や土壌温度が高い堆積物の方が植物珪酸体の風化の度合いが高いともされている (近藤 ,1988)。よって、植物珪酸体も、谷が埋積した後の風化作用により、現代までに保存されにくい状態にあったと思われる。

わずかながらに検出された種類を見ると、木本類ではコナラ属アカガシ亜属が認められた。アカガシ亜属は暖温帯性常緑広葉樹林 (いわゆる照葉樹林) の主要構成要素であることから、当時の谷周辺に生育していたと考えられる。

草本類では、イネ科、タデ属、アブラナ科、セリ科、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ亜科などが確認された。これらはいずれも開けた明るい場所に生育する種を含む分類群であることから、谷沿いの日当たりの良い林縁や草地などの草本植生に由来すると思われる。

また、微粒炭についてみると、Ⅳ層は堆積物 1cc あたり 100 個未満であったが、Ⅲ層は約 3,600 個 / cc 含まれていた。土壌中に含まれる微粒炭は、人間活動と密接に関係していることが知られており、その変化は人為活動の変化を反映している場合が多く認められる (例えば安田 ,1987; 山野井 ,1996; 井上ほか ,2002)。堆積速度が不明なため一概にはいえないが、前述の例を参考にすると、Ⅳ層と比較してⅢ層堆積時のほうが周辺での人為活動が活発化した可能性がある。

引用文献

藤木利之・小澤智生 ,2007, 琉球列島産植物化粉図鑑 . アクアコーラル企画 ,155p.
林　昭三 ,1991, 日本産木材　顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .
井上　淳・吉川周作・千々和一豊 ,2002, 琵琶湖周辺域に分布する黒ボク土中の黒色木片について . 日本第四紀学会講演要旨集 ,32,74-75.
伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ . 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.
伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ . 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 ,66-176.
伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ . 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.
伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ . 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.
伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ . 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.
近藤錬三 ,1988, 植物珪酸体 (Opal Phytolith) からみた土壌と年代 . ペドロジスト ,32,189-203.
近藤錬三 ,2010, プラント・オパール図譜 . 北海道大学出版会 ,387p.
松井　健 ,1988, 土壌地理学序説 , 築地書館株式会社 ,316p.
三宅　尚・中越信和 ,1998, 森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態 . 植生史研究 ,6,15-30.
三好教夫・藤木利之・木村裕子 ,2011, 日本産花粉図鑑 . 北海道大学出版会 ,824p.
中村　純 ,1967, 花粉分析 . 古今書院 ,232p.
中村　純 ,1980, 日本産花粉の標徴　Ⅰ　Ⅱ (図版). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　第 12,13 集 ,91p.
中山至大・井之口希秀・南谷忠志 ,2010, 日本植物種子図鑑 (改訂版). 東北大学出版会 ,678p.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1993, 自然科学分析からみた人々の生活 (1). 慶應義塾藤沢校地埋蔵文化財調査室編「湘南藤沢キャンパス内遺跡 第 1 巻 総論」, 慶應義塾 ,347-370.

Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Haflidason, H., Hajdas, I., Hatté, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J.,2013,IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon,55,1869–1887.

Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E.(編),2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

佐藤敏也 ,1988, 弥生のイネ . 弥生文化の研究 2 生業 , 金関　恕・佐原　真編 , 雄山閣 ,97-111.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

島倉巳三郎 ,1973, 日本植物の花粉形態 . 大阪市立自然科学博物館収蔵目録　第 5 集 ,60p.

Stuiver, M., and Polach, H. A.,1977,Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon ,19, 355-363.

鈴木庸夫・高橋　冬・安延尚文 ,2012, ネイチャーウォッチングガイドブック 草木の種子と果実－形態や大きさが一目でわかる植物の種子と果実 632 種－ . 誠文堂新光社 ,272p.

徳永重元・山内輝子 ,1971, 花粉・胞子 . 化石の研究法 , 共立出版株式会社 ,50-73.

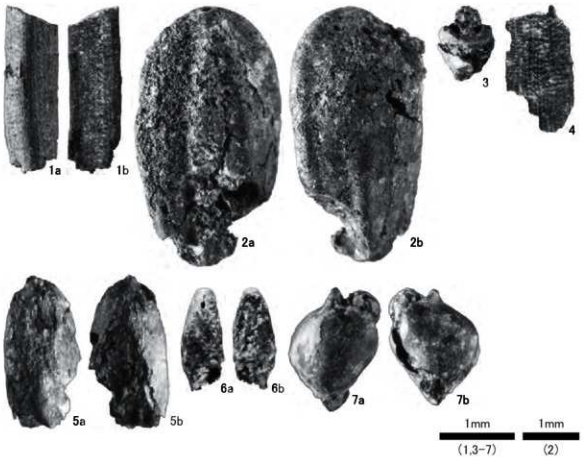
上原冨士男 ,2000, 宜野湾市の地形・地質・水 . 宜野湾市史　第 9 巻　資料編 8　自然 ,55-124.

Wheeler E. A., Bass P. and Gasson P. E.(編),1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩 (日本語版監修), 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.(1989)IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

山野井　徹 ,1996, 黒土の成因に関する地質学的検討 . 地質学雑誌 ,102,526-544.

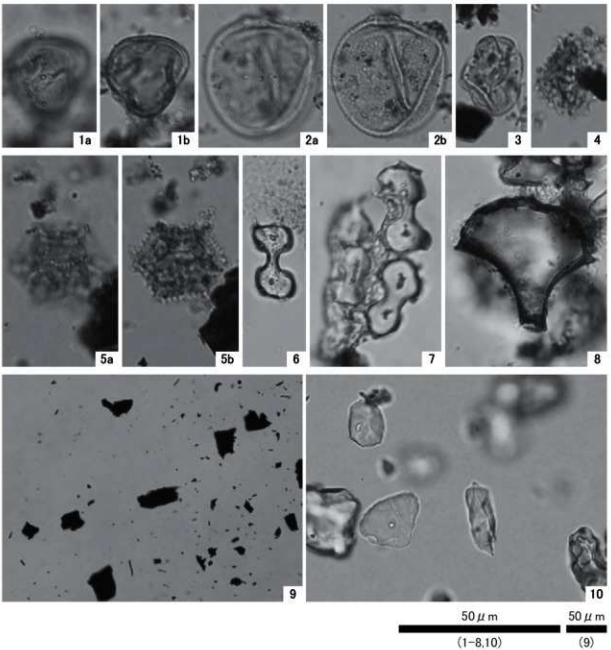
安田喜憲 ,1987, 文明は緑を食べる , 読売新聞社 ,227p.

図版 55　炭化葉・炭化種実



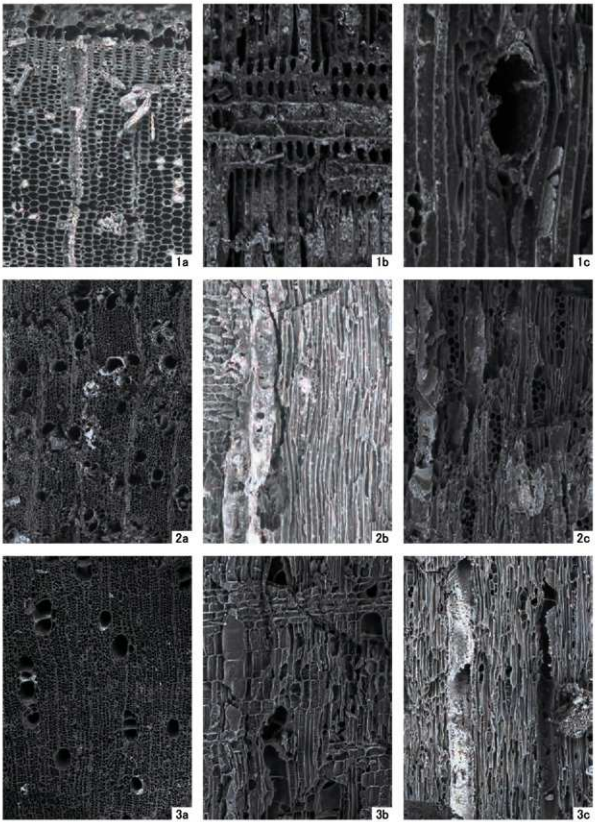
1．マツ属複維管束亜属 葉(SL4)
2．イネ 胚乳(SL4)
3．イネ 穎(基部)(SL4)
4．イネ 穎(SL4)
5．イネ科 穎・胚乳(SL4)
6．イネ科 穎・胚乳(東西トレンチ:Ⅲ層(22層))
7．タデ属 果実(東西トレンチ:Ⅲ層(22層))

図版 56　花粉化石・植物珪酸体



1．コナラ属アカガシ亜属(東西トレンチ;Ⅲ層(22層))
2．イネ科(東西トレンチ;Ⅲ層(22層))
3．セリ科(東西トレンチ;Ⅲ層(22層))
4．キク亜科(東西トレンチ;Ⅲ層(22層))
5．タンポポ亜科(東西トレンチ;Ⅲ層(22層))
6．ススキ属短細胞珪酸体(SL4)
7．ススキ属短細胞列(SL4)
8．イネ属機動細胞珪酸体(SL4)
9．花粉分析プレパラート内の状況(東西トレンチ;Ⅵ層(29層))
10．植物珪酸体分析プレパラート内の状況(東西トレンチ;Ⅳ層(29層))

図版 57　炭化材（1）



1. マツ属複維管束亜属(SL4)
2. クスノキ科(SL4)
3. カキノキ属(SL4)
a:木口,b:柾目,c:板目

100 μ m:2-3a
100 μ m:1a,2-3b,c
100 μ m:1b,c

図版 58　炭化材（2）

4. 広葉樹(散孔材)(SP1051)
a:木口,b:柾目,c:板目

100 μ m:a
100 μ m:b,c

第5章　総　括

前章までにおいて、平成24・25年度に実施した普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡の発掘調査を報告した。本章では、これまでの調査成果を再整理し、キャンプ瑞慶覧病院地区（宜野湾市字普天間）の縄文時代からグスク時代、近世～近代までの字普天間における遺跡の展開や時期的変遷についてまとめ、本報告の総括とする。

第1節　平成24・25年度調査成果

1　縄文時代

遺構　X地区で大型土坑が10基検出された。同様な大型土坑は、これまでの瑞慶覧病院地区の各調査区では、点在して検出されていた状況であったが、X地区2地点では列状に土坑が検出された。X地区の大型土坑は、2地点～3地点にかけて北東－南西方向に並ぶように分布している。

X地区の大型土坑からは、遺物は土器や石器、石材などが出土するものの、その出土量は少ない。遺物が出土しない大型土坑もある。

遺物　SK308からは縄文時代後期の室川式、縄文時代晩期の宇佐浜式が出土し、SK280からはイノシシの歯が出土している。ほかにグスク時代の遺構や包含層（Ⅲ層）、近世～近代の遺構からも縄文時代の土器や石器が出土している。土器は縄文時代後期～晩期のもので、石器は石斧、磨石・敲石、凹石のほかに石核もみられる。

2　グスク時代

遺構　掘立柱建物跡、柵列、土坑、ピットが確認された。X地区では掘立柱建物跡は25棟確認された。掘立柱建物跡A～C群（主屋）は12棟（A群：2棟、B群：8棟、C群：2棟）、D群（大型建物）1棟、E群（倉庫）は12棟（4本柱：3棟、6本柱：7棟、9本柱：2棟）が確認された。この中で、D群の掘立柱建物跡13号は、6本柱の中柱を持つ大型建物跡と考えられる。これら掘立柱建物群は、桁行が概ね北西－南東方向を向く建物配置となっているとともに、柵列も伴って検出されている。

掘立柱建物跡からは、グスク土器A類としたグスク土器第一段階（具志堅2014）や白磁や滑石が出土している。白磁はⅣ類玉縁碗（11～12世紀代）で、年代の指標となる。掘立柱建物跡と同時期とみられるSP1051・SP1328の放射性炭素年代測定結果では、SP1051が845±25BP（12世紀後半～13世紀中頃）、SP1328が1,060±25BP（10世紀初頭～11世紀前半）の値が得られている。

窪地とピット群　XI・XII地区では窪地にⅢ層が堆積し、その下にピット群が検出された。XI地区・XII地区においては、掘立柱建物跡のプランは想定出来なかった。XI地区のピットからもグスク土器A類が出土しており、X地区の掘立柱建物群とほぼ同時期のものと考えている。Ⅲ層からはグスク土器A類とともに、B類としたグスク土器第二段階（具志堅2014）の鍋形土器も出土している。

Ⅲ・Ⅳ層の自然科学分析結果からは、Ⅲ層に含まれる花粉化石や植物珪酸体等は僅かで、窪地埋積後の風化作用により保存されにくい状態にあったとされている。また土壌中に含まれる微粒炭からは、Ⅳ層と比較してⅢ層堆積時のほうが周辺での人為活動が活発化した可能性が指摘されている。

遺物　グスク時代の遺構やⅢ層からは、グスク土器の鍋形・羽釜形のほかに甕形、壺形、鉢形、碗形が出土しており、搬入品である白磁Ⅳ類玉縁碗、滑石製石鍋、カムィヤキが伴う。なかでもX地区SK4から出土したカムィヤキ壺は、口縁部から底部まで復元できるものである。近世～近代の遺構からもグスク時代相当の白磁・青磁等が出土している。

３　近世～近代

遺構　普天間古集落に係る溝跡、道跡、建物跡、土坑、方形石組、井戸、桝状遺構、窯跡、地下壕等様々な遺構が検出されている。当該時期の遺構が最も多く、Ⅹ～ⅩⅡ地区では普天間古集落における屋敷地や耕作地等を区画する溝跡や道跡の続きとして、区画35～46及び道３、道７・８を確認した。

溝跡・道跡　溝跡は屋敷を区画するとともに、排水のために使用されたと考えられるものであり、溝の底に拳大～頭大の石灰岩の礫を詰めているものも検出されている（区画35：SD３、区画36：SD５、区画39：SD30）。このほか、区画内をさらに区画する溝跡（区画38：SD17・20・21、区画39：SD30など）や石列（区画40：石列１）も検出されている。

道路は、集落の内と外をつなぎ社会・経済活動を支える基盤として構築される。普天間古集落における道跡については、遺構の性格や昭和20年航空写真の重ね図や屋号図から、道跡として想定できるものは、溝跡とは区別して報告している。Ⅹ地区３～５地点において、過去の調査（Ⅲ・Ⅳ・Ⅷ地区）で確認された道３の続きが検出された（道３：SD28・33・34）。SD33はSD28－SD34ラインから分岐して垂直に延びる石積みを伴うもので、道が交差していたと考えられる。

Ⅺ地区では、調査区を東西に横断する道７と、それに交差する道８が検出された。道７（SF１）は、南北に石組の側溝を伴うもので、規模は幅６mで全長80 mとなる。遺構上面は硬化面となっており路面と考えられる。SF１除去後の道７・第２面では、SF１構築以前に集落を区画していたと考えられる溝跡が検出されており、古集落における道跡の変遷を窺える。道７（SF１）は、普天間古集落における普天満宮前の主要な大通りとして「ティラヌメー」と呼ばれた。

建物跡　Ⅹ・ⅩⅡ地区で７棟（建物跡１～７号）を検出した。Ⅺ地区でもピットは数多く検出されたが、明確な建物プランを検出できなかった。検出された建物跡は、柱穴を掘り込んだ掘立小屋のような構造で、いわゆる穴屋形式のものである（又吉1983）。屋根は茅葺きで、時代が下ると柱材に石柱を用いるものもある。区画35・36では、２棟が隣接して検出されている。この建物跡は、区画の軸とほぼ同じ向きを向いていることから、これらは区画に伴う建物であることが想定される。

区画44にあたるⅪ地区２地点では、礎石跡（SP692）が検出され、貫木屋とよばれる瓦葺きで礎石立ちの建物が建っていたと見られる。位置的には大通りである道７（SF１）に面した区画内にある。

井戸　Ⅹ～ⅩⅡ地区の調査では11基（Ⅹ地区：２基、Ⅺ地区７基、ⅩⅡ地区２基）確認した。その殆どが建物跡や区画に伴う屋敷井戸と考えられ、Ⅺ地区を中心に、道７（SF１）に面した区画に多く分布している。井戸の直径は70～90cm前後のもの（区画38：井戸１、区画39：井戸２、区画40：井戸３、区画42：井戸７、区画44：井戸８）や直径が１mを超えるもの（区画40：井戸４、区画45：井戸９、区画46：井戸11）、50cm前後のもの（区画45：井戸10）もある。

構築方法は、地山をほぼ垂直に掘り込み、切石を岩盤直上から相方積みで積んでいる。切石は15～40cm前後で大きさが揃わないものが多く、15～20cmと切石の大きさが比較的揃うもの（井戸２・６・９）もある。石の積み方についても、面の加工や積み方が丁寧な造りとなるもの（井戸２・４）や、粗く積まれたもの（井戸３・11）がある。宜野湾市内の各部落においては、明治末期から各戸に井戸が掘られたとされており（宜野湾市教育委員会1985）、今回検出した井戸も明治以降に掘られたものと考えられる。

桝状遺構・方形石組遺構　多くは井戸の付近に位置することから、水場の遺構と考えられるものである。

桝状遺構は、地山を方形状に掘り込み、海浜のサンゴ砂利と樹液を混ぜ固めたものを壁と床面に貼り構築したものがある（区画40：桝状遺構２）。サントウ技法とよばれるもので、セメント（モルタル）が普及する以前の技法とされている（読谷村教育委員会2003）。ほかに、長方形状の枡をモルタルにより構築したものがある（区画40：桝状遺構１・３、区画45：桝状遺構４）。区画40の桝状遺構１は石敷きの遺構が付随しており、周辺には石畳が広がっていたものと想定される。区画40においては、サントウ技法のもの（桝状遺構２）とモルタルにより構築されたもの（桝状遺構３）が隣接し、同一区画内における

桝状遺構の変遷が窺える。

方形石組遺構は石灰岩の切石を四方に配置するもので、単に切石で囲うもの（区画37：方形石組1、区画39：方形石組3、区画44：方形石組5）や、床面や壁面にモルタルを施し目張りするもの（区画43：方形石組4、区画44：方形石組6・7）、石組内にモルタルによる桝を構築するもの（区画38：方形石組2、）がある。区画44の方形石組5内からは木製の桶が潰れた状態で出土している。

土坑　土坑は平面形が方形や円形のものがあり、断面は方形状を呈するものが多い。埋甕（区画37：SP1437、区画40：SP58）は、掘り込んだ土坑に甕の底部を埋めたもので、ほかに溝内に土坑が掘り込まれる場合もある。さらに不定形なもので長軸が8mを越す大型なものもある（区画39：SX35）。これらの土坑は様々な用途が推測できるが、柱の抜け跡と考えられるもの、何らかの作業に使用するための水を溜める溜池跡等が考えられる。

また、土坑内より本土産近代陶磁器・沖縄産陶器などの陶磁器類が一括して出土したものがある（区画40:SK328、区画44:SK334）。特にSK334からは多量の陶磁器類とともに、位牌が出土している。戦時中、位牌を守るために庭に1m前後の穴を掘り、位牌枠を布に包んで埋めたとする記録があり（波平2010）、当該土坑も同様なものと考えられる。このような一括出土の遺物は、本土産近代磁器は碗や皿、小杯類があり、同じ種類の製品が複数揃うことが多い。沖縄産陶器は香炉や碗、壺、蓋などが伴う。これらの陶磁器類の組み合わせからは、当時の食器構成などの一端が窺える。

窯跡　XI地区で4基確認されており、製糖小屋（サーターヤー）との関連が窺える。平面形が円形で、断面鍋底状となるもの（区画40：SL1・2、道7：SL3）がある。SL1・2はともに規模・深さが同様なもので2基隣接している。SL3は、SL1・2より小形であり、いずれも床面には炭層が堆積している。区画43のSL4は、楕円形の燃焼部に、方形状の灰原部分が付属するものである。SL4について燃料材同定を行った結果、リュウキュウマツやクスノキ科、カキノキ属、ススキ属などが燃料材として推定されている。また、遺構内にイネなどの食料残渣も混入していたことが報告されている。

壕　X・XII地区で3基確認されている（区画39：SX46・52、区画46：SX6）。区画（屋敷地）に伴う住民避難壕と考えられ、SX52・SX6は壕口に階段状の掘り込みを伴う。

以上のように、調査では近世～近代の普天間古集落に係る多様な遺構が検出された。各遺構の分布状況をみると、区画により遺構が多い箇所と少ない箇所があり、区画39（X地区）及び区画40、42、44（XI地区）は遺構の密度が高いのに対し、XII地区の遺構密度は低く、区画（調査区）により遺構密度に差異が認められた。

各遺構の年代については、これまでの調査成果では、上限は17世紀後半で主体は18世紀以降という年代観を提示しているが（沖縄県立埋蔵文化財センター2015a、2015b、2016a）、今回の調査で確認された遺構についても同様の年代観を捉えている。また、前回報告した区画33では、当初は屋敷地などの居住域であったが、ある時期から耕作地となることが指摘されている（沖縄県立埋蔵文化財センター2016a）。本報告における区画35・36でも建物跡が確認されているが、昭和20年の航空写真では耕作地となっており、利用形態が変化している。

遺物　当該時期の遺物については、沖縄産陶器を中心に、本土産陶磁器、中国産陶磁器、金属製品、瓦等が出土しており、近世後期～近代の遺物が主体である。区画別での遺物の出土状況は、区画39が最も多く、次に区画40と続く。遺構種別では区画溝・道（SD・SF）での出土が最も多く、次に土坑（SK）が多い。陶磁器の中で最も多くみられた沖縄産陶器では多種多様な製品がある。中国産陶磁器では、17世紀後半～18世紀代の福建・広東系の粗製染付碗もみられ、主体は18世紀～19世紀と考えられる徳化窯製品である。本土産陶磁器では、肥前産染付では玉壺春形の瓶など17世紀代の資料や薩摩産陶器の急須などが見られるが少ない。本土産近代陶磁器は、瀬戸・美濃産、砥部産が中心で碗・皿類が多く、それぞれ揃いの製品が多い。区画44のSK334一括出土陶磁器類には、統制番号が標示された緑二重線入り厚口食

器類をはじめとした統制陶磁器や軍杯も含まれ、ともに出土した位牌は、大正年間に作られたとされる屏位9人立ちの位牌である。残存する位牌札の銘には「蒲」の字が認められ、区画44は屋号蒲喜屋武家の敷地に推定され、屋号との関連が窺える。

自然遺物では、貝類遺体・脊椎動物遺体が見られ、区画40で最も多く出土している。区画37の方形石組1（SX51）から出土した幼獣の頭蓋骨は、野生とは思えないブタの形態をしていることが指摘されており、近代集落跡の特徴を示している。

4　まとめ

平成24・25年度のX～XII地区の調査では、縄文時代、グスク時代、近世～近代の遺構や遺物が確認された。縄文時代では、深さ1m以上となる大型土坑が確認され、グスク時代では普天間後原第二遺跡の範囲を中心に掘立柱建物跡が多数検出された。掘立柱建物跡はそれぞれ軸が揃う建物配置となっており特筆される。そして本遺跡の主体となる近世～近代では、普天間古集落に係る屋敷地・耕作地の区画や道跡、建物跡、井戸など多種多様な遺構が検出された。

第2節　キャンプ瑞慶覧病院地区発掘調査成果のまとめ

1　発掘調査の概要

平成20～25年度までの6か年実施したキャンプ瑞慶覧病院地区（約23ha）における県教委調査区Ⅰ～XII地区の総発掘調査面積は53860㎡である。調査範囲には、普天間古集落遺跡、普天間後原第二遺跡、普天間下原第二遺跡、普天間石川原遺跡が広がる。遺構・遺物ともに近世～近代の普天間古集落に係るものが最も多い。縄文時代やグスク時代の遺構は疎らで少ないが、X地区ではグスク時代の遺構が多数検出された。

普天間古集落遺跡　米軍基地接収以前の普天間古集落跡である。普天満宮の西側に位置し、瑞慶覧病院地区の中心に広がる。県教委の調査主体となった遺跡で、平成20～25年度の調査（Ⅰ～Ⅲ、Ⅵ～XⅡ地区）では、約40000㎡を調査した。近世～近代の普天間古集落における屋敷地・耕作地と考えられる区画や道跡が調査区全体で検出されるとともに、多種多様な遺構や遺物が出土している。縄文時代の竪穴状遺構や大型土坑、グスク時代の掘立柱建物跡なども検出されている。

普天間後原第二遺跡　普天満宮や普天間古集落遺跡の北側に位置し、フィールー丘陵を後背にした範囲に広がる。調査面積は約7400㎡である。平成24年度調査区（X地区）でグスク時代の掘立柱建物跡群が検出され、グスク時代初期の集落遺跡があったと考えられる。縄文時代の竪穴状遺構（平成21年度：Ⅳ地区）や普天間古集落の区画や道跡が検出されている。

普天間下原第二遺跡　グスクンニー丘陵南西側から普天間後原第二遺跡の北西側にかけて広がる。平成21年度調査区（Ⅲ・Ⅳ地区）で約2500㎡調査した。普天間古集落に係る区画や道跡が確認されている。宜野湾市教委の調査では縄文時代の遺構が検出されている（宜野湾市教委2016）。

普天間石川原遺跡　普天間古集落遺跡の北東側に広がる。平成21・22年度調査区（Ⅲ・Ⅴ・Ⅵ地区）では約4000㎡を調査した。普天間古集落の耕作地が広がる範囲であり、道跡が検出されるとともに、縄文時代の大型土坑やグスク時代の溝・ピットも検出されている。

第68表　キャンプ瑞慶覧内病院地区発掘調査一覧（県教委調査）

調査年度	地区名	調査面積	遺跡	時代	遺構	遺物
平成20年度	Ⅰ地区	6,500㎡	普天間古集落遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：土坑 グスク：掘立柱建物跡（3） 近世～近代：区画1～9、道1・2 溝跡、道跡、土坑、方形石組、柵状遺構 （サントウ）、井戸、窯跡、ピット列、雛跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦、位牌等
	Ⅱ地区	6,000㎡	普天間古集落遺跡 普天間後原第二遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：竪穴状遺構、土坑 グスク：ピット 近世～近代：区画10～17、道1・2 溝跡、道跡、建物跡（2）、土坑、方形石組、 柵状遺構（サントウ）、井戸、雛跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
平成21年度	Ⅲ地区	7,700㎡	普天間古集落遺跡 普天間後原第二遺跡 普天間下原第二遺跡 普天間石川原遺跡	縄文 グスク 近世～近代	グスク：溝跡、ピット 近世～近代：区画11・15・18・22～26、 道1・3～6 溝跡、道跡、土坑、柵状遺構等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、滑石製石鍋、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
	Ⅳ地区	4,600㎡	普天間後原第二遺跡 普天間下原第二遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：竪穴状遺構 グスク：ピット 近世～近代：区画19～21・23、道1・3 溝跡、道跡、建物跡（1）、土坑、方形石組、 炉跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
	Ⅴ地区	400㎡	普天間石川原遺跡	縄文・グスク 近世～近代	グスク：溝跡、土坑 近世～近代：溝跡、土坑等	土器、カムイヤキ、石器・石製品、本土産陶磁器、沖縄産陶器、瓦等
平成22年度	Ⅵ地区	4,000㎡	普天間古集落遺跡 普天間石川原遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：土坑 グスク：ピット、土坑 近世～近代：道9 溝跡、道跡、土坑、窯跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
	Ⅶ地区	4,450㎡	普天間古集落遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：土坑 グスク：掘立柱建物跡（3） 近世～近代：区画26～32、道8 溝跡、道跡、土坑、方形石組、柵状遺構 （サントウ）、井戸、窯跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
平成23年度	Ⅷ地区	3,800㎡	普天間古集落遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：土坑 グスク：掘立柱建物跡（1） 近世～近代：区画34、道2・3 溝跡、道跡、建物跡（1）、土坑、方形石組、 柵状遺構（サントウ）、井戸、窯跡、墳跡等	縄文土器、カムイヤキ、滑石製石鍋、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
	Ⅸ地区	4,400㎡	普天間古集落遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：土坑 グスク：掘立柱建物跡（4） 近世～近代：区画32・33、道1 溝跡、道跡、建物跡（3）、土坑、方形石組、 井戸、窯跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
平成24年度	Ⅹ地区	4,700㎡	普天間古集落遺跡 普天間後原第二遺跡	縄文 グスク 近世～近代	縄文：土坑 グスク：掘立柱建物跡（25）、柵列、土坑 近世～近代：区画35～39、道3 溝跡、道跡、建物跡（6）、土坑、方形石組、 井戸、墳跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、滑石製石鍋、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
	Ⅺ 地区	3,310㎡	普天間古集落遺跡	縄文 グスク 近世～近代	グスク：ピット 近世～近代：区画40～45、道7・8 溝跡、道跡、土坑、方形石組、柵状遺構 （サントウ）、井戸、窯跡等	縄文土器、グスク土器、カムイヤキ、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦、位牌等
平成25年度	Ⅻ地区	4,000㎡	普天間古集落遺跡	縄文 グスク 近世～近代	グスク：ピット 近世～近代：区画44～46 溝跡、建物跡（1）、土坑、柵状遺構、井戸、 墳跡等	グスク土器、石器・石製品、中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、円盤状製品、金属製品、瓦等
範囲確認調査		53,860㎡				

２　縄文時代における集落の展開

Ⅰ～Ⅻ地区における縄文時代の遺構は、普天間古集落遺跡の範囲を中心に、普天間後原第二遺跡の一部で、竪穴状遺構や大型土坑、土坑が点在するように検出されている（第 123 図）。

竪穴状遺構（住居）　Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ地区において３基確認されており、縄文時代後期～晩期のものである。最も古いものはⅣ地区 SK54 で、縄文時代後期の伊波式期の遺構である。長方形を呈し、床面には焼土面やピットがみられる。Ⅰ地区 SK19 は縄文時代晩期の宇佐浜～仲原式期、Ⅱ地区 SI1 は仲原式期で、ともに楕円形を呈する。石囲を持つものは見られない。

大型土坑　Ⅰ～Ⅻ地区全体で 22 基（Ⅰ地区３基、Ⅱ地区１基、Ⅶ地区３基、Ⅷ地区１基、Ⅸ地区４基、Ⅹ地区 10 基）確認されている。この中で、大型土坑は地山（マージ）を深さ１m以上掘り込むもので、深いものは地表下２mを越すものもある。その多くは岩盤付近まで達する。遺物は、縄文時代後期～晩期の土器や石器等が出土している。Ⅰ～Ⅻ地区全体における大型土坑の分布を見てみると、東側（ズケ 14 グリッド西側）から南側（ズケ 15 グリッド南西側）にかけて、北東－南西方向に並ぶように分布している。大型土坑の性格については落とし穴などの性格が考えられるが、下部には逆茂木などの構築は認められない。大型土坑の時期については、出土遺物やこれまでの調査成果から、縄文時代後期～晩期に構築されたものと考えられる。

遺構の分布状況は、広い範囲において少数の竪穴状遺構が点在し、その周辺に大型土坑が構築されている。傾斜が緩やかな平坦地を選択して、そこを中心に遺跡が広がっていたものと考えられる。南側に位置するⅪ・Ⅻ地区の窪地においては、堆積層からはグスク時代の遺物とともに縄文時代の遺物は出土するが、遺構は確認されていない。遺構の時期は、出土遺物から縄文時代後期～晩期に位置付けられ、縄文晩期が主体である。隣接する宜野湾市教委調査区においても、縄文時代の竪穴状遺構や大型土坑、溝状遺構などが検出され、時期は縄文時代晩期が主体とされている（宜野湾市教委 2016・2017）。大型土坑は、宜野湾市教委の調査区でも多数確認され、出土遺物や年代測定から縄文時代後期～晩期に位置付けている。

一方で、市教委調査区では近世～近代の遺構で類似するものが確認されており、時期の判断には注意が必要とした。前回報告したⅦ地区 SK98 からは、縄文土器とともに弥生～平安時代並行期のくびれ平底土器が出土しており年代測定結果と年代観に差異が生じている例もあるとともに、遺物が出土していない大型土坑もみられることから、大型土坑の年代観については、今後検討が必要である。そして、この大型土坑についても、どのような意図をもって構築されたのかについて、宜野湾市教委調査区との繋がりをみていく必要がある。

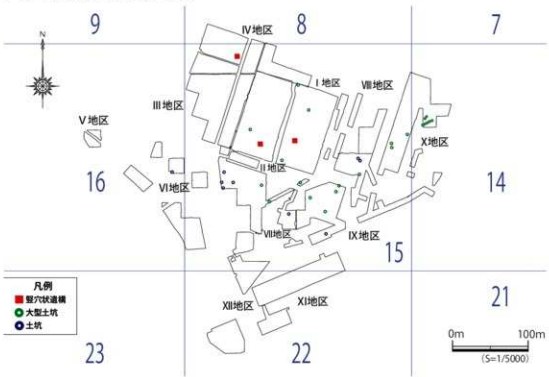
第 69 表　縄文時代の遺構一覧

調査区	遺構名	分類	規模（m）	深さ（m）	出土遺物
Ⅰ地区	9016	竪穴状遺構	4.7×4.5	0.57	縄文晩期土器、石器
	9039	大型土坑	幅1.8	2.2	縄文後期土器
	9071	大型土坑	幅0.8	1.8	縄文土器、石器
	9098	大型土坑	幅0.7	1.3	遺物出土なし
Ⅱ地区	SI1	竪穴状遺構	4.2×2.5	0.6	縄文晩期土器、石器
	SI2	—	—	—	遺物出土なし
	9035	大型土坑	幅0.6	1.3	縄文土器
	9052	土坑	—	—	縄文土器
Ⅳ地区	SK54	竪穴状遺構	3.1×2.2	0.3	縄文後期土器、石器、石材
Ⅵ地区	SP103	土坑	幅0.4	0.5	遺物出土なし
Ⅶ地区	SK2	土坑	幅1.2	0.9	土器、石材
	SK10	土坑	幅0.6	0.7	焼土
	SK11	土坑	幅1.2	0.9	縄文後期土器、焼土
	SK51	土坑	幅0.8	0.6	石材
	SK66	大型土坑	—	—	縄文土器、貝層後期土器、石器、石材
	SK73	土坑	—	—	縄文土器、石材
	SK79	土坑	—	—	縄文土器
	SK97	大型土坑	幅1.0	1.8	縄文土器、石材、焼土
	SK104	大型土坑	—	—	縄文土器、石器、石材
	SK63	土坑	—	0.5	縄文晩期土器、石器、石材、焼土
窪地区	SK67	土坑	—	0.1	縄文晩期土器、石材

調査区	遺構名	分類	規模（m）	深さ（m）	出土遺物
窪地区	SK32	大型土坑	幅1.4	1.7	遺物出土なし
Ⅸ地区	SK83	土坑	幅0.6	0.7	焼土、木片
	SK36	大型土坑	幅1.2	2.2	縄文後期土器、石器、石材
	SK44	土坑	—	—	縄文土器、石材
	SK59	大型土坑	幅1.4	1.9	縄文土器、石器、石材
Ⅹ地区	SK94	大型土坑	—	1.5	縄文土器
	SK68	土坑	—	—	縄文土器
	SK45	大型土坑	幅1.4	2.2	縄文後期土器、石器、石材
	SK58	土坑	—	—	縄文土器
	SP69	土坑	—	—	縄文土器
Ⅺ地区	SK77	大型土坑	幅1.1	1.4	石器
	SK78	大型土坑	幅1.1	1.4	遺物出土なし
	SK80	大型土坑	幅1.6	1.5	石材
	SK81	大型土坑	幅1.2	1.3	遺物出土なし
	SK20	大型土坑	幅0.8	1.4	縄文土器、石材
	SK74	大型土坑	幅1.2	1.2	遺物出土なし
	SK76	大型土坑	幅0.7	1	遺物出土なし
	SK60	大型土坑	幅0.8	1.1	イノシシ歯
	SK62	大型土坑	幅1.4	1.6	縄文後期～晩期土器、石器
	SK34	大型土坑	幅1.6	1.6	縄文土器、焼土

竪穴状遺構：３基、土坑：15基、大型土坑22基

沖縄の縄文時代における集落の様相は、室川式期以前は広い範囲に竪穴住居が点在し、室川式以降は多数の竪穴住居が集合した集落遺跡の事例が増加する（山崎 2016）。Ⅰ～Ⅻ地区においては、遺構は点在しており、多数の竪穴住居が切りあうような状況はみられない。今回の調査成果は、縄文時代後期～晩期における集落の一様相を示している。今後は、県教委調査区と市教委調査区の調査成果をまとめ、キャンプ瑞慶覧病院地区における遺構の分布とその広がりを見た上で、縄文時代後期から晩期における集落の様相について、再度検討する必要がある。



第 123 図　縄文時代の遺構分布図（Ⅰ～Ⅻ地区）

3　グスク時代における集落の展開

Ⅰ～Ⅻ地区における遺構の分布（第 124 図）を見てみると、特にⅩ地区で多く検出されている。掘立柱建物跡は、Ⅰ～Ⅻ地区で計 36 棟（A 群：2 棟、B 群：11 棟、C 群：3 棟、D 群：1 棟、E 群：19 棟）確認された（第 3・4 表）。この他に溝や柵列、土坑がみられる。

建物跡の分布　掘立柱建物跡が多数検出されたⅩ地区北側には、宜野湾市教委の調査区が隣接している。県教委及び宜野湾市教委調査区における調査成果を合わせ、掘立柱建物跡の分布状況を示したものが第 125・126 図である（宜野湾市教委提供図を一部加工し作成）。掘立柱建物跡は、大型建物跡、主屋、倉庫の三つに大きく分けることができる。瑞慶覧病院地区全体でみてみると、普天間後原第二遺跡の範囲（Ⅹ地区北側および宜野湾市教委調査区）を中心に掘立柱建物跡が集中しており、集落の主体部であると考えられる。宜野湾市教委調査区では大型建物をはじめ、多数の掘立柱建物跡が検出されており、円弧状遺構や列状ピット群もみられる。普天間後原第二遺跡における掘立柱建物跡は、概ね北西－南東方向に軸が揃っていることが特筆される。大型建物はフィールー丘陵に近い北側に立地しており、主屋や倉庫群がそれぞれ集中している箇所がみられる。中にはいくつかの建物が切りあっている箇所もあり、建物の用途などでエリアが決められていた可能性がある。

一方で、普天間古集落遺跡を中心とした範囲（Ⅰ～Ⅸ・Ⅺ・Ⅻ地区）では、遺構の分布は局地的であり、Ⅹ地区における様相と比較すると、集落の周辺部と考えられる。掘立柱建物跡は疎らに分布し、建物の向きは一様でない。Ⅲ地区やⅤ地区では溝跡が検出されている。ピット群は窪地にも検出され、この窪地に遺物包含層（Ⅲ層）が堆積した時期は、出土遺物から掘立柱建物跡群と時期的に近いと考えている。

推定ではあるが、建物など構造物の構築、もしくは農耕などを周辺で行ったことにより窪地内に堆積した可能性がある。

集落の様相　グスク時代における普天間では、フィールー丘陵を後背とした普天間後原第二遺跡の範囲を中心に集落が展開していた。大型建物や主屋、倉庫はそれぞれ集中し切りあっており、その場所における用途やこだわりなどがあった可能性がある。そして、その南側の普天間古集落遺跡の範囲においては、掘立柱建物が点在しており、土地利用に適した場所を選定して利用したものと考えられる。このように、グスク時代初期における集落の主体部と周辺部では、遺跡の様相や遺構密度が大きく異なっている。これまでの調査における遺物の出土状況からは、遺跡の年代はグスク時代初期（11 ～ 12 世紀頃）と考えられる。普天間後原第二遺跡のように、掘立柱建物跡群が一定の軸で揃って検出されている状況は、同時期の沖縄諸島では、管見の限りでは報告されていない。

本遺跡および周辺遺跡における遺物の出土状況を示したものが第 70 表である。本遺跡は、伊佐前原第一遺跡や小堀原遺跡と比較すると、遺物の出土量が圧倒的に少ないことがわかる。伊佐前原第一遺跡は、本遺跡Ⅰ～ⅩⅡ地区より約 1 /60 の調査面積であるが、白磁Ⅳ類は 2 倍弱、滑石製品は 4 倍以上出土している。小堀原遺跡は約 1 / 7 の調査面積で、滑石製品は 47 倍の出土である。

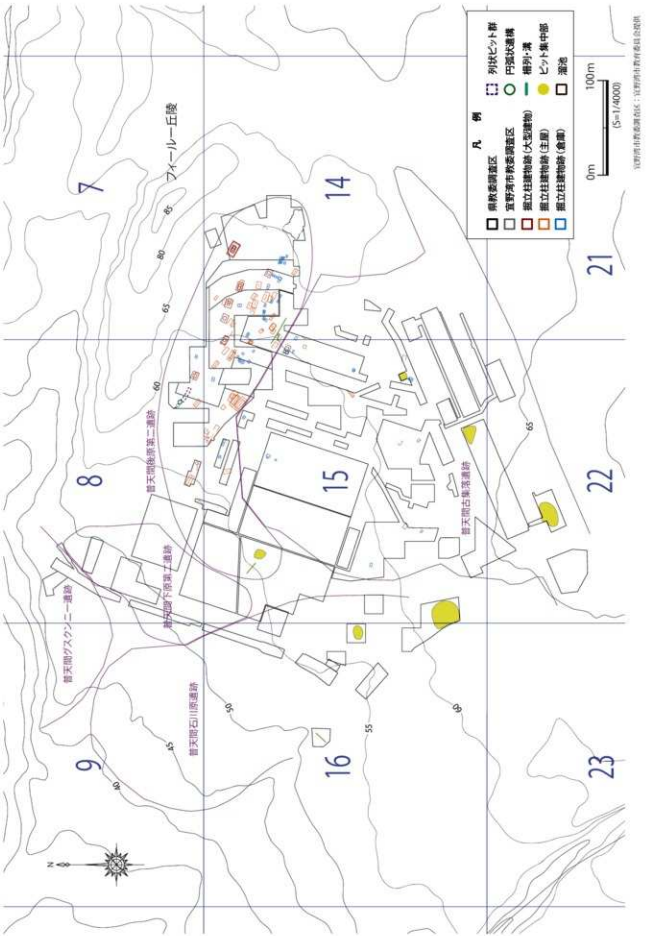
単純な調査面積と遺物出土量の比較ではあるものの、海岸線に近い伊佐前原第一遺跡や小堀原遺跡と、内陸部の本遺跡や喜友名グスクの遺物出土量の差異は、遺跡の性格が表出しているものと考えられ、グスク時代初期における交易と物流の様相を示している。普天間川流域とその周辺地域における港湾から内陸部に至る物流ルートの中で、本遺跡は内陸部における拠点集落の一つと考えられる。

第 70 表　本遺跡及び周辺遺跡遺物出土状況

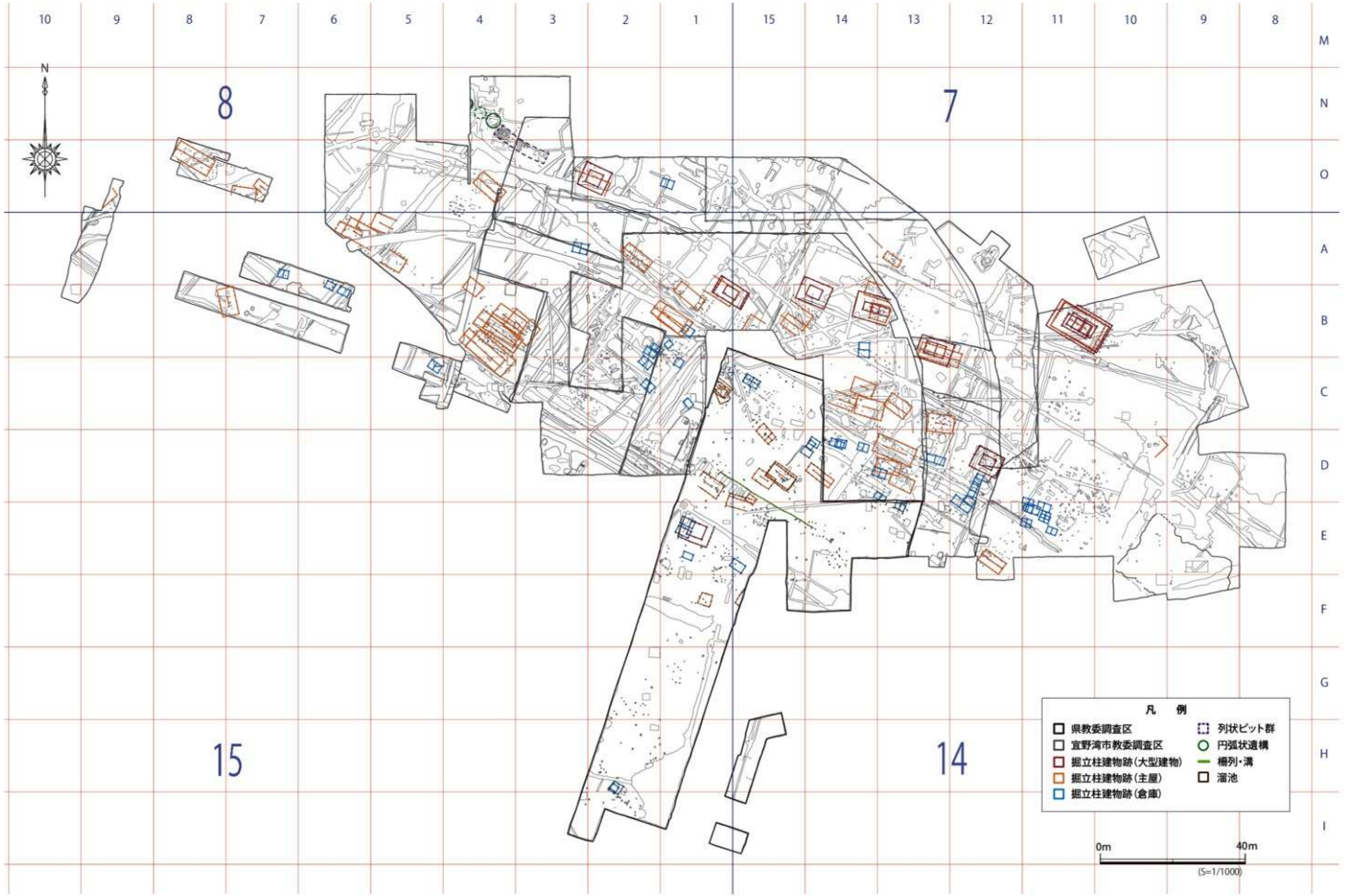
	調査面積（㎡）	白磁Ⅳ類	滑石製品	カムイヤキ
普天間後原第二遺跡・普天間古集落遺跡（Ⅰ～ⅩⅡ地区）	53860	35	10	220
喜友名グスク	4604	5	4	50
安仁屋トゥンヤマ遺跡	640	(7)	5	79
伊佐前原第一遺跡	900	68	48	387
小堀原遺跡	7310	54	473	195

※破片点数。（ ）は掲載点数

第 124 図　グスク時代の遺構分布図（Ⅰ～ⅩⅡ地区）



第 125 図　グスク時代の遺構分布図（県教委・市教委調査区）



第 126 図　普天間後原第二遺跡　掘立柱建物跡分布図（県教委・市教委調査区）

宜野湾市教委調査区：宜野湾市教育委員会提供

4　普天間古集落の展開

今回の調査では、近世～近代の普天間古集落に係る遺構が最も多く、調査区のほぼ全面に屋敷地や耕作地等を区画する溝跡・道跡が連結する形で検出された。Ⅰ～Ⅻ地区全体では、区画は46区画、道は9本を想定できた（第129図）。昭和20年に撮影された航空写真や宜野湾市教委による戦前の屋号図（宜野湾市教委2012）と調査区を重ねると、集落の広がる箇所や耕作地に調査区がまたがるほか、遺構密度の高い箇所は集落、遺構密度の低い箇所は耕作地が広がっており、遺構の検出状況と概ね一致している（第132図・図版59）。また、古写真及び屋号図との重ね図における区画や道のラインは、あくまでも推定されるもので正確ではなく、実際の境界とは異なる可能性があることは明記しておく。

道　普天間古集落における道路は、宜野湾並松街道のような幹線道路・集落内の道路などの主要道路と集落外の農道に大きく分けることができる。主要道路のうち、道7（SF 1）は「ティラヌメー」とよばれる普天満宮前を通る主要な幹線道路で、かつて中城村瑞慶覧方面から普天間を通り、伊佐・大山までおりていく県道である。サトウキビ運搬のためのトロッコ軌道が敷かれていたとされている。交通の要所なため、道路沿いには客馬車を休ませる馬車宿があり、区画41にもあったとされている。

集落内の道路である道1～3、8は、道7にほぼ垂直に交差するかたちで集落を碁盤目状に区切るものである。道3は集落内の東側を通り、北方の稲嶺屋取集落（シチャーラーヤードゥイ）前を通り安仁屋方面まで続く道である。また、道3は区画38・39付近で分岐しており、これは集落を横断し普天満宮の後ろを通る「ナカミチ」「ティラヌクシ」と呼ばれる道路と交差する箇所と考えられる。ここはかつて綱引きをする場所であったため「チナヒチミチ」とも呼ばれた。

農道と想定される道4～6、9は集落北西側の耕作地が広がる範囲にみられる。道4～6は道1から枝状に分岐している。

区画　これまでの調査で確認できた46の区画は、居住域としての屋敷地、その他は耕作地として分けられる。集落と耕作地の広がりは、各区画における遺構密度の差異と関係しており、屋敷地としての区画では遺構密度が高い。分類に際しては、区画内における遺構検出状況や昭和20年の航空写真・屋号図（宜野湾市教委2012）から想定した。

屋敷地（区画1～7、10、11、13、14、18、20、21、26～28、31、34、37～42、44～46）

屋敷地とした区画は、26区画が認められた（区画3と10、5と14は一つにまとめた）。建物跡をはじめ、土坑、方形石組、井戸、桝状遺構、窯跡、地下壕等が確認されている。今回の調査では14棟の建物跡が検出されたが、いずれも穴屋形式とよばれる掘立小屋のような構造の建物である（第71表）。屋根は茅葺きであり、時代が下ると柱材に石柱を用いるものもある。琉球王府による1737年「敷地家屋の制限令」により平民の瓦葺きは禁止され、昭和初期まで茅葺きに限定されたとされている（又吉1983）。建物跡の規模から、主屋（面積14～19㎡前後）のものと付属屋（8～12㎡前後）に概ね分けられる。建物跡の軸は区画の向きと揃っていることから、区画に伴う建物と考えられる。また、区画44では礎石跡が検出され、貫木屋とよばれる瓦葺きで礎石立ちの建物が建っていたと考えられる。

井戸は計27基検出され、その多くは屋敷井戸である。区画13の井戸4は共同井戸と考えられる。普天間古集落には屋敷井戸が多くあり、共同井戸は普天満宮周辺に多くあったとされる。かつての宜野湾市内の各部落では、部落ごとに共同湧泉があったが、明治末期から各戸に井戸が掘られたとされており（宜野湾市教育委員会1985）、今回検出された井戸の多くは明治以降に掘られたものと考えられる。各井戸の付近には、水場の遺構と考えられる方形石組遺構や桝状遺構が検出されている。

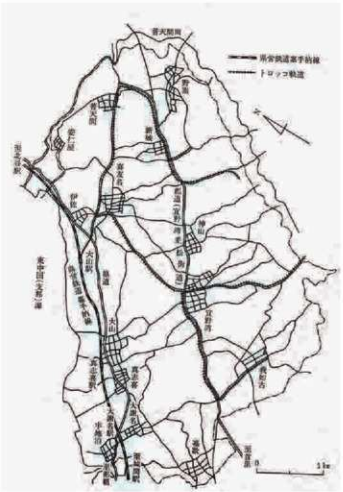
耕作地（区画8、9、12、15～17、19、22～25、29、30、32、43）

耕作地とした区画は、15の区画が認められた。遺構は少なく、溝やピット、土坑、方形石組、窯跡、鍬跡がある。窯跡のうち燃焼部に灰原部が伴うタイプは区画29・30・43のほかにⅥ地区4地点・Ⅶ地区4地点（区画外）で耕作地と推定される範囲で多く見られる。区画19や区画44北側には製糖小屋（サー

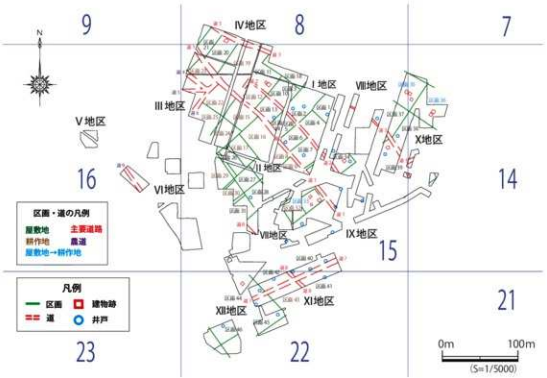
第 71 表　近世～近代建物跡一覧

No.	遺構名	地区	区画	構造	分類	規模 (m)	面積 (㎡)	備考
1	建物4	II	11	穴屋	主屋	3.4×3.4	11.5	
2	建物5	II	12	穴屋	主屋	4.3×4.3	18.5	石柱
3	建物1	IV	20	穴屋	主屋	4.5×4.2	18.9	
4	建物9	IX	33	穴屋	主屋	4.5×3.6	16.2	
5	建物10	IX	33	穴屋	付属屋	4.2×3	12.6	
6	建物11	IX	33	穴屋	付属屋	3.3×2.5	8.25	
7	建物12	VIII	34	穴屋	主屋	4×4	16	石柱
8	建物3F1号	X	35	穴屋	主屋	4.3×4.9	17.2	
9	建物3F2号	X	35	穴屋	付属屋	3.6×3.4	12.2	
10	建物3F3号	X	35	穴屋	付属屋	3.7×3.0	11.1	
11	建物3F4号	X	36	穴屋	主屋	4.5×4.0	18	
12	建物3F5号	X	36	穴屋	主屋	4.5×4.0	18	
13	建物3F6号	X	39	穴屋	主屋	4.7×4.2	19.7	
14	建物3F7号	XII	44	穴屋	主屋	4.0×3.7	14.8	石柱

第 127 図　戦前の普天間集落内道路
（宜野湾市史第五巻資料編四）



第 128 図　戦前の道路・鉄道路線
（宜野湾市史第五巻資料編四）

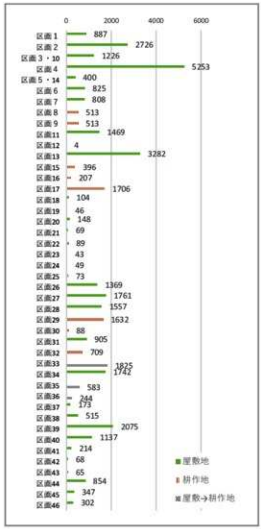


第 129 図　近世～近代の区画・道跡（I ～ XII 地区）

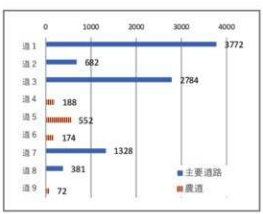
ターヤー）があったとされ、遺構との関連が窺える。区画16には「タンナファヌクシヌクムイ（玉那覇の後の溜池）」と呼ばれる集落所有の溜池（ムラグムイ）があったとされるが、明確な遺構は検出されていない。区画46の北側付近にも溜池があったとされる。

以上のほか、区画33・35・36では建物跡など屋敷地に関連する遺構が検出されているが、昭和20年航空写真や屋号図では耕作地となっており、ある時期に屋敷地から耕作地となったと考えられる。

遺物　当該時期の遺構からは、沖縄産陶器や本土産陶磁器や瓦を中心に、近世～近代の遺物が多量に出土した。区画1～46及び道1～9における遺物の出土状況を示す（第130・131図）。各区画では、区画4が最も多く、次に区画13、2、39と続く。全体的な傾向としては、屋敷地とした区画での遺物の出土量が多く、耕作地とした区画は出土量が少ない。なお、耕作地では区画17・29は突出して多いが、屋敷地とした区画26・27に隣接していることによる可能性がある。道においては、主要道路とした道1～3・7・8では多く、農道とした道4～6・9は出土量が少ない傾向が認められた。



第130図　区画1～46　遺物出土状況



第131図　道1～9　遺物出土状況

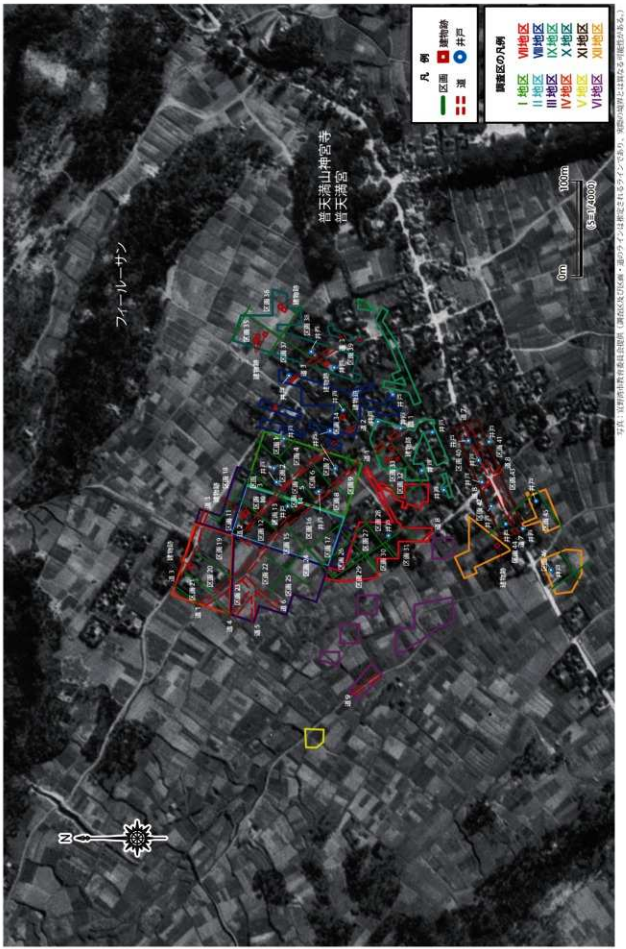
まとめ　普天間古集落は、屋敷地が碁盤目状（格子状）に区切られた道路網を持つ碁盤目型集落であり、高原三郎氏はこのような集落形態を「南島式村落」と呼称している（高原 1939a・b）。集落における碁盤目状区画の導入は、1737年に施行された地割制によるものとされており（仲松 1963）、そこからは首里王府の施策を地域の末端まで及ぼそうとした姿勢が窺える（山本 2016）。

普天間では、古くからの集落は「ムラウチ」と呼ばれ、「ムラウチ」は道1を中心として、西側は「メンダカリ（前村渠）」、東側は「クシンダカリ（後村渠）」として分かれていた。そして普天満宮の付近は「ミヤマエ（宮前）」と呼ばれ、官公庁が多く交通の要所であったため商業施設が多くあり、宜野湾村における商業地の一つとして栄えた。

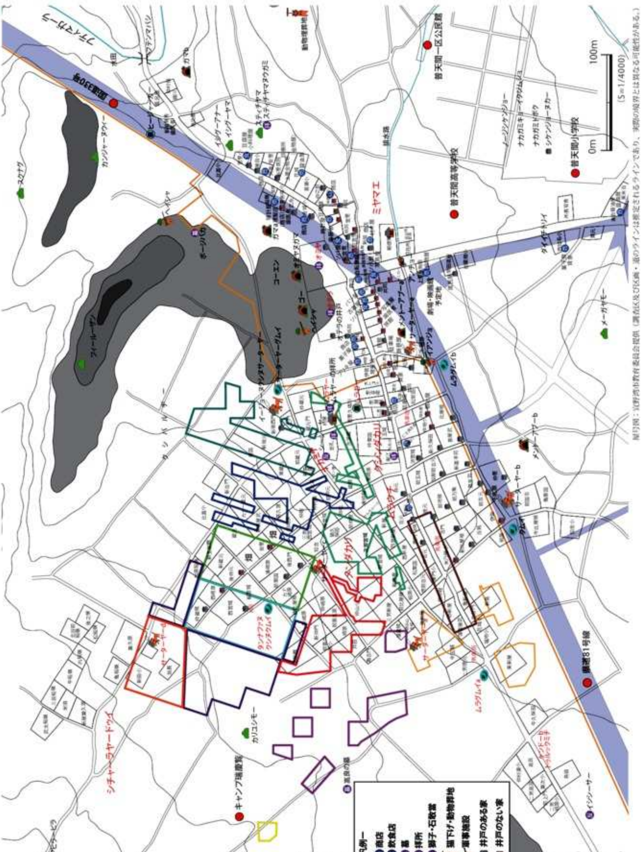
戦後、「ムラウチ」をはじめとした普天間古集落の大部分はキャンプ瑞慶覧に接収され、普天間の住民は住居や耕作地を取り上げられるとともに、往時の集落景観は失われ、故郷を奪われる形となった。

今回の発掘調査により確認された遺構や遺物からは、縄文時代からグスク時代を経て近世～近代に至る普天間における集落の成り立ちと展開していく状況が窺え、かつての普天間古集落の様相を復元することができた。今回の調査成果が、字普天間の地域史を解明する手がかりの一つとなれば幸いである。

最後に、発掘調査及び資料整理作業に際しては、多くの方々の協力を得たとともに、指導・助言を賜った。記して感謝申し上げたい。



図版 59　昭和 20 年撮影航空写真と調査区



第 132 図　昭和 20 年普天間屋号図と調査区

参考文献

池田榮史 2003「第８章　考察　第１節　穿孔を有する滑石製石鍋破片について」『奄美大島名瀬市　小湊フワガネク遺跡群　遺跡範囲確認調査報告書』名瀬市文化財叢書４　名瀬市教育委員会

上江洲均 1973『沖縄の民具』考古民俗叢書 12　慶友社

具志堅亮 2014「グスク土器の変遷」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集

桜井準也 2006『ガラス瓶の考古学』六一書房

瀬戸哲也 2014「沖縄における 12 ～ 16 世紀の中国陶磁の様相」『琉球列島の貿易陶磁』日本貿易陶磁研究会

瀬戸哲也・仁王浩司・玉城靖・宮城弘樹・安座間亮・松原哲志 2007「沖縄における貿易陶磁研究－ 14 ～ 16 世紀を中心に－」『沖縄理文研究』５　沖縄県立理蔵文化財センター

高原三郎 1939a「沖縄縣下の集落」『地理学』第７巻第７號　古今書院

1939b「沖縄縣下の集落（二）」『地理学』第７巻第８號　古今書院

高橋誠一 2003「第４章　沖縄格子状集落に関する予察的考察」『琉球の都市と村落』関西大学東西学術研究所

竹田　且 1976「祖先祭祀－とくに位牌祭祀について－」『沖縄－自然・文化・社会－』九学会連合沖縄調査委員会

1994「東アジアにおける位牌の祭り」『トートーメーと祖先崇拝－東アジアにおける位牌祭祀の比較－』沖縄国際大学南島文化研究所

鶴藤鹿忠 1985『琉球地方の民家』明玄書房

仲宗根求 2003「読谷村発見のグスク時代の掘立柱建物跡について」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 27 号　読谷村立歴史民俗資料館

仲松弥秀 1963「沖縄の集落と土地制度」『琉球大学文理学部紀要』第７号　琉球大学文理学部

1977『古層の村・沖縄民俗文化論』沖縄タイムス社

渡平エリ子 2010『トートーメーの民俗学講座　沖縄の門中と位牌祭祀』ボーダーインク

西川寿勝 2007「陶杯考（前編）－軍杯の考古学－」『大阪文化財研究』第 32 号　財団法人大阪府文化財センター

2008「陶杯考（後編）－軍杯の考古学－」『大阪文化財研究』第 33 号　財団法人大阪府文化財センター

早坂優子 2000『日本・中国の文様事典』視覚デザイン研究所編

平敷令治 1994「沖縄の位牌祭祀」『トートーメーと祖先崇拝－東アジアにおける位牌祭祀の比較－』沖縄国際大学南島文化研究所

1995『沖縄の祖先祭祀』第一書房

1998「南島民俗宗教への誘い－南島の祖先祭祀－」『南島文化への誘い　沖縄国際大学公開講座７』沖縄国際大学公開講座委員会

又吉真三 1983「穴屋」『沖縄大百科事典』上巻　沖縄タイムス社

宮城弘樹 2006「沖縄諸島におけるグスク時代建物の分類」『鹿友会誌』第２号　鹿友会

2014「貿易陶磁出現期の琉球列島における土器文化」『琉球列島の土器・石器・貝製品・骨製品文化』琉球列島先史・原史時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究第１集　六一書房

宮城弘樹・具志堅亮 2007「中世並行期における南西諸島の在地土器の様相」『鹿友会誌』第３号　鹿友会

宮城弘樹・玉城靖・仲宗根求 2007「グスク時代の建物跡集成」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第 31 号　読谷村歴史民俗資料館

森田　勉 1982「14 ～ 16 世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』№２　日本貿易陶磁研究会

山崎真治 2016「沖縄諸島における先史時代の竪穴住居と集落に関する一試論」『南島考古』第 35 号　沖縄考古学会

山本正昭 2016「琉球列島における集落形態の変遷とその要因に関する考察－中世相当期から近世期にかけての集落遺跡－」『南島史学』第 84 号　南島史学会

天城町教育委員会 1999『塔原遺跡（２）　－県営畑地帯総合土地改良事業（天城南部地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』天城町埋蔵文化財発掘調査報告書（２）

伊仙町教育委員会 2005『カムィヤキ古窯跡群Ⅳ　－平成 13 年度から平成 16 年度　カムィヤキ古窯跡群発掘調査等事業－』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書 12

うるま市教育委員会 2012『楚南村跡ほか－嘉手納地区（18 ～ 23）運動施設移設工事に係る文化財発掘調査－』うるま市文化財調査報告書第 17 集

2014『平敷屋トウバル遺跡－ホワイトビーチ地区燃料施設建設工事に伴う埋蔵文化財緊急発掘調査報告書－』うるま市文化財調査報告書第 22 集

沖縄県教育委員会 1992『安仁屋トゥンヤマ遺跡－下級下士官隊舎建設に伴う緊急発掘調査報告－』沖縄県文化財調査報告書第 105 集

1993『浦田古窯跡（Ⅰ）－県庁舎行政棟建設に係る発掘調査－』沖縄県文化財調査報告書第 111 集

1995『浦田古窯跡（Ⅱ）－県庁舎議会棟建設に係る発掘調査－』沖縄県文化財調査報告書第 121 集

1999『喜友名貝塚・喜友名グスク－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅰ）－』沖縄県文化財調査報告書　第 134 集

沖縄県立博物館・那覇市立壺屋焼物博物館 2011『琉球陶器の来た道：沖縄県立博物館・美術館、那覇市立壺屋焼物博物館合同企画展　図録』
沖縄県立埋蔵文化財センター 2001『首里城跡－下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡・廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第３集
2001『伊佐前原第一遺跡－宜野湾北中城線（伊佐～普天間）道路改築事業に伴う緊急発掘調査報告書（Ⅲ）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第４集
2006『西長浜原遺跡－範囲確認調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第39集
2007『渡地村跡－臨港道路那覇１号線整備に伴う緊急発掘調査報告－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第46集
2010『首里城跡－御内原北地区発掘調査報告書（Ⅰ）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第54集
2011『中城御殿跡－県営首里城公園　中城御殿跡発掘調査報告書（２）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第58集
2012『中城御殿跡－県営首里城公園　中城御殿跡発掘調査報告書（３）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第63集
2013『首里城跡－淑順門西地区・奉神門理鷹地区発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第68集
2015a『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書１－普天間古集落遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第74集
2015b『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書２－普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡・普天間下原第二遺跡・普天間石川原遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第79集
2016a『キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書３－普天間古集落遺跡－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第83集
2016b『首里城跡－銭蔵東地区発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第80集
喜界町教育委員会 2009『城久遺跡群　山田半田遺跡（山田半田Ａ遺跡・山田半田Ｂ遺跡）－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書第10集
2013a『城久遺跡群　大ウフ遺跡・半田遺跡）－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書第12集　喜界町教育委員会
2013b『城久遺跡群　半田口遺跡－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）城久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書第13集
宜野湾市教育委員会 1984『喜友名遺跡群』宜野湾市文化財調査報告書第５集
1984『洞穴』宜野湾市文化財調査報告書第６集
1985『宜野湾市史』第五巻資料編四
1987『植生』宜野湾市文化財調査報告書第９
1991『ヌパタキ－都市計画街路２－１－１号建設に係る緊急発掘調査報告－』宜野湾市文化財調査報告書第13集
1991『写真集ぎのわん』宜野湾市史別冊　宜野湾市史編集委員会
2000『宜野湾市史』第９巻資料編８　自然
2006『基地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 基地内遺跡ほか発掘調査事業－普天間飛行場基地内－野嵩タマタ原遺跡範囲確認調査・上原同原遺跡範囲確認調査・遺跡発掘事前総合調査』宜野湾市文化財調査報告書第38集
2011『普天間フィールー丘陵古墓群－平成22年度　キャンプ瑞慶覧内米海軍病院移設予定地区発掘調査報告書－』宜野湾市文化財調査報告書第48集
2012『ぎのわんの地名－内陸部編－』市民民俗芸能調査報告書
2016『瑞慶覧基地内病院地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書１』宜野湾市文化財調査報告書第51集
2017『瑞慶覧基地内病院地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書２』宜野湾市文化財調査報告書第52集
龍郷町教育委員会 2002『ウフタⅢ遺跡』龍郷町教育委員会埋蔵文化財発掘調査報告（２）
北谷町教育委員会 2012『小堀原遺跡－桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業（平成17～20年度）－』北谷町文化財調査報告書第34集　北谷町教育委員会
2016『平安山原Ａ遺跡　－桑江伊平土地区画整理事業に伴う発掘調査事業（平成19・20・22・23年度）－』北谷町文化財調査報告書第38集
名護市教育委員会 2007『屋部前田原貝塚』名護市文化財調査報告書18
名瀬市教育委員会 1984『朝仁天川遺跡』鹿児島県名瀬市埋蔵文化財発掘調査報告（１）
読谷村教育委員会 2003『ウガンヒラー北方遺跡』

第 72 表　X~XII 地区　遺物集計表

種類 ＼ 出土地		X・XI・XII 地区																					
		縄文	グスク	包含層・III層	近世〜近代の遺構																		合計
					区画35	区画35+36	区画36	区画37	区画37+38	区画38	区画39	区画40	区画41	区画42	区画43	区画44	区画45	区画46	溝3	溝7	溝8	区画外	
中国産	青磁						2			1	1	1						1	1	3			10
	白磁		3	2	11	13	5	1		2	12	6				3	1	1		7	4		71
	染付				19	19	9	3	3	8	44	28	2	1		7	5	5	12	19	5		189
	青磁染付					2																	2
	褐釉染付										1												1
	色絵								1		1												2
	瑠璃釉								1											1			2
	三彩					1																	1
	中国産褐釉					2				2		1	1						1				7
タイ産褐釉					3																		3
東南アジア産陶器					1																		1
産地不明陶器					4	3	3			1	1					1			1	1			15
本土産	陶磁器				1	7	1		2	1	14	3	3			2	1	4	1	8			48
	近代陶磁器				28	41	3	13	72	31	159	82	6	5	27	405	87	46	83	131	8	1	1228
沖縄産施釉陶器					154	205	77	61	72	147	593	342	87	9	12	105	90	60	104	365	142		2625
沖縄産無釉陶器					177	207	77	82	66	126	489	195	42	8	2	111	82	90	151	442	118	3	2438
陶質土器					27	26	7	11	14	49	205	87	21	1		6	15	12	10	105	57		653
瓦質土器					3			1		8	17	1			1	2	1	3	3	12	2		54
縄文土器		24	46	76	6	3	8			1	1	1											166
グスク土器			278	391	33		9			2	9	8	15				2				8		755
不明土器			13	6			2				1								1				23
土製品			1																				1
カムィヤキ			2	8	2	2	2	2			2		2							2			24
滑石製品			6			1																	7
石器		1	4	16	6	7	2	1	2	2	3	1	2			1		2		5	1		56
石製品					1			1		1	2									1			6
木製品											2					2		1					5
貝製品												6								4			10
骨製品																		1					1
円盤状製品					1	3	3	1	3	2	10	8				4	2	3		32	2	1	75
簪					2	1		1			4	1	1				2			2	1		15
銭貨					4						4	2				4	1	1		8	5		29
鉄製品					8	2	2	2		1	4	11		1	10	18	1	4	1	22		1	88
青銅製品					3						6	1	2	1		1	1	1	1	1		1	19
明朝系瓦					23	28	18	7	32	69	359	333	11	41	11	169	48	66	195	122	26		1578
塼										2	3								4				9
煉瓦									1	1	2	2				1	1						8
漆喰									1		2	1											4
鉄滓			9	2							1	1				2			11	4			30
石材		6	154	19	44	10	9	15	1	12	50	10	5		1	1	2		6	22	2		369
炭					1	7	1			1	11	1											22
炭化物			1																				1
焼土		3	31	1	17	18	4	1	5	21	58	1	14			2	1			5			182
マンガン						1																	1
ガラス製品					3	2			7	3	3	1		1		3	4	1	1	2		5	36
人形																				1			1
プラスチック製品					1							2			1					1			5
ゴム製品											1												1
セメント																3			3				6
タイル										1						1							2
合計		34	548	521	583	611	244	173	283	515	2075	1137	214	68	65	854	347	302	590	1328	381	12	10885

報告書抄録

ふりがな	きゃんぷずけらんないびょういんちくにかかるぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ
書名	キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書 4
副書名	普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡
巻次	—
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第90集
編著者名	具志堅清大　南勇輔　太田樹也
編集機関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所在地	〒903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193-7　TEL　098-835-8752
発行年月日	平成29(2017)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
ふてんまこしせき 普天間古集落遺跡	おきなわけんぎのわんし 沖縄県宜野湾市ふてんま 普天間	472051	—	26° 17′ 37″	127° 46′ 26″	2012.08.29～ 2013.03.28 2013.09.12～ 2014.02.07	12,010㎡ X地区： 4,700㎡、 XI地区： 3,310㎡、 XII地区： 4,000㎡	記録保存調査
ふてんまあとばら 普天間後原第二遺跡				26° 17′ 40″	127° 46′ 30″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
普天間古集落遺跡	集落	縄文時代	大型土坑	土器、石器	
普天間後原第二遺跡		グスク時代	掘立柱建物跡、柵列、土坑、ピット	土器、カムイヤキ、白磁、滑石製品、土製品	グスク時代初期の掘立柱建物跡が複数検出。
		近世～近代	建物跡、土坑、溝跡、道跡、井戸、方形石組遺構、桝状遺構、窯跡、壕跡	中国産陶磁器、本土産陶磁器、沖縄産陶器、土器、石器、石製品、木製品、円盤状製品、煙管、銭貨、青銅製品、鉄製品、瓦、ガラス製品、石材、貝類・脊椎動物遺体など	これまでの調査で確認された屋敷や畑等の区画に連結する、新たな区画・道跡を確認。

要約

米軍の病院建設に伴う記録保存調査を行った結果、縄文時代、グスク時代及び近世～近代の遺構や遺物を確認した。縄文時代の遺構は、落とし穴の可能性が考えられる大型土坑が検出された。グスク時代の遺構は、普天間後原第二遺跡の範囲では掘立柱建物跡が一定の軸で揃うかたちで多数検出され、集落における建物配置の様相が窺える。近世～近代では普天間古集落における屋敷や畑等の区画を示す溝跡や道跡をはじめとして、建物跡、土坑、方形石組遺構、井戸、窯跡、炉跡、壕跡など様々な遺構が見つかった。また、出土遺物は、沖縄産陶器を主体として、生活用品を中心に様々なものがみられた。今回の発掘調査によって、字普天間における縄文時代から近代までに至る集落の展開を考える上で重要な成果が得られた。

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第 90 集

キャンプ瑞慶覧内病院地区に係る文化財発掘調査報告書 4

－普天間古集落遺跡・普天間後原第二遺跡－

発行年　平成 29（2017）年 3 月
発　行　沖縄県立埋蔵文化財センター
編　集　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒 903-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7
TEL　098（835）8751・8752
印　刷　彩優印刷
〒 901-1115　沖縄県南風原町字山川 21 番地
TEL　098（889）8997